

男女共同参画意識に関する市民アンケート 調査結果報告書

令和2年3月
稲沢市

目次

【I 調査の概要】	1
1 調査の目的	1
2 調査対象及び調査方法	1
3 調査票の回収状況	1
4 報告書の見方	1
【II 総括】	2
1 男女平等の意識について	2
分野別の男女の地位	2
あらゆる分野で平等になるために重要なこと	2
2 家庭生活について	2
「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」に対する立場	2
家事の分担	3
男性の家事・子育てへのイメージ	3
男性の家庭・地域参加に必要なこと	3
3 女性の活躍について	3
女性が増える方がよいと思う職業や役職	3
政治・行政分野で女性の参画が進んでいない理由	3
女性が職業を持つことについての考え方	4
女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なこと	4
女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと	4
4 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について	4
「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の希望と現状	4
5 ドメスティック・バイオレンス（DV）や性的少数者などについて	5
ドメスティック・バイオレンスに関して知っていること	5
DVに関する相談窓口	5
DV・セクハラ・性犯罪・売買春などを防止するために必要なこと	5
性的少数者に関して知っていること	5
性的少数者にとって暮らしやすい社会	5
6 男女共同参画行政について	6
「男女共同参画社会」に関する言葉で知っているもの	6
男女共同参画社会推進のために行政が力を入れていくべきこと	6
7 回答者自身のことについて	6
回答者の属性	6
職業	6
婚姻状況	6
家族構成	6
【III 調査結果】	7
1 男女平等の意識について	7

分野別の男女の地位	7
A 家庭生活（家事・育児・介護など）	8
B 職場（採用・処遇・労働環境など）	9
C 学校教育の場	10
D 地域活動の場	11
E 政治の場	12
F 法律や制度面	13
G 社会通念・慣習・しきたりなど	14
H 社会全体として	15
あらゆる分野で平等になるために重要なこと	16
2 家庭生活について	18
「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」に対する立場	18
「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」に賛成の理由	19
「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」に反対の理由	21
家事の分担	23
A 食事のしたく	24
B 食事の後片付け・食器洗い	25
C 掃除	26
D 洗濯	27
E 買い物	28
F 子育て（子どもの世話・教育など）	29
G 介護（親の世話・病人の介護など）	30
H 家計の管理	31
男性の家事・子育てへのイメージ	32
男性の家庭・地域参加に必要なこと	34
3 女性の活躍について	37
女性が増える方がよいと思う職業や役職	37
政治・行政分野で女性の参画が進んでいない理由	39
女性が職業を持つことについての考え方	40
女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なこと	41
女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと	43
4 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について	45
「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の希望と現状	45
5 ドメスティック・バイオレンス（DV）や性的少数者などについて	49
ドメスティック・バイオレンスに関して知っていること	49
DVに関する相談窓口の認知	51
知っている相談窓口	52
DV・セクハラ・性犯罪・売買春などを防止するために必要なこと	54
性的少数者に関して知っていること	56
性的少数者にとっての現在の社会の暮らしやすさ	58

性的少数者が暮らしやすい社会をつくるために必要な取組	59
6 男女共同参画行政について	61
「男女共同参画社会」に関する言葉で知っているもの	61
男女共同参画社会推進のために行政が力を入れていくべきこと	62
7 回答者自身のことについて	65
性別	65
年齢	65
居住地区	66
職業	67
婚姻状況	68
家族構成	69

【 I 調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、平成28年度に策定しました「いなざわ男女共同参画プランⅡ（第2次中間改訂）」の進捗状況を確認するとともに、次期計画を策定するため、市民の皆様の意識やお考えをお聞きし、今後の施策を検討する上での基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査対象及び調査方法

①調査地域

- ・ 稲沢市内

②調査対象者

- ・ 18歳以上で稲沢市にお住まいの方（令和元年11月1日現在）
- ・ 2,500人（無作為抽出）

③調査期間

- ・ 令和元年12月16日から令和2年1月17日まで

④調査方法

- ・ 郵送配布・郵送回収

⑤調査実施機関

- ・ 稲沢市役所 市長公室 地域協働課

3 調査票の回収状況

配布数	2,500 件
有効回収数	1,286 件
有効回収率	51.4%

4 報告書の見方

- ・ グラフ・表中の「n」はアンケートの有効回収数を示しています。
- ・ 比率はすべて百分率（%）で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100.0%にならない場合もあります。
- ・ 複数回答の場合、回答の合計比率が100.0%を超える場合があります。
- ・ グラフ・表として示したもののうち、無回答が0の場合は「無回答」の表示を省略しています。また、選択肢の文章を簡略化してある場合もあります。
- ・ 性別における「答えたくない」は回答者が少ないため、参考として掲載しています。
- ・ 本報告書内の「前回調査」は「稲沢市男女共同参画社会づくり市民意識調査（平成26年11月及び12月調査）」、「全国調査」は「男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年9月調査）」のことを指しています。

【Ⅱ 総括】

1 男女平等の意識について

分野別の男女の地位

“男性優遇”（「男性の方が優遇されている」＋「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」）が【E 政治の場】で78.9%、【G 社会通念・慣習・しきたりなど】で74.5%、【H 社会全体として】で74.3%と、他分野に比べて高くなっています。

一方で、【C 学校教育の場】では「対等・平等」が53.0%と、過半数を占めています。

【前回調査との比較】

【B 職場】を除いて、“男性優遇”が前回より高くなっています。なかでも【A 家庭生活】で“男性優遇”68.2%と、前回よりも19.8ポイント高くなっています。

性別でみると、いずれの分野も女性で“男性優遇”が男性より高くなっています。なかでも、【F 法律や制度面】（15.5ポイント差）、【A 家庭生活（家事・育児・介護など）】（13.3ポイント差）、【D 地域活動の場】（11.6ポイント差）で、その差は大きくなっています。

【全国調査との比較】

いずれの分野も、稲沢市より全国で「対等・平等」が高くなっています。なかでも、【B 職場（採用・処遇・労働環境など）】（15.0ポイント差）、【D 地域活動の場】（12.4ポイント差）で、その差は大きくなっています。

あらゆる分野で平等になるために重要なこと

全体で「女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める」が56.8%と最も高く、次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」が44.6%となっています。

性別でみると、女性で「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」が50.7%と、男性より14.8ポイント高くなっています。

2 家庭生活について

「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」に対する立場

“賛成”（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）は35.7%、“反対”（「反対」＋「どちらかといえば反対」）は52.3%となっています。

性別でみると、男性で「どちらかといえば賛成」が36.9%、女性で「どちらかといえば反対」が32.5%と、それぞれ最も高くなっています。

【全国調査との比較】

全国で“反対”が59.8%と、稲沢市より7.5ポイント高くなっています。

家事の分担

【F 子育て（子どもの世話・教育など）】と【G 介護（親の世話・病人の介護など）】を除いて、「妻」が5割以上となっています。なかでも、【A 食事のしたく】が81.6%と最も高く、次いで【D 洗濯】が73.9%となっています。

【前回調査との比較】

いずれの項目も「妻」が前回より低くなっています。なかでも【C 掃除】で「妻」が59.2%と、前回よりも9.6ポイント低くなっています。

性別でみると、【H 家計の管理】を除いて、男性で「夫婦」、女性で「妻」がそれぞれ異性より高くなっています。なかでも【E 買い物】で、女性で「妻」が60.6%と、男性より20.1ポイント高くなっています。

男性の家事・子育てへのイメージ

全体で「男性も家事、育児を行うことは当然である」が60.1%と最も高く、次いで「子どもにいい影響を与える」が60.0%となっています。

性別でみると、女性で「子どもにいい影響を与える」が66.7%と、男性より16.6ポイント高くなっています。一方で、男性で「家事、子育ては女性の方が向いている」が22.1%と、女性より8.9ポイント高くなっています。

男性の家庭・地域参加に必要なこと

全体で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が65.3%と最も高く、次いで「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が55.7%となっています。

性別でみると、女性で「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が59.5%と、男性より14.3ポイント高くなっています。

3 女性の活躍について

女性が増える方がよいと思う職業や役職

全体で「国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員」が51.6%と最も高く、次いで「企業の管理職」が44.0%、「弁護士・医師などの専門職」が40.4%となっています。

性別でみると、女性で「弁護士・医師などの専門職」が44.4%と、男性より10.2ポイント高くなっています。

政治・行政分野で女性の参画が進んでいない理由

全体で「男性優位の組織運営」が67.5%と最も高く、次いで「家庭、職業、地域における性別役割分担、性差別の意識」が44.2%、「家庭の支援、協力が得られない」が37.5%となっています。

性別でみると、女性で「家庭の支援、協力が得られない」が43.1%と、男性より14.0ポイント高くなっています。

女性が職業を持つことについての考え方

全体で「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が48.6%と最も高く、次いで「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が27.4%となっています。

性別で見ると、女性で「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が50.5%と、男性より4.5ポイント高くなっています。

【全国調査との比較】

全国で「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が61.0%と、稲沢市より12.4ポイント高くなっています。

女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なこと

全体で「保育所や放課後児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が81.8%と最も高く、次いで「男性の家事参加への理解・意識改革」が54.7%となっています。

性別で見ると、女性で「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」(51.2%)が12.8ポイント、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」(58.3%)が12.3ポイント、それぞれ男性より高くなっています。

女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと

女性が地域活動のリーダーになるために必要なことは、全体で「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が49.8%と最も高く、次いで「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」が38.9%となっています。

4 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の希望と現状

希望は、全体で「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』の3つとも大切にしたい」が28.5%と最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が26.7%となっています。

現状は、全体で「『家庭生活』を優先している」が24.9%と最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が21.5%となっています。

性別で見ると、男性の現状で「『仕事』を優先している」が30.3%と、男性の希望より22.3ポイント高くなっています。また、女性の希望で「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』の3つとも大切にしたい」が30.4%と、女性の現状より20.1ポイント高くなっています。

【全国調査との比較】

稲沢市の希望では「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』の3つとも大切にしたい」が28.5%、全国の希望では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が28.7%と、それぞれ最も高くなっています。

現状では、稲沢市と全国ともに「『家庭生活』を優先している」が最も高くなっています。

5 ドメスティック・バイオレンス（DV）や性的少数者などについて

ドメスティック・バイオレンスに関して知っていること

全体で「配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる『ドメスティック・バイオレンス（DV）』と呼ぶこと」が86.5%と最も高く、次いで「DVには、殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれること」が85.2%となっています。

性別でみると、女性で「県や名古屋市が設置している配偶者暴力相談支援センターにおいて、相談や被害者の一時保護を行っていること」が35.6%と、男性より8.2ポイント高くなっています。

DVに関する相談窓口

DVに関する相談窓口を知っているかについては、全体で「知っている」が51.4%、「知らない」が42.3%となっています。

知っている相談窓口は、全体で「警察」が85.3%と最も高く、次いで「市役所、町村役場」が47.2%となっています。

DV・セクハラ・性犯罪・売買春などを防止するために必要なこと

全体で「法律・制度の面で見直しを行う（罰則の強化など）」と「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」がともに52.3%と最も高く、次いで「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいようにする」が49.7%となっています。

性別でみると、女性で「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいようにする」（56.0%）が16.0ポイント、「加害者に対するカウンセリングや更生を促すプログラムを実施する」（31.5%）が10.5ポイント、「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」（56.2%）が9.2ポイント、男性より高くなっています。

性的少数者に関して知っていること

全体で「性的少数者を表す言葉のうち、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの人を、それぞれの頭文字をとり、『LGBT』というものがあること」が71.5%と最も高く、次いで「本人が、公にしていなかった性的指向や性自認を表明することを『カミングアウト』と呼ぶこと」が54.4%となっています。

性別でみると、女性で「本人が、公にしていなかった性的指向や性自認を表明することをカミングアウトと呼ぶこと」が61.2%と、男性より15.8ポイント高くなっています。

性的少数者にとって暮らしやすい社会

性的少数者の方たちにとって、現在の社会は暮らしやすいと思うかについて、全体で「暮らしやすいと思わない」が36.3%と最も高く、次いで「あまり暮らしやすいとは思わない」が34.4%となっています。

性的少数者が暮らしやすい社会をつくるために必要な取組は、全体で「社会制度の見直し（同性婚を認める、パートナーシップ制度を設ける）」が51.5%と最も高く、次いで「教育現場での啓発活動（LGBTに関する授業や講演会）」が44.3%となっています。

6 男女共同参画行政について

「男女共同参画社会」に関する言葉で知っているもの

全体で「男女雇用機会均等法」が58.6%と最も高く、次いで「男女共同参画社会」が39.0%となっています。また、「知らない」が31.1%となっています。

男女共同参画社会推進のために行政が力を入れていくべきこと

全体で「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が57.1%と最も高く、次いで「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」と55.8%となっています。

性別で見ると、女性で「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」(60.3%)が9.6ポイント、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」(49.9%)が8.0ポイント、「労働時間の短縮や在宅勤務、柔軟な労働時間制度など、男性も含めた働き方の見直しを進める」(53.6%)が7.6ポイント、男性より高くなっています。

【全国調査との比較】

全国では「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が58.0%と最も高く、次いで「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が57.8%となっています。また、全国で「女性や男性の生き方に関する情報提供や相談などの場を充実する」が28.6%と、稲沢市より15.3ポイント高くなっています。

7 回答者自身のことについて

回答者の属性

性別は、全体で「男性」が40.0%、「女性」が57.9%、「答えたくない」が1.3%となっています。

年齢は、全体で「60歳代」が20.9%と最も高く、次いで「70歳代」が20.7%となっています。

居住地区は、全体で「稲沢市民センター地区」が21.6%と最も高く、次いで「祖父江支所地区」が14.2%となっています。

職業

「雇用者（常勤）」が31.2%と最も高く、次いで「雇用者（非常勤（パート、アルバイト）」が21.8%、「無職」が17.2%、「専業主婦、専業主夫」が14.9%となっています。

性別で見ると、男性は「雇用者（常勤）」が47.4%と最も高く、次いで「無職」が26.0%となっています。一方で、女性は「雇用者（非常勤（パート、アルバイト）」が31.0%と最も高く、次いで「専業主婦、専業主夫」が25.5%となっています。

婚姻状況

全体で「結婚している（事実婚を含む）」が71.4%、「結婚していたが、離別・死別した」が8.2%、「結婚していない」が19.2%となっています。

家族構成

全体で「2世代世帯（親と子）」が51.4%と最も高く、次いで「1世代世帯（夫婦のみ）」が23.7%、「3世代世帯（親と子と孫）」が14.5%となっています。

【Ⅲ 調査結果】

1 男女平等の意識について

問1 あなたは、次にあげる分野で、男女の地位は対等・平等になっていると思いますか。
 (AからHについてそれぞれ○をひとつ)

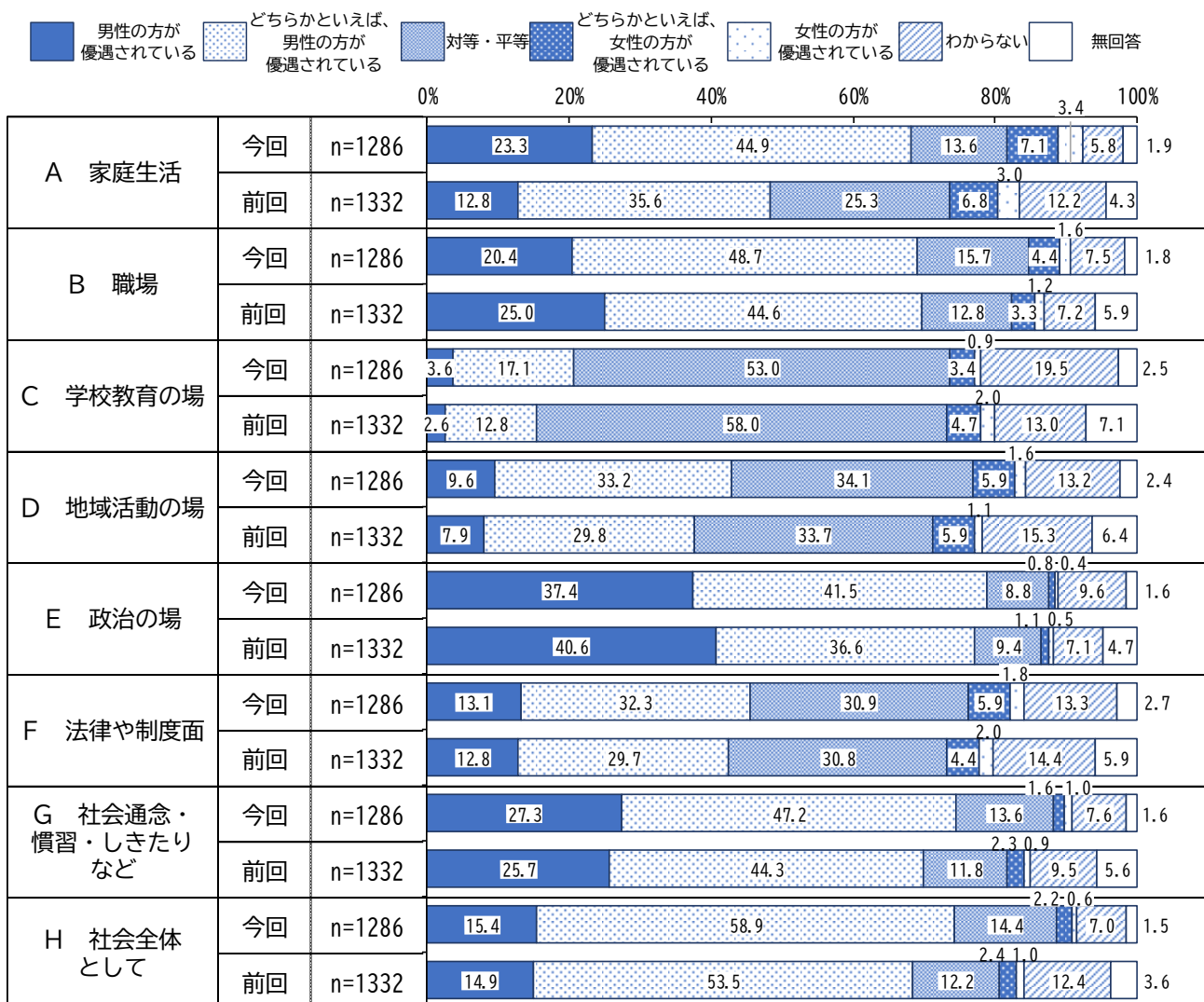
◆ 問1の選択肢にかかる表現は以下のように区別しており、このページ以降の文中においても反映されています。

- ・“男性優遇”＝「男性の方が優遇されている」＋「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」
- ・“女性優遇”＝「女性の方が優遇されている」＋「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」

分野別の男女の地位

- 分野別の男女の地位は、【E 政治の場】、【G 社会通念・慣習・しきたりなど】、【H 社会全体として】で“男性優遇”が7割以上となっています。
- 前回調査と比較をすると、【B 職場】を除いて、“男性優遇”が前回より高くなっています。なかでも【A 家庭生活】で“男性優遇”が19.8ポイント、前回よりも高くなっています。

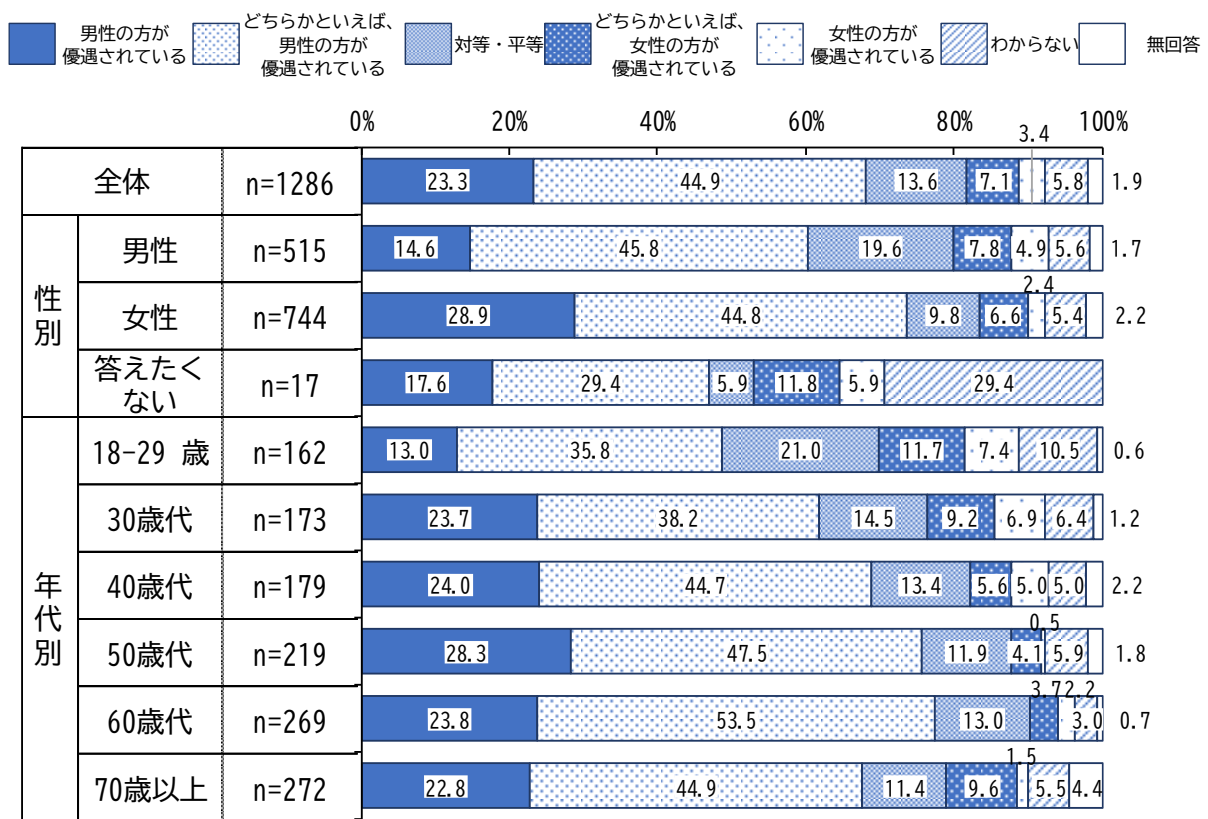
図表1 分野別の男女の地位（前回調査との比較）



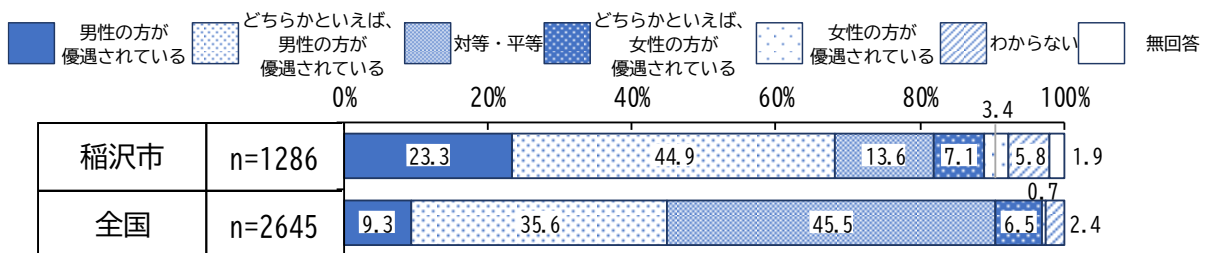
A 家庭生活（家事・育児・介護など）

- 家庭生活では、全体で「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」が44.9%と最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」(23.3%)、「対等・平等」(13.6%)となっています。
- 性別では、女性で「男性の方が優遇されている」が14.3ポイント、男性で「対等・平等」が9.8ポイント、それぞれ異性より高くなっています。
- 年代別では、18-29歳から60歳代にかけて、年代が上がるにつれて「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」が高くなっており、60歳代では53.5%となっています。また、50歳代と60歳代で“男性優遇”が7割以上となっています。
- 全国調査と比較すると、全国で「対等・平等」が31.9ポイント、稲沢市より高くなっています。一方で、稲沢市で“男性優遇”が23.3ポイント、全国より高くなっています。

図表 2 A 家庭生活（家事・育児・介護など）（全体・性別・年代別）



図表 3 A 家庭生活（家事・育児・介護など）（全国調査との比較）

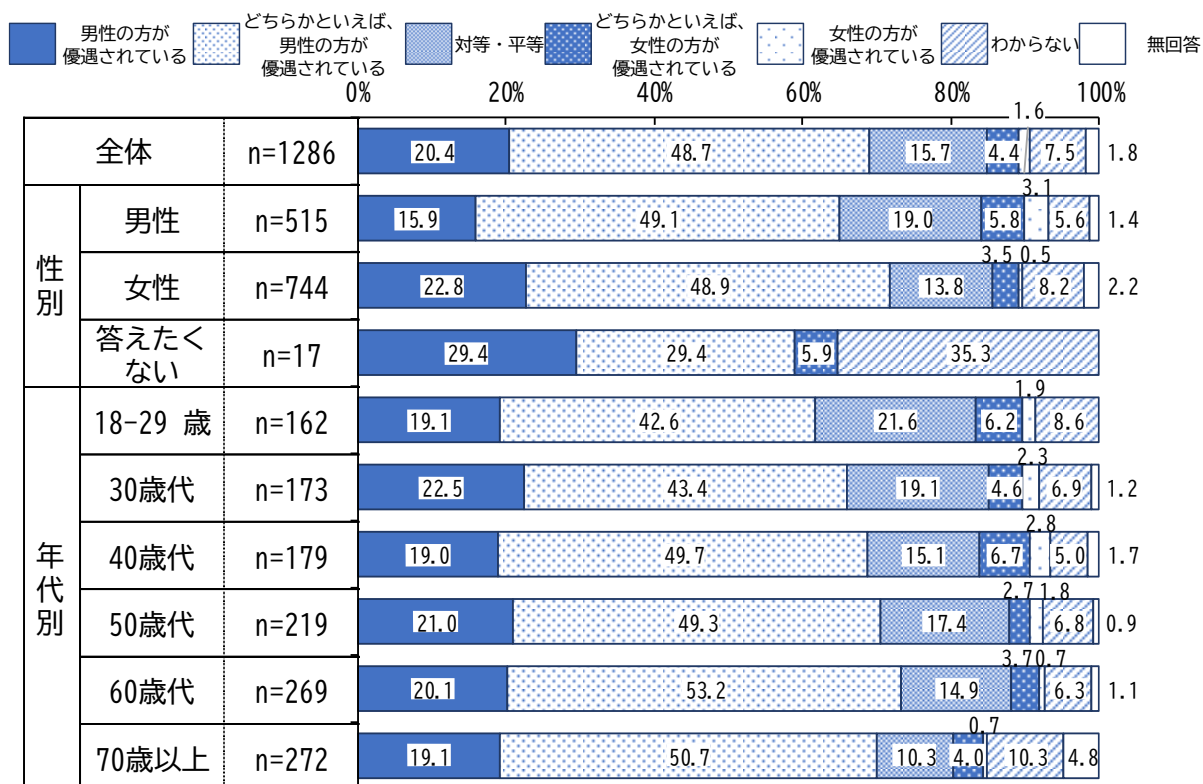


※全国調査の選択肢は「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「平等」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」、「わからない」となっています。

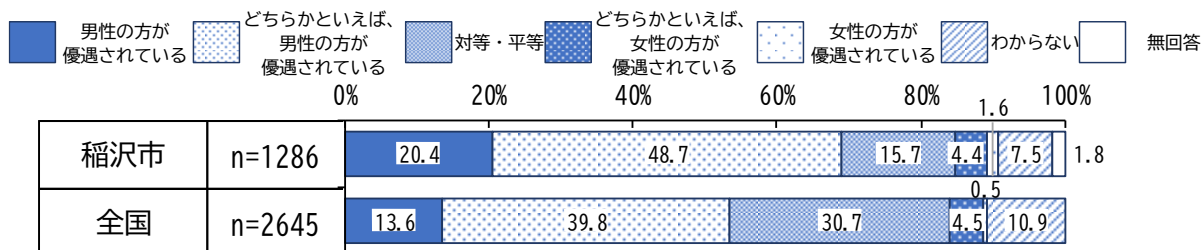
B 職場（採用・処遇・労働環境など）

- 職場では、全体で「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」が48.7%と最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」(20.4%)、「対等・平等」(15.7%)となっています。
- 性別では、女性で「男性の方が優遇されている」が6.9ポイント、男性で「対等・平等」が5.2ポイント、それぞれ異性より高くなっています。
- 年代別では、18-29歳から60歳代にかけて、年代が上がるにつれて“男性優遇”が高くなっています。なかでも、50歳代と60歳代は7割以上となっています。
- 全国調査と比較すると、稲沢市で“男性優遇”が15.7ポイント、全国より高くなっています。一方で、全国で「対等・平等」が15.0ポイント、稲沢市より高くなっています。

図表 4 B 職場（採用・処遇・労働環境など）（全体・性別・年代別）



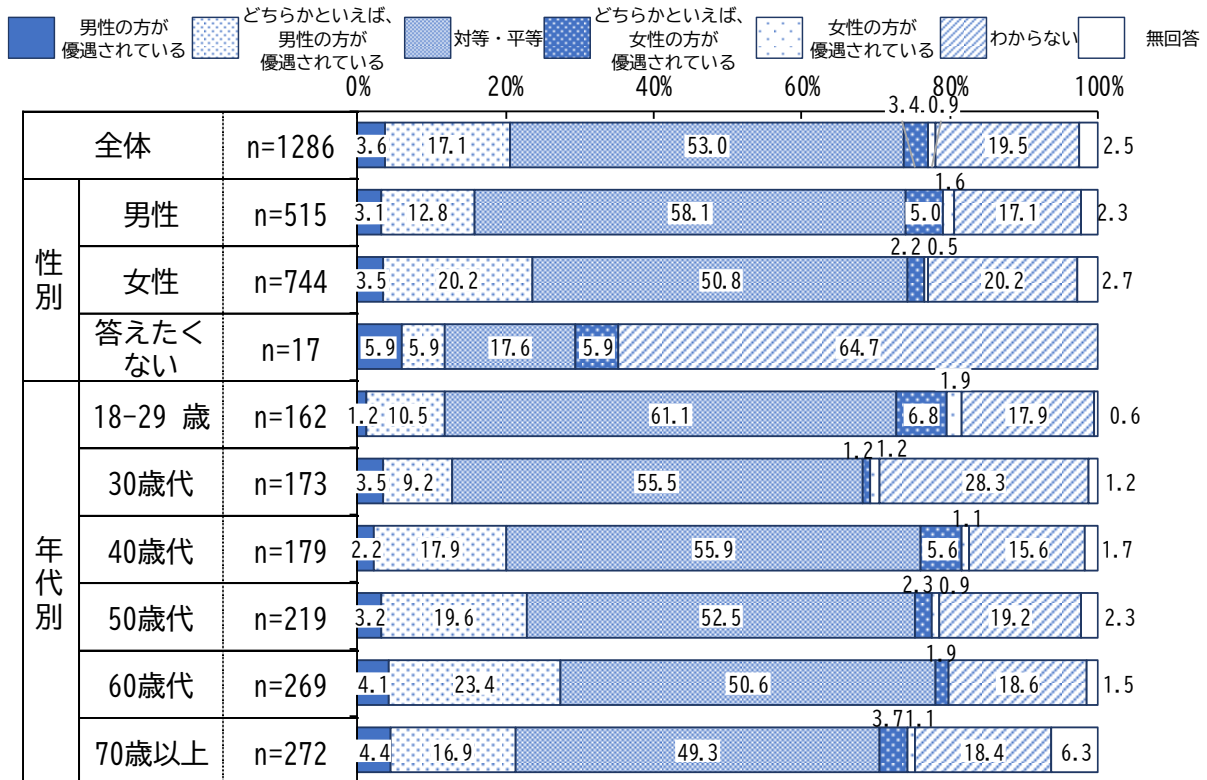
図表 5 B 職場（採用・処遇・労働環境など）（全国調査との比較）



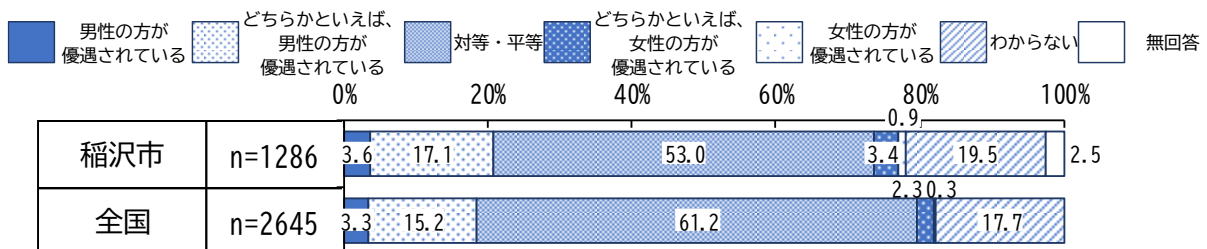
C 学校教育の場

- 学校教育では、全体で「対等・平等」が53.0%と最も高く、次いで「わからない」(19.5%)、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」(17.1%)となっています。
- 性別では、女性で「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」が7.4ポイント、男性で「対等・平等」が7.3ポイント、それぞれ異性より高くなっています。
- 年代別では、いずれの年代でも「対等・平等」が最も高くなっており、なかでも18-29歳は61.1%となっています。また、40歳代から70歳以上では、「男性優遇」が2割以上となっています。
- 全国調査と比較すると、全国で「対等・平等」が8.2ポイント、稲沢市より高くなっています。

図表 6 C 学校教育 (全体・性別・年代別)



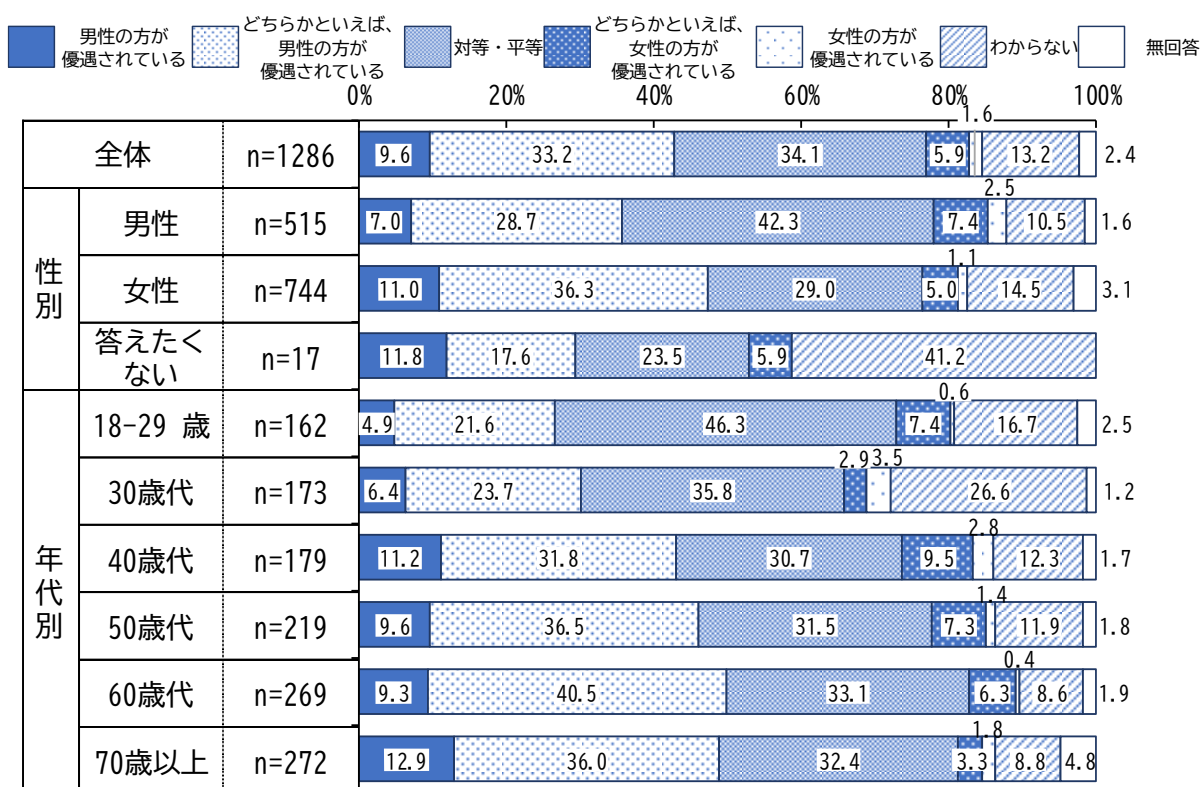
図表 7 C 学校教育 (全国調査との比較)



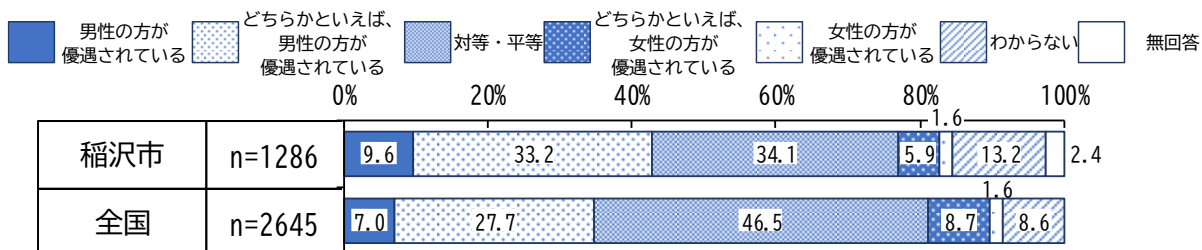
D 地域活動の場

- 地域活動の場では、全体で「対等・平等」が34.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」(33.2%)、「わからない」(13.2%)となっています。
- 性別では、男性で「対等・平等」が13.3ポイント、女性で“男性優遇”が11.6ポイント、それぞれ異性より高くなっています。
- 年代別では、40歳代から70歳以上で“男性優遇”が4割以上となっています。また、18-29歳で「対等・平等」が46.3%と、他の年代より10ポイント以上高くなっています。
- 全国調査と比較すると、全国で「対等・平等」が12.4ポイント、稲沢市より高くなっています。一方で、稲沢市で“男性優遇”が8.1ポイント、全国より高くなっています。

図表 8 D 地域活動の場 (全体・性別・年代別)



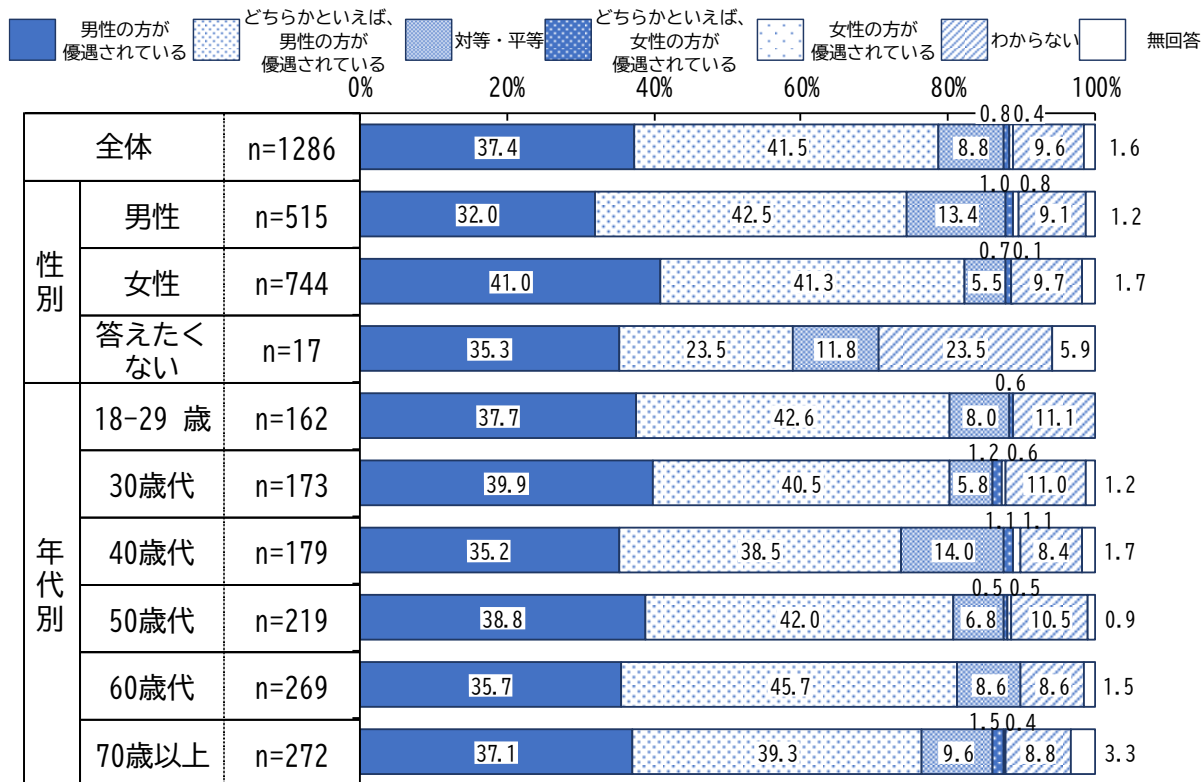
図表 9 D 地域活動の場 (全国調査との比較)



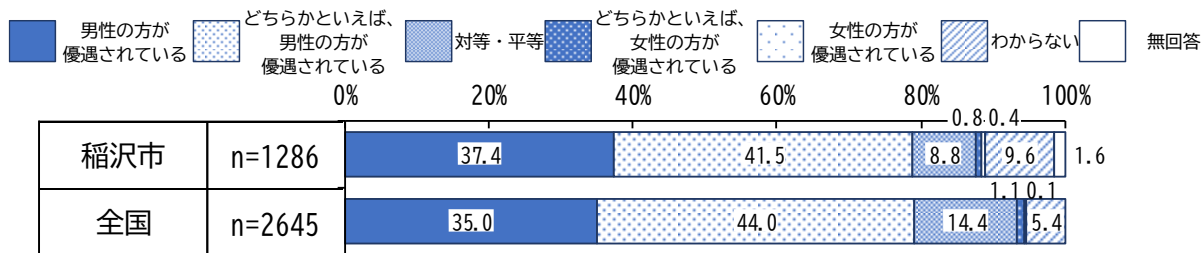
E 政治の場

- 政治の場では、全体で「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」が41.5%と最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」(37.4%)となっています。
- 性別では、女性で「男性の方が優遇されている」が9.0ポイント、男性で「対等・平等」が7.9ポイント、それぞれ異性より高くなっています。
- 年代別では、40歳代と70歳以上を除いて、“男性優遇”が約8割となっています。
- 全国調査と比較すると、全国で「対等・平等」が5.6ポイント、稲沢市より高くなっています。

図表 10 E 政治の場 (全体・性別・年代別)



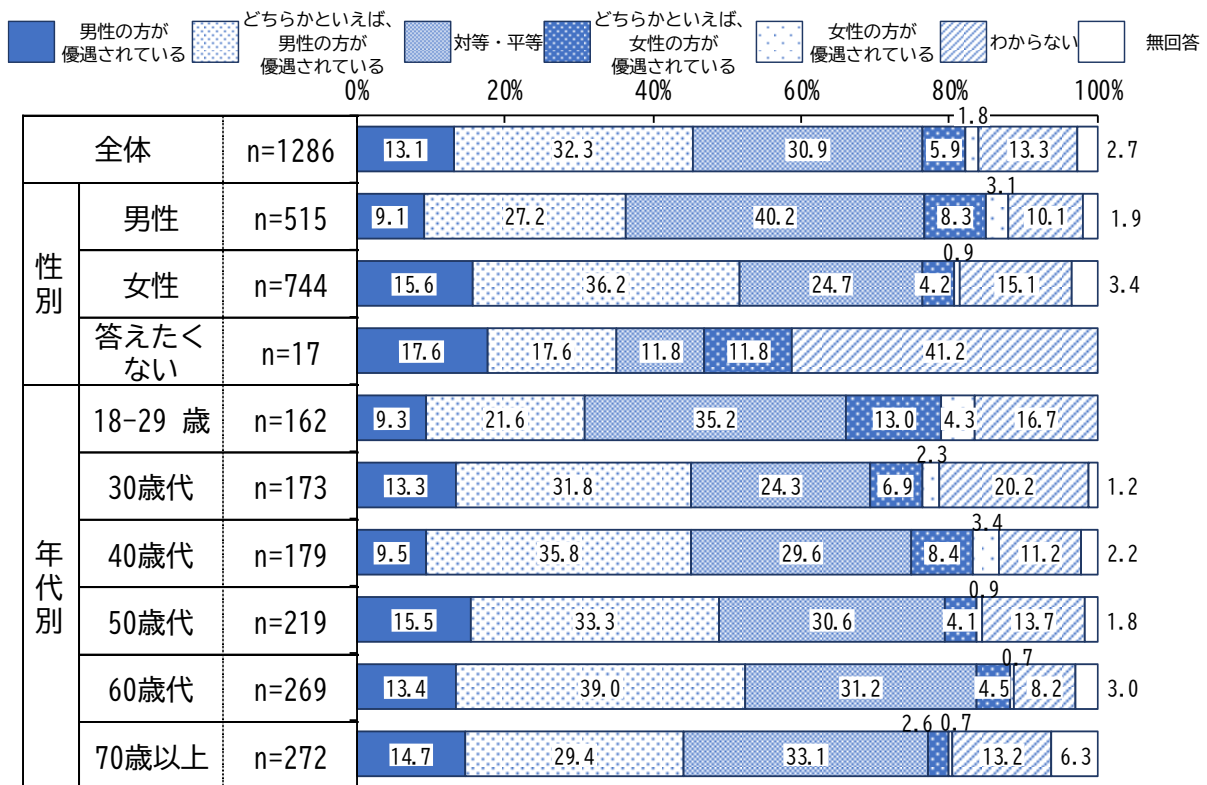
図表 11 政治の場 (全国調査との比較)



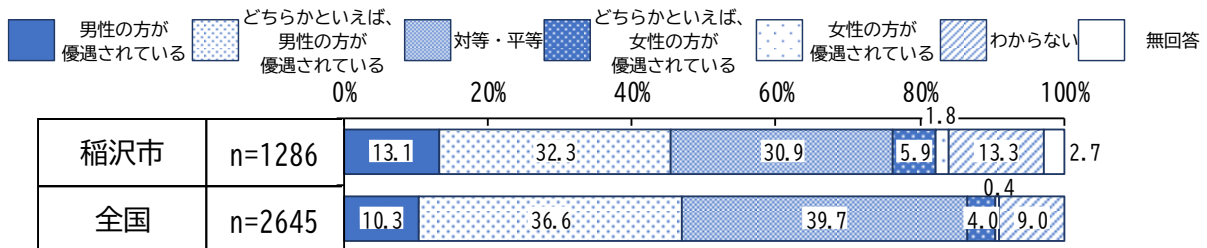
F 法律や制度面

- 法律や制度面では、全体で「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」が 32.3%と最も高く、次いで「対等・平等」(30.9%)、「わからない」(13.3%)、「男性の方が優遇されている」(13.1%)となっています。
- 性別では、女性で“男性優遇”が 15.5 ポイント、男性で「対等・平等」が 15.5 ポイント、それぞれ異性より高くなっています。
- 年代別では、70歳以上を除いて、年代が上がるにつれて“男性優遇”が高くなっており、60歳代は 52.4%となっています。
- 全国調査と比較すると、全国で「対等・平等」が 8.8 ポイント、稲沢市より高くなっています。

図表 12 F 法律や制度面（全体・性別・年代別）



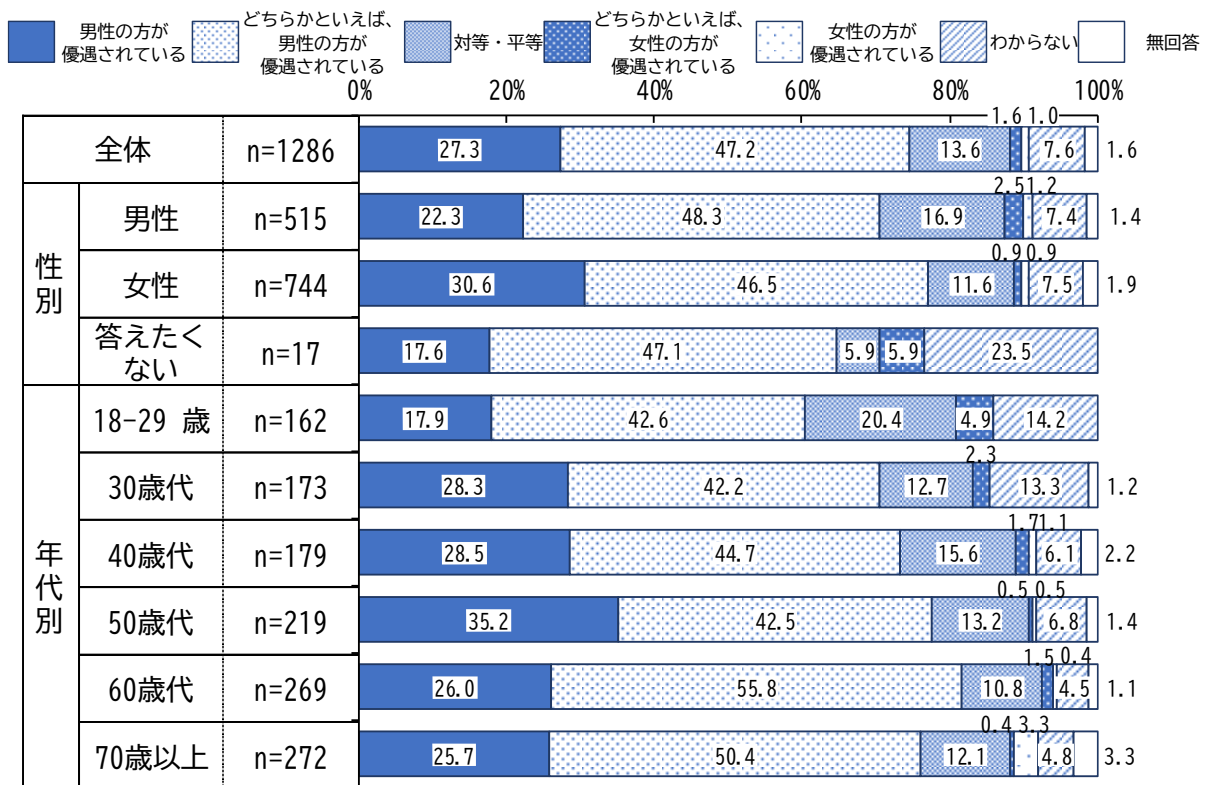
図表 13 F 法律や制度面（全国調査との比較）



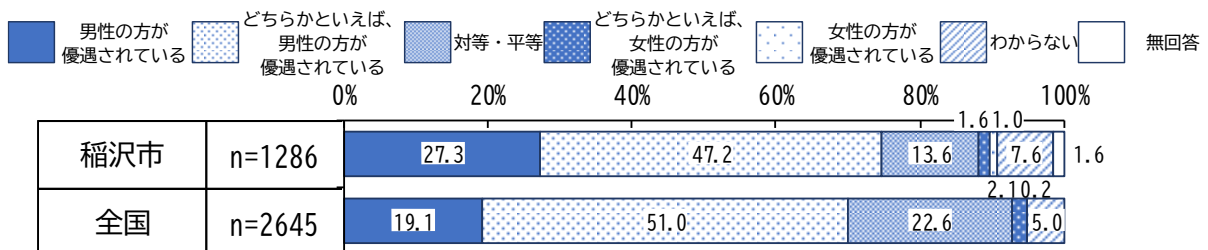
G 社会通念・慣習・しきたりなど

- 社会通念・慣習・しきたりなどでは、全体で「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」が47.2%と最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」(27.3%)、「対等・平等」(13.6%)となっています。
- 性別では、女性で「男性の方が優遇されている」が8.3ポイント、男性で「対等・平等」が5.3ポイント、それぞれ異性より高くなっています。
- 年代別では、70歳以上を除いて、年代が上がるにつれて“男性優遇”が高くなっています。また、50歳代で「男性の方が優遇されている」が35.2%と、他の年代よりも高くなっています。
- 全国調査と比較すると、全国で「対等・平等」が9.0ポイント、稲沢市より高くなっています。一方で、稲沢市で「男性の方が優遇されている」が8.2ポイント、全国より高くなっています。

図表 14 G 社会通念・慣習・しきたりなど (全体・性別・年代別)



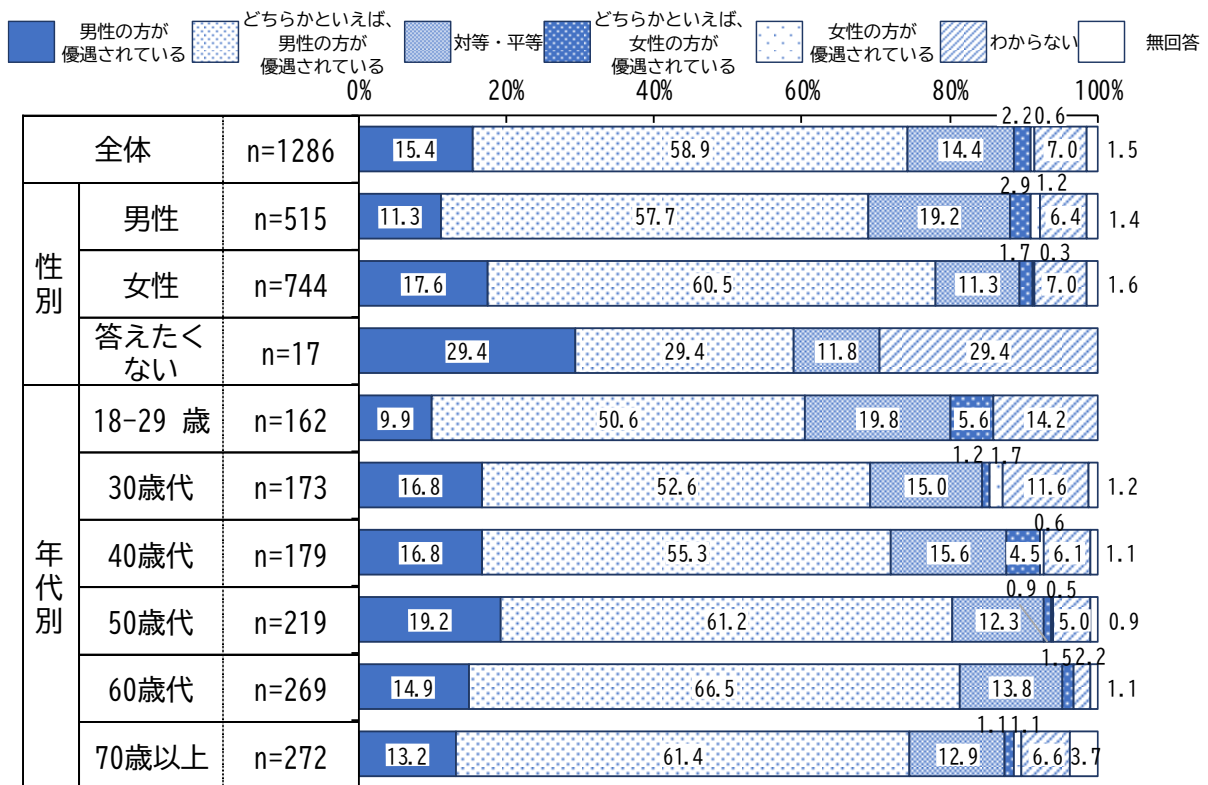
図表 15 G 社会通念・慣習・しきたりなど (全国調査との比較)



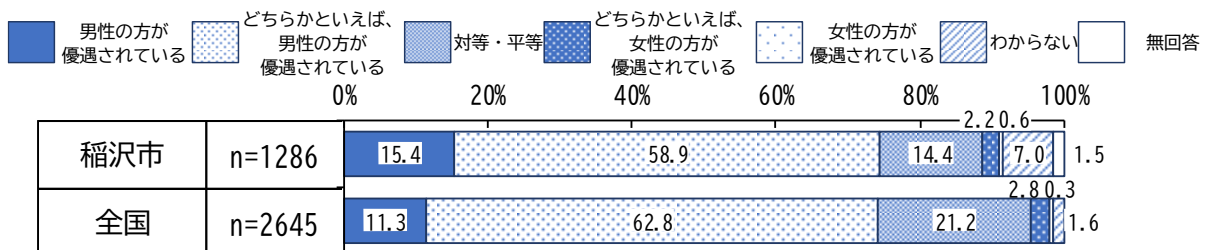
H 社会全体として

- 社会全体としてでは、全体で「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」が 58.9%と最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」(15.4%)、「対等・平等」(14.4%)となっています。
- 性別では、女性で“男性優遇”が9.1ポイント、男性で「対等・平等」が7.9ポイント、それぞれ異性より高くなっています。
- 年代別では、70歳以上を除いて、年代が上がるにつれて“男性優遇”が高くなっています。なかでも、50歳代と60歳代で“男性優遇”が約8割となっています。
- 全国調査と比較すると、全国で「対等・平等」が6.8ポイント、稲沢市より高くなっています。

図表 16 H 社会全体として (全体・性別・年代別)



図表 17 H 社会全体として (全国調査との比較)



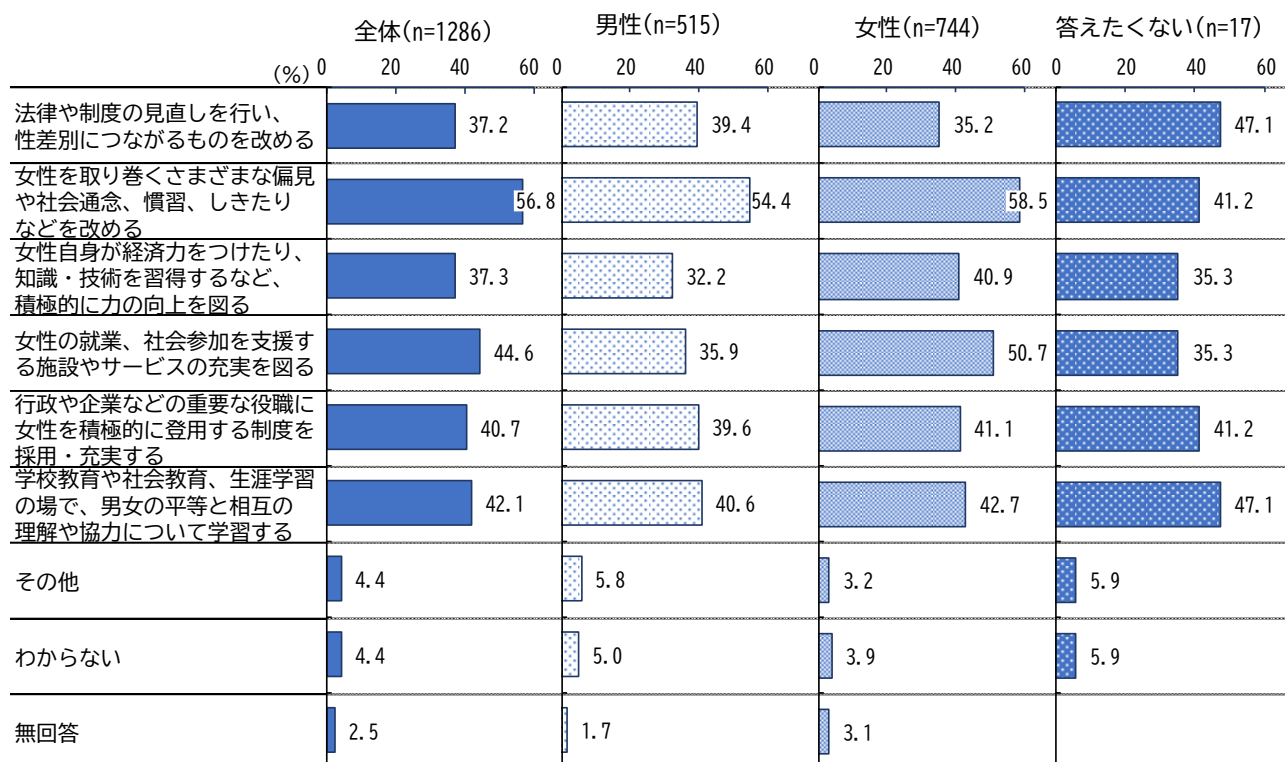
あらゆる分野で平等になるために重要なこと

問2 あなたは、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには何が重要だと思いますか。

(〇はいくつでも)

- あらゆる分野で男女が平等になるために重要なことは、全体で「女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める」が56.8%と最も高く、次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」(44.6%)、「学校教育や社会教育、生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力について学習する」(42.1%)となっています。
- 性別では、女性で「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」が14.8ポイント、男性より高くなっています。

図表 18 あらゆる分野で平等になるために重要なこと (全体・性別)



■ 年代別では、いずれの年代も「女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める」が最も高くなっています。

図表 19 あらゆる分野で平等になるために重要なこと（年代別）

	全体	問2 あなたは、男女が社会のあらゆる分野で もっと平等になるためには何が重要だと思いますか。																		
		る も の を 改 め る	行 法 律 や 性 制 度 の 見 直 し な が を	改 め る 、 し き た り な ど を	慣 習 、 偏 見 や 社 会 通 念 、 し き た り な ど を	ま な 偏 見 や 社 会 通 念 、 し き た り な ど を	女 性 の 力 を 上 げ る な ど を	的 に 力 を 上 げ る な ど を	つ け る な ど を	女 性 の 自 身 の 経 済 力 を 上 げ る な ど を	サ ー 支 援 の 充 実 を 図 る	女 性 の 就 業 機 会 を 増 や す な ど を	採 用 ・ 登 用 の 制 度 を 充 実 す る	に 関 する 制 度 を 充 実 す る	行 政 や 企 業 な ど の 積 極 的 な 取 組 み	協 力 を 得 る な ど を	の 平 等 な 機 会 を 創 出 す な ど を	生 涯 学 習 の 場 を 創 出 す な ど を	学 校 教 育 や 社 会 教 育 、 な ど を	そ の 他
全 体	1,286	37.2	56.8	37.3	44.6	40.7	42.1	4.4	4.4	2.5										
年 代	18-29 歳	162	35.8	46.9	28.4	34.6	35.2	43.8	4.3	5.6	1.2									
	30歳代	173	32.4	57.2	34.1	46.8	31.2	38.7	5.8	4.6	4.0									
	40歳代	179	34.6	55.3	29.1	41.9	34.6	42.5	5.0	3.4	1.7									
	50歳代	219	41.6	61.6	38.8	42.9	42.0	40.6	4.6	4.6	3.2									
	60歳代	269	38.7	57.2	41.6	50.6	42.0	43.1	4.5	3.3	1.9									
	70歳以上	272	37.1	58.5	44.5	46.3	50.7	42.3	2.2	5.1	2.9									

2 家庭生活について

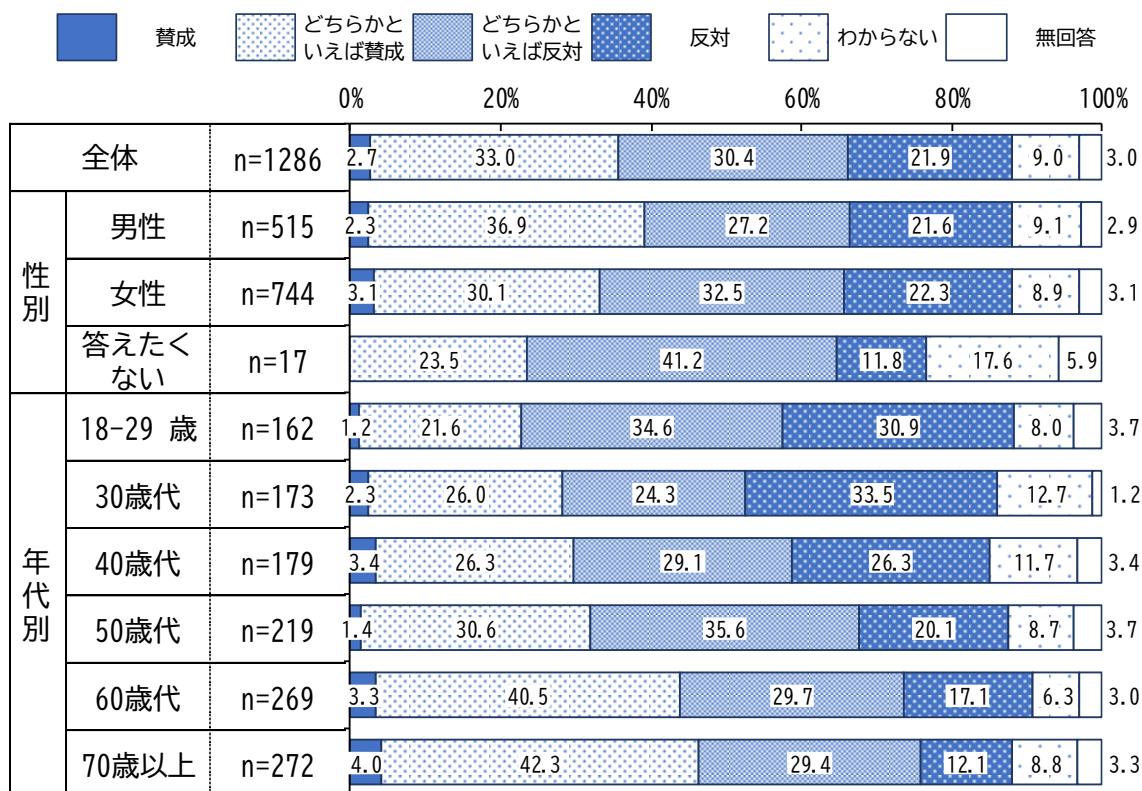
「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」に対する立場

問3 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」という考え方についてお伺いします。

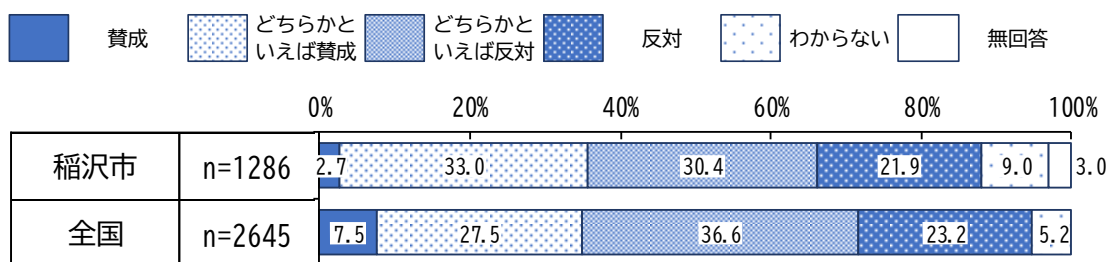
(1) あなたは、この考え方について、どう思いますか。(〇はひとつ)

- 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」という考え方については、全体で「どちらかといえば賛成」が33.0%と最も高く、次いで「どちらかといえば反対」(30.4%)、「反対」(21.9%)となっています。また、「賛成」(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)は35.7%、「反対」(「反対」+「どちらかといえば反対」)は52.3%となっています。
- 性別では、男性で「どちらかといえば賛成」が6.8ポイント、女性で「どちらかといえば反対」が5.3ポイント、それぞれ異性より高くなっています。
- 年代別では、年代が上がるにつれて「賛成」が高くなっています。また、18-29歳で「反対」が65.5%と、他の年代より高くなっています。
- 全国調査と比較すると、全国で「反対」が7.5ポイント、稲沢市より高くなっています。

図表 20 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」に対する立場 (全体・性別・年代別)



図表 21 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」に対する立場 (全国調査との比較)



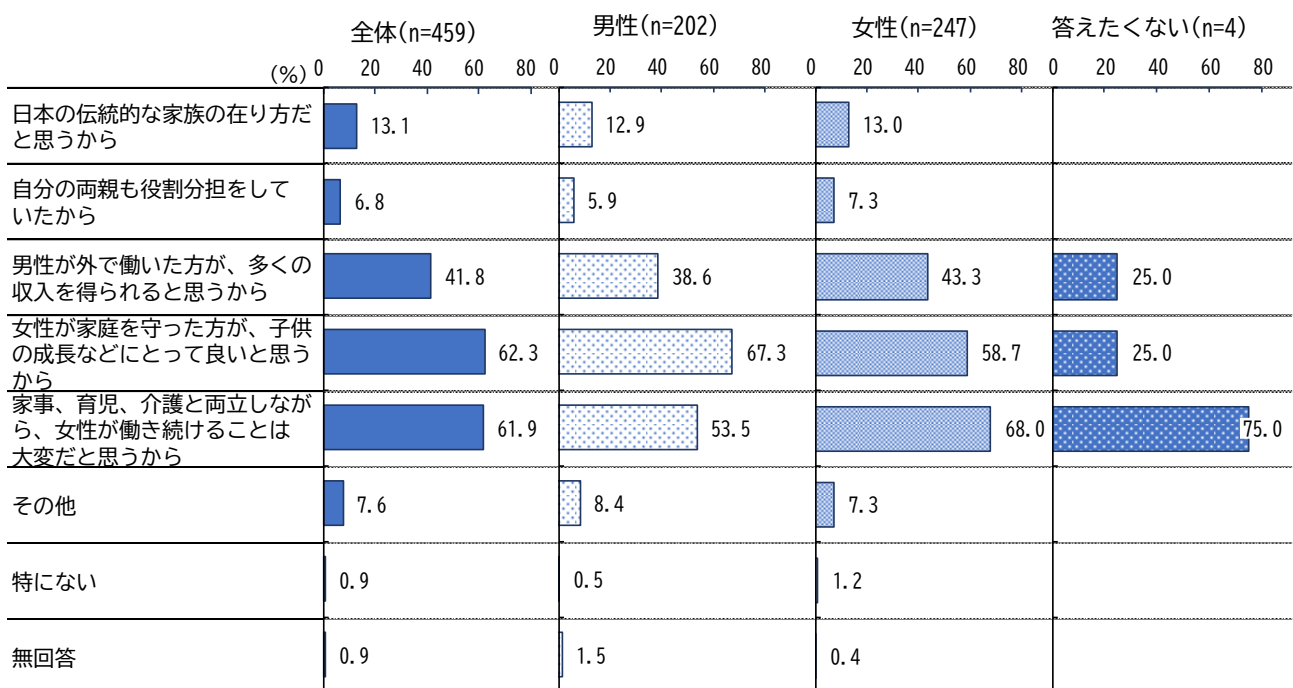
「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」に賛成の理由

(1)で「賛成」・「どちらかといえば賛成」と答えた方

(2) それはなぜですか。(〇はいくつでも)

- 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」に賛成する理由は、全体で「女性が家庭を守った方が、子供の成長などにとって良いと思うから」が62.3%と最も高く、次いで「家事、育児、介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」(61.9%)、「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(41.8%)となっています。
- 性別では、女性で「家事、育児、介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」が14.5ポイント、男性で「女性が家庭を守った方が、子供の成長などにとって良いと思うから」が8.6ポイント、それぞれ異性より高くなっています。

図表 22 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」に賛成の理由(全体・性別)

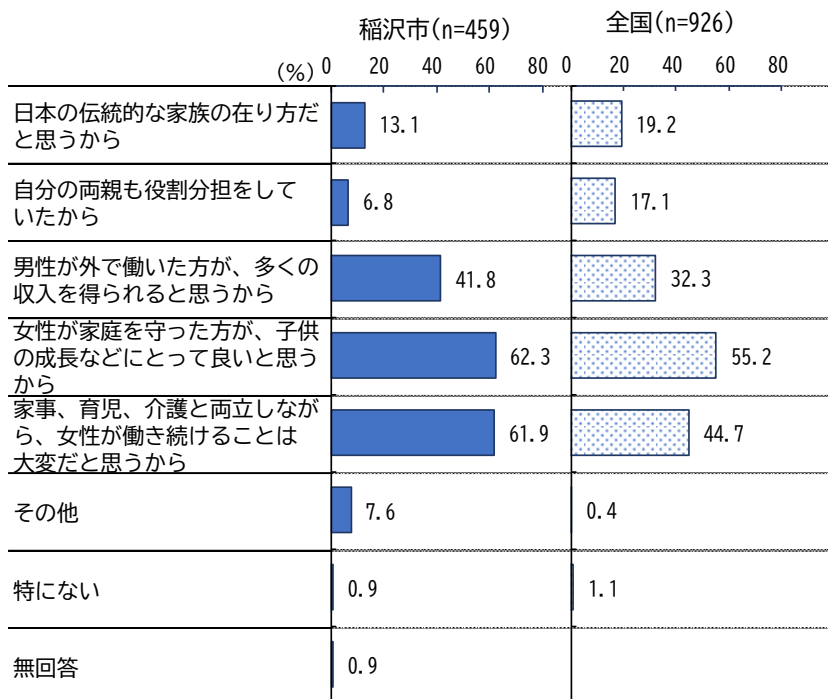


- 年代別では、18-29歳を除いて、年代が上がるにつれて「日本の伝統的な家族の在り方だと言うから」が高くなっています。また、18-29歳と30歳代で「自分の両親も役割分担をしていたから」が1割以上となっています。
- 全国調査と比較すると、稲沢市で「家事、育児、介護と両立しながら女性が働き続けることは大変だと思うから」が17.2ポイント、全国より高くなっています。一方で、全国で「自分の両親も役割分担していたから」が10.3ポイント、稲沢市より高くなっています。

図表 23 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」に賛成の理由（年代別）

	全体	問3 (2) 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」に賛成なのはなぜですか。								
		かの日 ら在 の本 方伝 だ統 と思 う家 族	分自 担分 をの し両 親 も た役 割 か	得が男 れ多 るく の 思 う 入 い か ら	思な方 うど がに か ら と つ 供 て の 良 い 長 と	女 性 が 家 庭 を 守 ら な い と	大 変 だ と 思 う か ら と	が 両 立 し な が ら 、 介 護 と	そ の 他	特 に な い
全体	459	13.1	6.8	41.8	62.3	61.9	7.6	0.9	0.9	
年代	18-29歳	37	16.2	13.5	43.2	59.5	64.9	13.5	2.7	-
	30歳代	49	2.0	10.2	32.7	36.7	65.3	12.2	2.0	2.0
	40歳代	53	7.5	1.9	39.6	54.7	54.7	13.2	1.9	-
	50歳代	70	10.0	8.6	37.1	64.3	52.9	5.7	-	-
	60歳代	118	14.4	5.1	39.0	68.6	68.6	5.1	0.8	0.8
	70歳以上	126	18.3	5.6	48.4	69.0	60.3	5.6	-	1.6

図表 24 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」に賛成の理由（全国調査との比較）



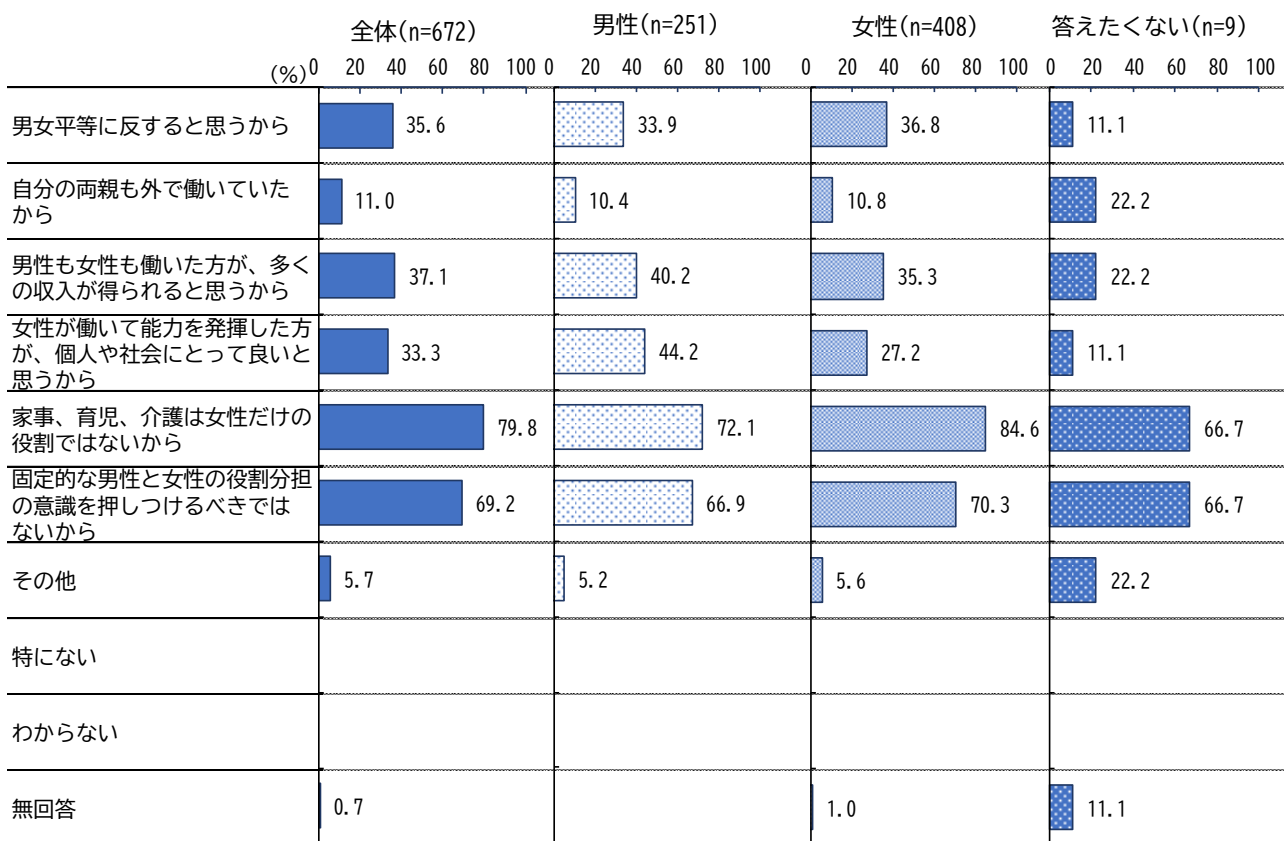
「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」に反対の理由

(1)で「どちらかといえば反対」・「反対」と答えた方

(3) それはなぜですか。(〇はいくつでも)

- 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」に反対する理由は、全体で「家事、育児、介護は女性だけの役割ではないから」が79.8%と最も高く、次いで「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」(69.2%)となっています。
- 性別では、男性で「女性が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」が17.0ポイント、女性で「家事、育児、介護は女性だけの役割ではないから」が12.5ポイント、それぞれ異性より高くなっています。

図表 25 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」に反対の理由（全体・性別）

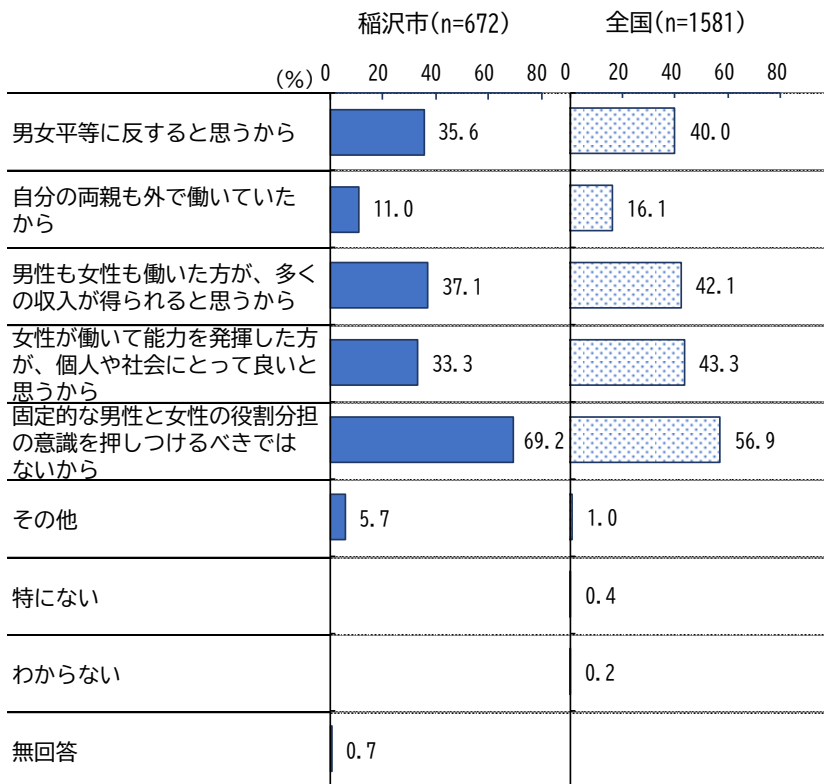


- 年代別では、いずれの年代でも「家事、育児、介護は女性だけの役割ではないから」が最も高く、なかでも18-29歳から50歳代にかけては8割以上となっています。また、18-29歳で「自分の両親も外で働いていたから」が23.6%、70歳以上で「女性が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」が48.7%と、それぞれ他の年代より高くなっています。
- 全国調査と比較すると、稲沢市で「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が12.3ポイント、全国より高くなっています。一方で、全国で「女性が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」が10.0ポイント、稲沢市より高くなっています。

図表 26 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」に反対の理由（年代別）

	全体	問3 (3) 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」に反対なのはなぜですか。										
		と男女 思う 平等 に反 する	働自 い分 ての い両 た親 かも ら外 で	思収 う入 かが ら得 ら多 れく るの 働と	た男 方が も多 性思 会たい うに 方働 かど つ	て個 を良 人発 揮が いや 揮社 し働 たい 方働 かど つ	女 性 が 働 い だ け の 役 割 護	では 家事 、育 児、 介護	ベ意 き識 でを は押 ない し割 男 性 の	固 定 的 な 男 性 と 女 性 の 役 割 分 担	そ の 他	特 に な い
全 体	672	35.6	11.0	37.1	33.3	79.8	69.2	5.7	-	-	0.7	
年 代	18-29 歳	106	37.7	23.6	36.8	25.5	80.2	69.8	6.6	-	0.9	
	30歳代	100	30.0	10.0	44.0	26.0	85.0	71.0	7.0	-	-	
	40歳代	99	31.3	8.1	34.3	25.3	81.8	65.7	7.1	-	1.0	
	50歳代	122	34.4	9.0	34.4	33.6	83.6	73.8	5.7	-	-	
	60歳代	126	36.5	7.1	33.3	38.9	69.8	66.7	4.8	-	1.6	
	70歳以上	113	40.7	8.0	39.8	48.7	79.6	67.3	2.7	-	0.9	

図表 27 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」に反対の理由（全国調査との比較）



家事の分担

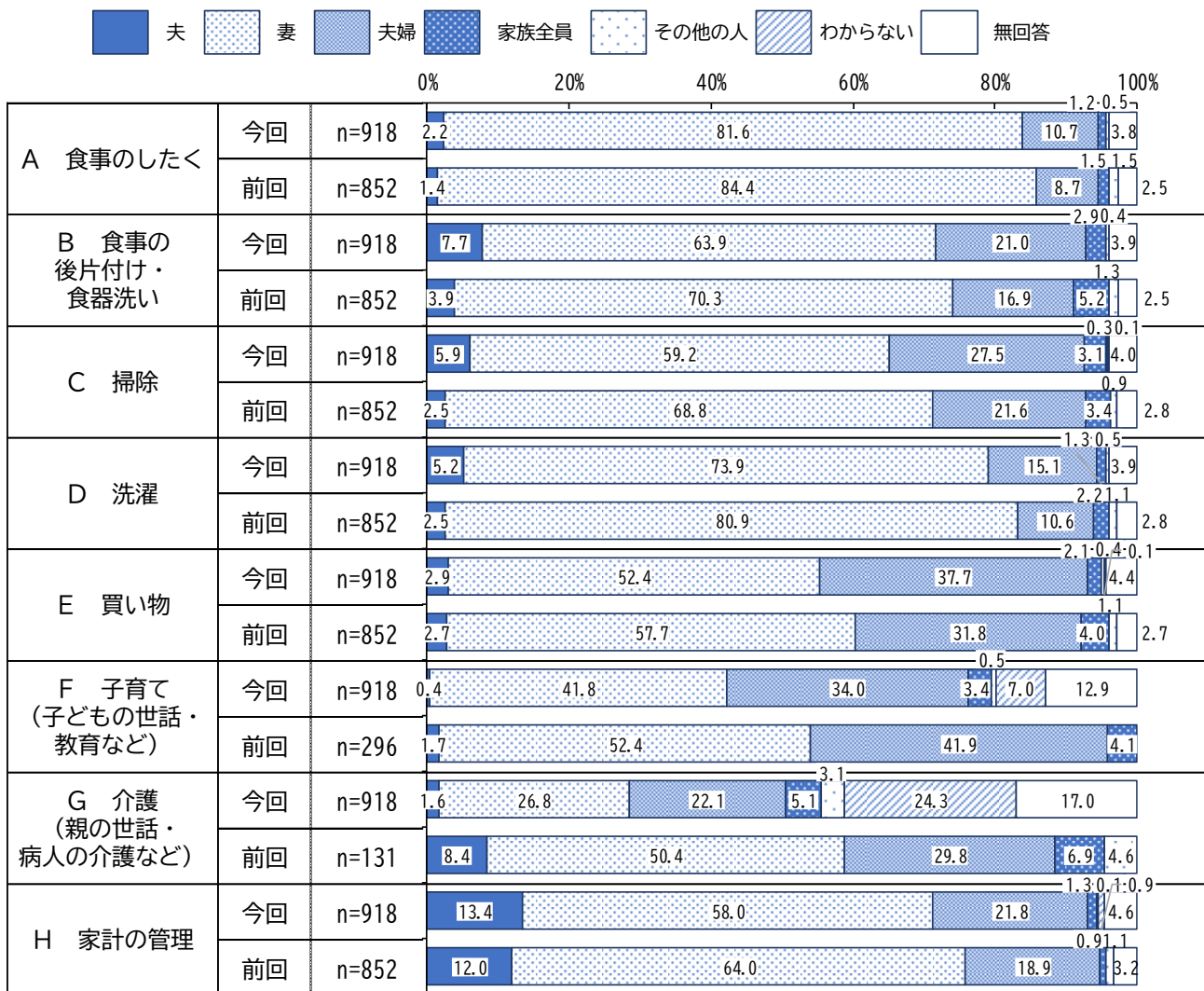
「現在結婚している方（又はパートナーと暮らしている方）」

問4 あなたの家庭では、次にあげる家事は主に誰が分担していますか。

（AからHについてそれぞれ○をひとつ）

- 家事の分担は、【F 子育て（子どもの世話・教育など）】と【G 介護（親の世話・病人の介護など）】を除いて、「妻」が5割以上となっています。なかでも、【A 食事のしたく】が81.6%となっています。
- 前回調査と比較をすると、いずれの項目も「妻」が前回より低くなっています。なかでも【C 掃除】で「妻」が9.6ポイント、前回よりも低くなっています。

図表 28 家事の分担（前回調査との比較）

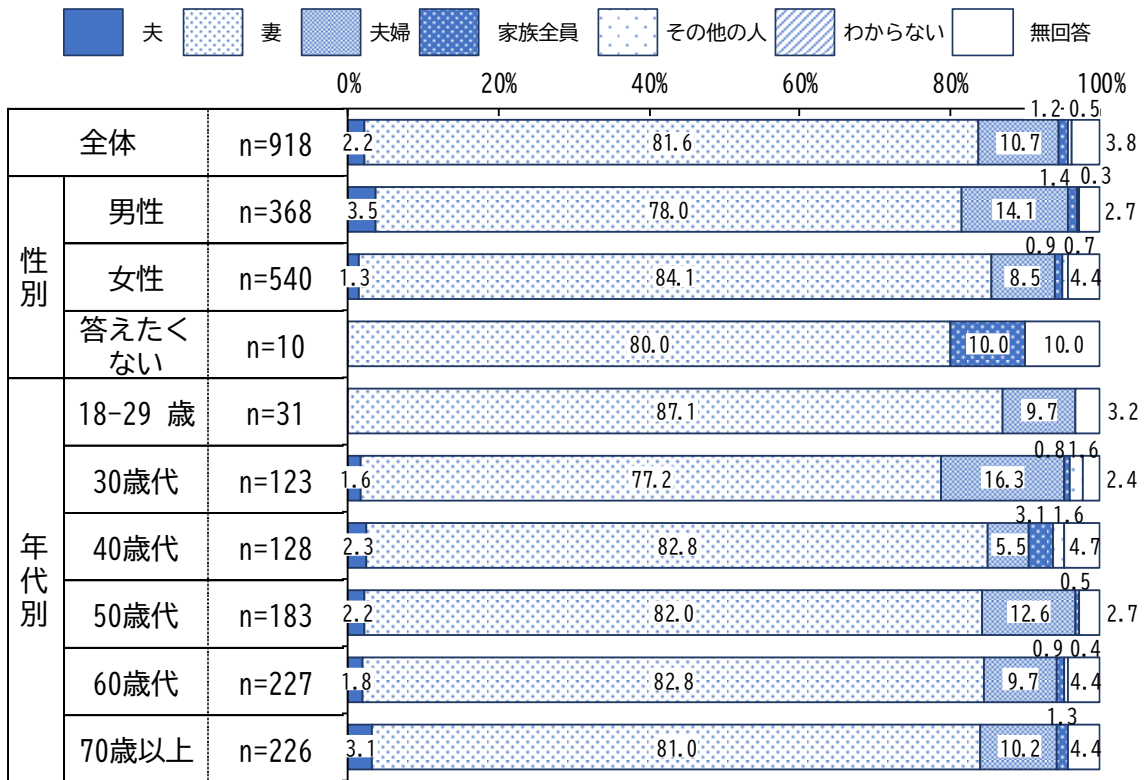


※ 【F 子育て（子どもの世話・教育など）】と【G 介護（親の世話・病人の介護など）】については、前回調査と回答の対象範囲が異なるため、参考程度とします。

A 食事のしたく

- 食事のしたくの担当は、全体で「妻」が81.6%と最も高く、次いで「夫婦」(10.7%)となっています。
- 性別では、女性で「妻」が6.1ポイント、男性で「夫婦」が5.6ポイント、それぞれ異性より高くなっています。
- 年代別で見ると、30歳代を除いて「妻」が8割以上となっています。

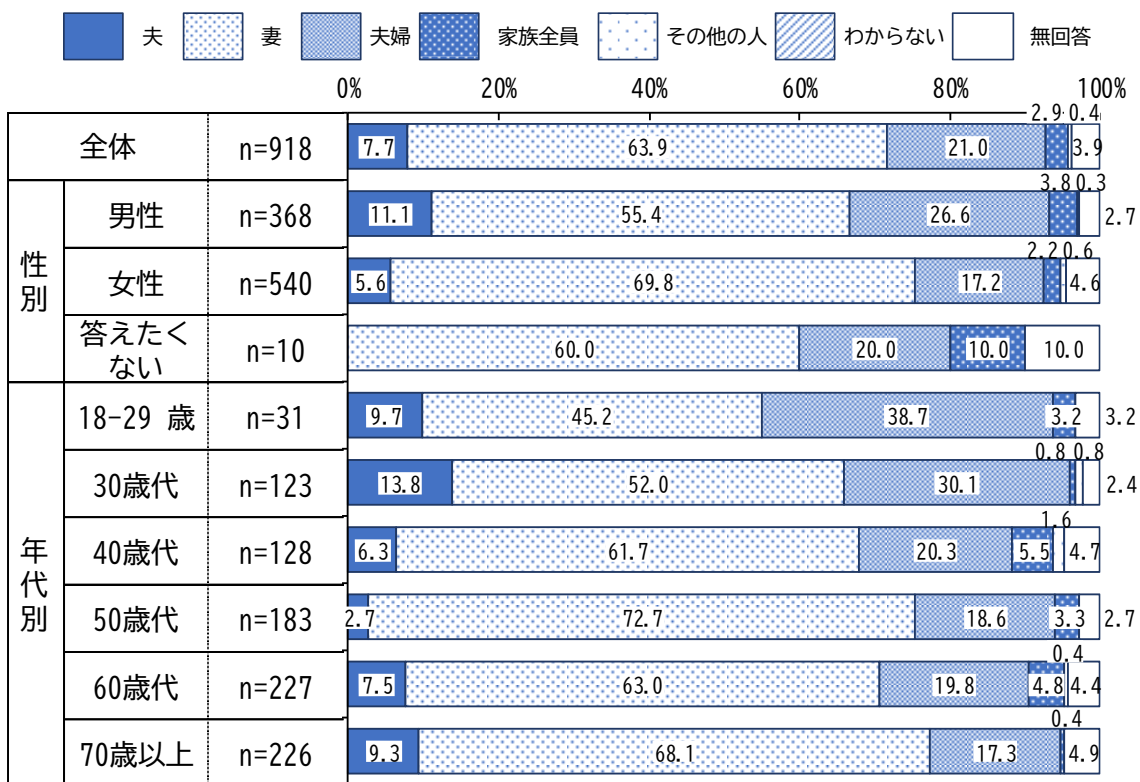
図表 29 A 食事のしたく (全体・性別・年代別)



B 食事の後片付け・食器洗い

- 食事の後片付け・食器洗いの担当は、全体で「妻」が63.9%と最も高く、次いで「夫婦」(21.0%)、「夫」(7.7%)となっています。
- 性別では、女性で「妻」が14.4ポイント、男性で「夫婦」が9.4ポイント、「夫」が5.5ポイント、それぞれ異性より高くなっています。
- 年代別では、いずれの年代でも「妻」が最も高く、なかでも50歳代は72.7%となっています。また、18-29歳と30歳代で「夫婦」が3割以上となっています。

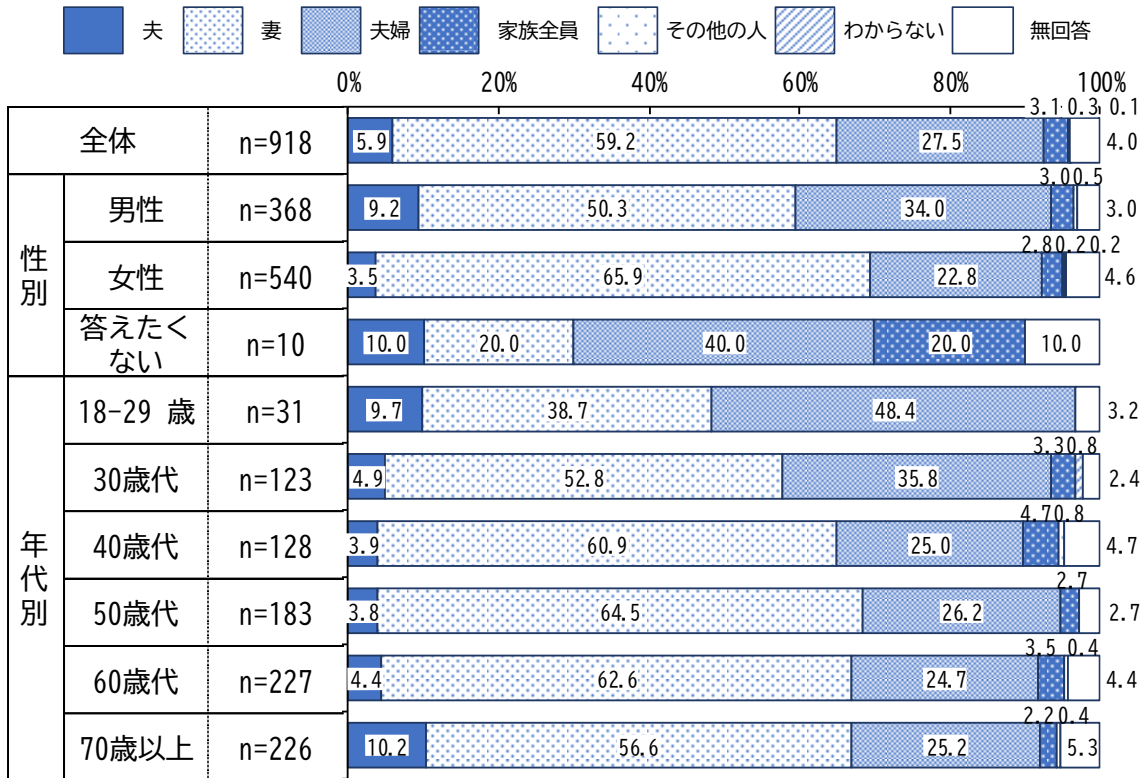
図表 30 B 食事の後片付け・食器洗い (全体・性別・年代別)



C 掃除

- 掃除の担当は、全体で「妻」が59.2%と最も高く、次いで「夫婦」(27.5%)、「夫」(5.9%)となっています。
- 性別では、女性で「妻」が15.6ポイント、男性で「夫婦」が11.2ポイント、「夫」が5.7ポイント、それぞれ異性より高くなっています。
- 年代別では、18-29歳を除いて、「妻」が最も高くなっており、40歳代から60歳代にかけては6割以上となっています。

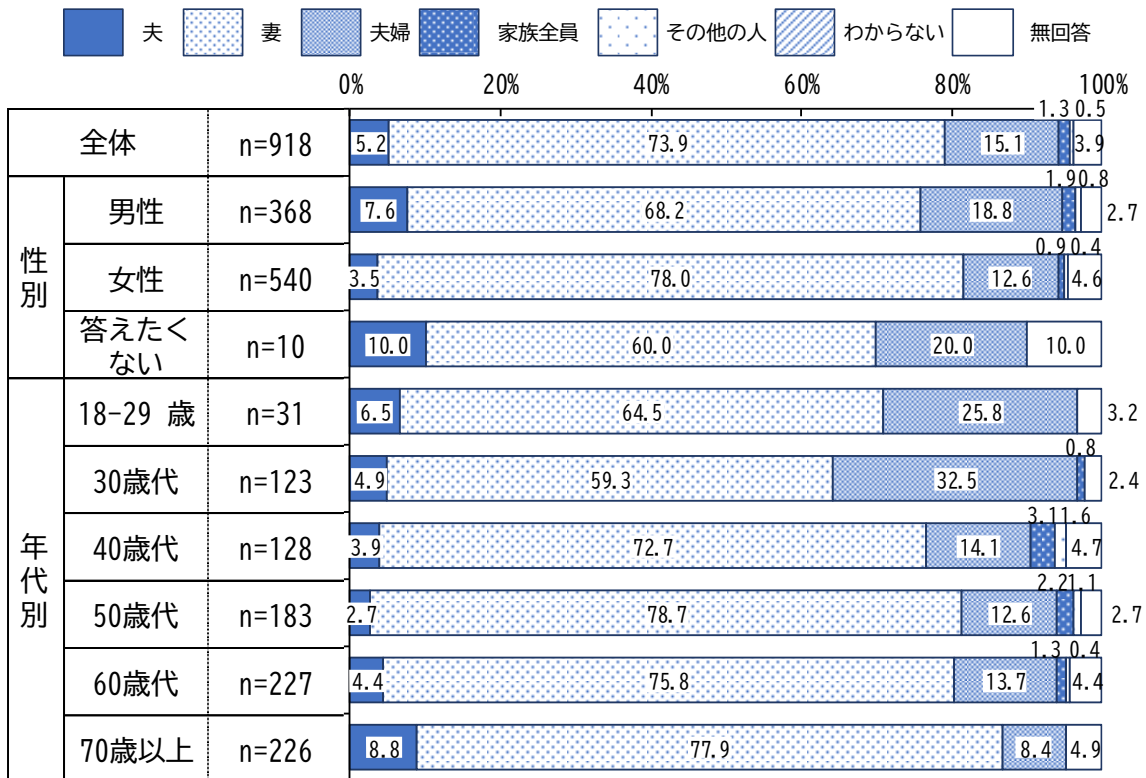
図表 31 C 掃除 (全体・性別・年代別)



D 洗濯

- 洗濯の担当は、全体で「妻」が73.9%と最も高く、次いで「夫婦」(15.1%)、「夫」(5.2%)となっています。
- 性別では、女性で「妻」が9.8ポイント、男性で「夫婦」が6.2ポイント、それぞれ異性より高くなっています。
- 年代別では、いずれの年代も「妻」が最も高くなっており、なかでも40歳代から70歳以上にかけては7割以上となっています。また、30歳代で「夫婦」が32.5%と、他の年代より高くなっています。

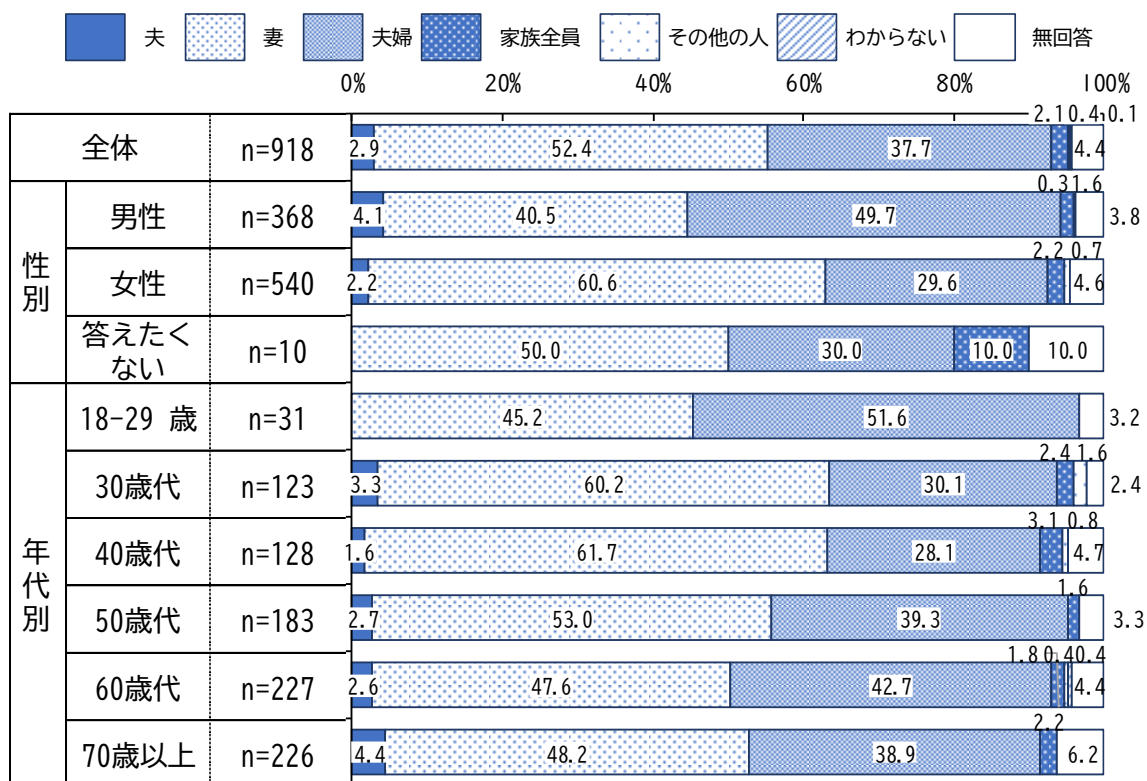
図表 32 D 洗濯 (全体・性別・年代別)



E 買い物

- 買い物の担当は、全体で「妻」が52.4%と最も高く、次いで「夫婦」(37.7%)となっています。
- 性別では、女性で「妻」が20.1ポイント、男性で「夫婦」が20.1ポイント、それぞれ異性より高くなっています。
- 年代別では、18-29歳を除いて、「妻」が最も高くなっており、30歳代と40歳代では約6割となっています。

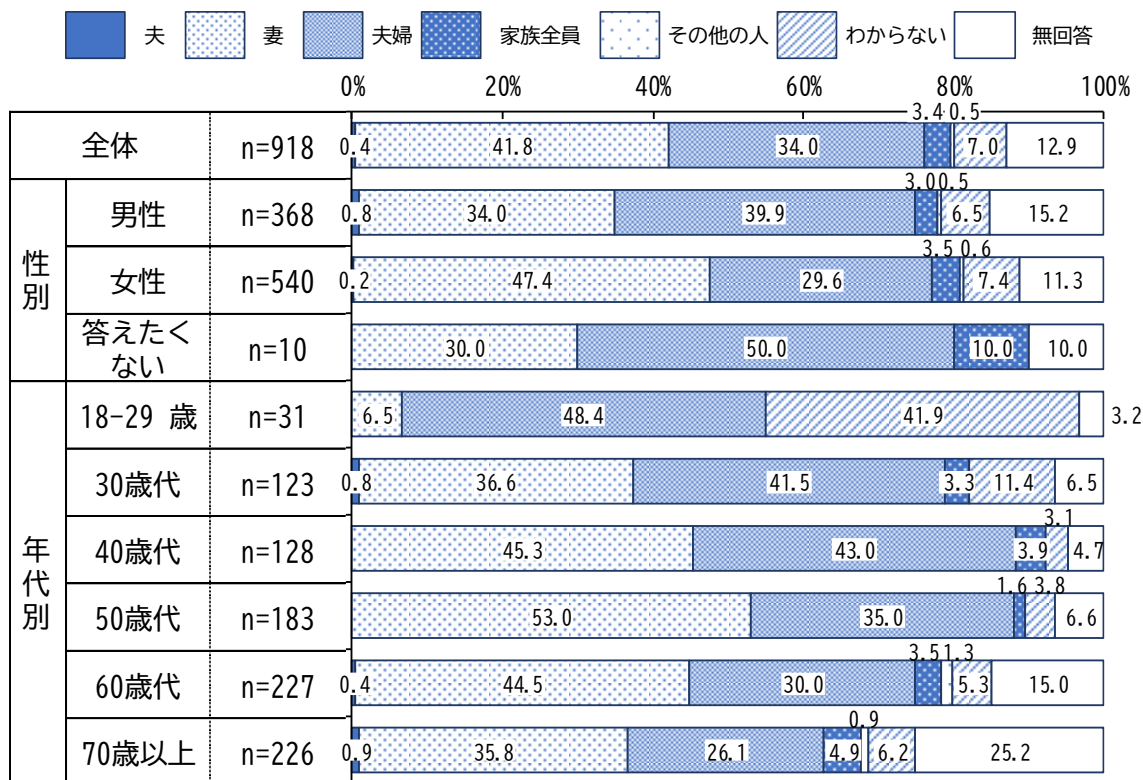
図表 33 E 買い物 (全体・性別・年代別)



F 子育て（子どもの世話・教育など）

- 子育ての担当は、全体で「妻」が41.8%と最も高く、次いで「夫婦」（34.0%）となっています。
- 性別では、女性で「妻」が13.4ポイント、男性で「夫婦」が10.3ポイント、それぞれ異性より高くなっています。
- 年代別では、18-29歳から40歳代にかけて、「夫婦」が4割以上となっています。

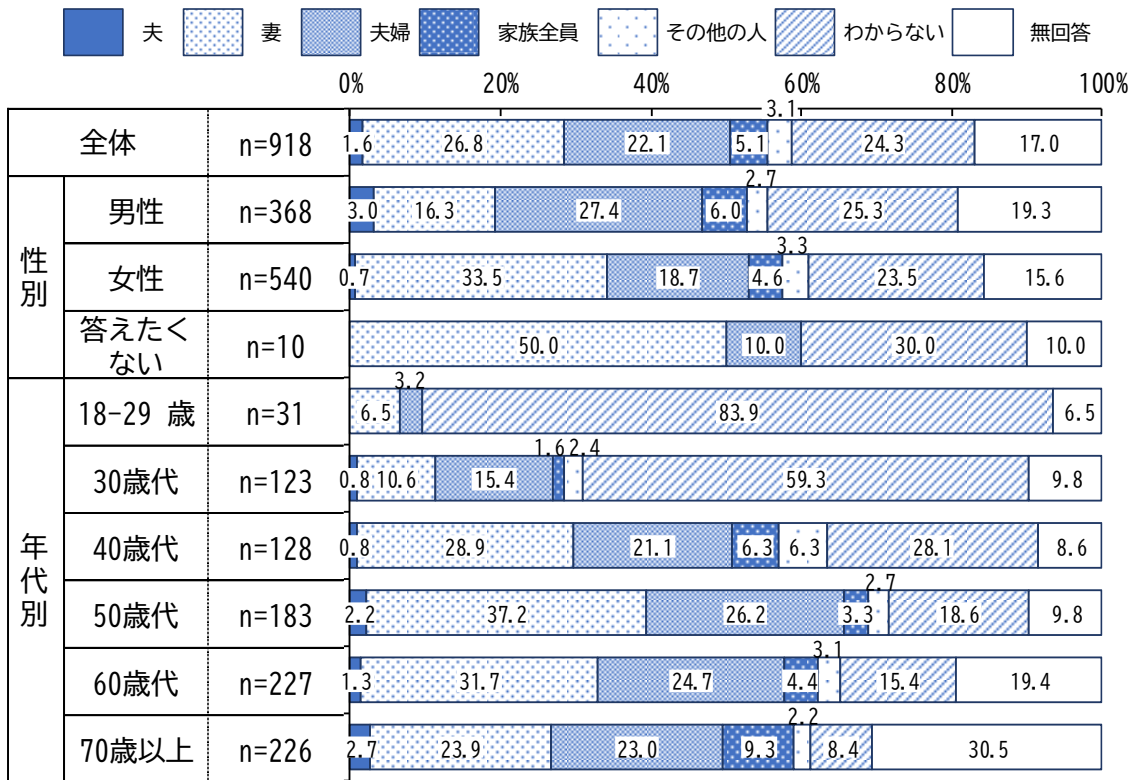
図表 34 F 子育て（子どもの世話・教育など）（全体・性別・年代別）



G 介護（親の世話・病人の介護など）

- 介護の担当は、全体で「妻」が26.8%と最も高く、次いで「夫婦」（22.1%）となっています。また、「わからない」が24.3%となっています。
- 性別では、女性で「妻」が17.2ポイント、男性で「夫婦」が8.7ポイント、それぞれ異性より高くなっています。
- 年代別では、50歳代と60歳代で「妻」が3割以上となっています。

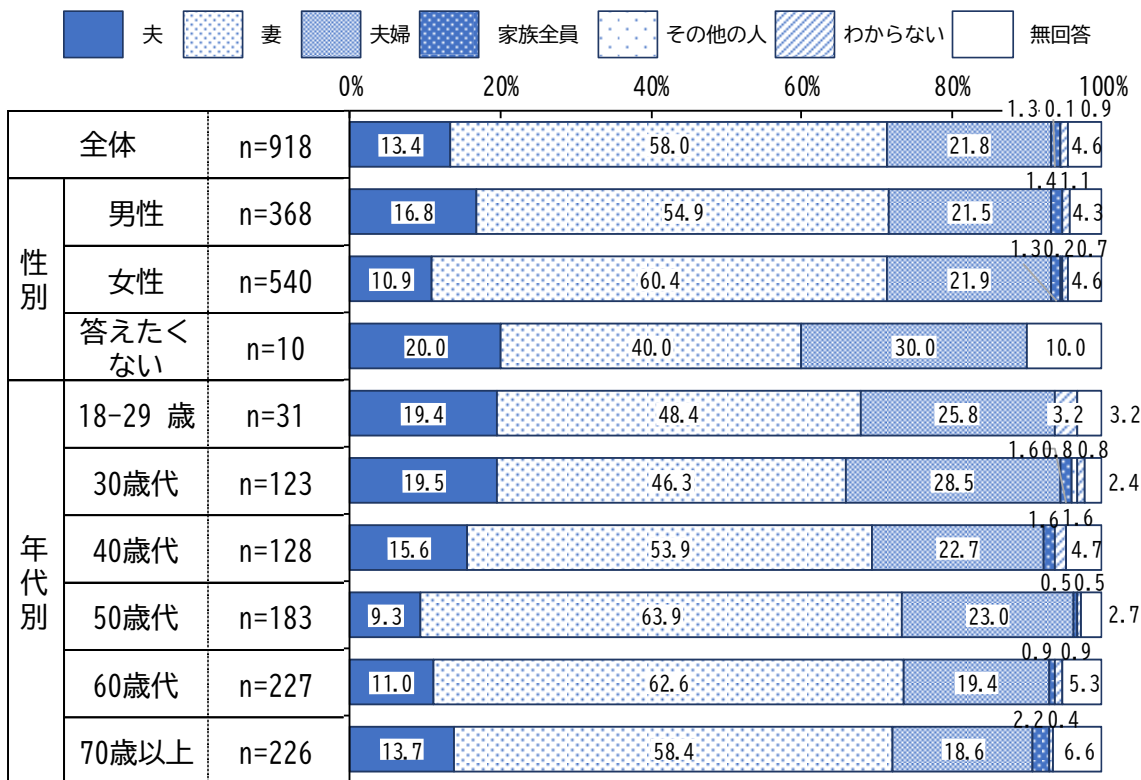
図表 35 G 介護（親の世話・病人の介護など）（全体・性別・年代別）



H 家計の管理

- 家計の管理の担当は、全体で「妻」が58.0%と最も高く、次いで「夫婦」(21.8%)、「夫」(13.4%)となっています。
- 性別では、男性で「夫」が5.9ポイント、女性で「妻」が5.5ポイント、それぞれ異性より高くなっています。
- 年代別では、50歳代と60歳代で「妻」が6割以上となっています。一方で、18-29歳と30歳代では「夫」と「夫婦」の割合が高くなっており、「妻」は4割台となっています。

図表 36 H 家計の管理 (全体・性別・年代別)



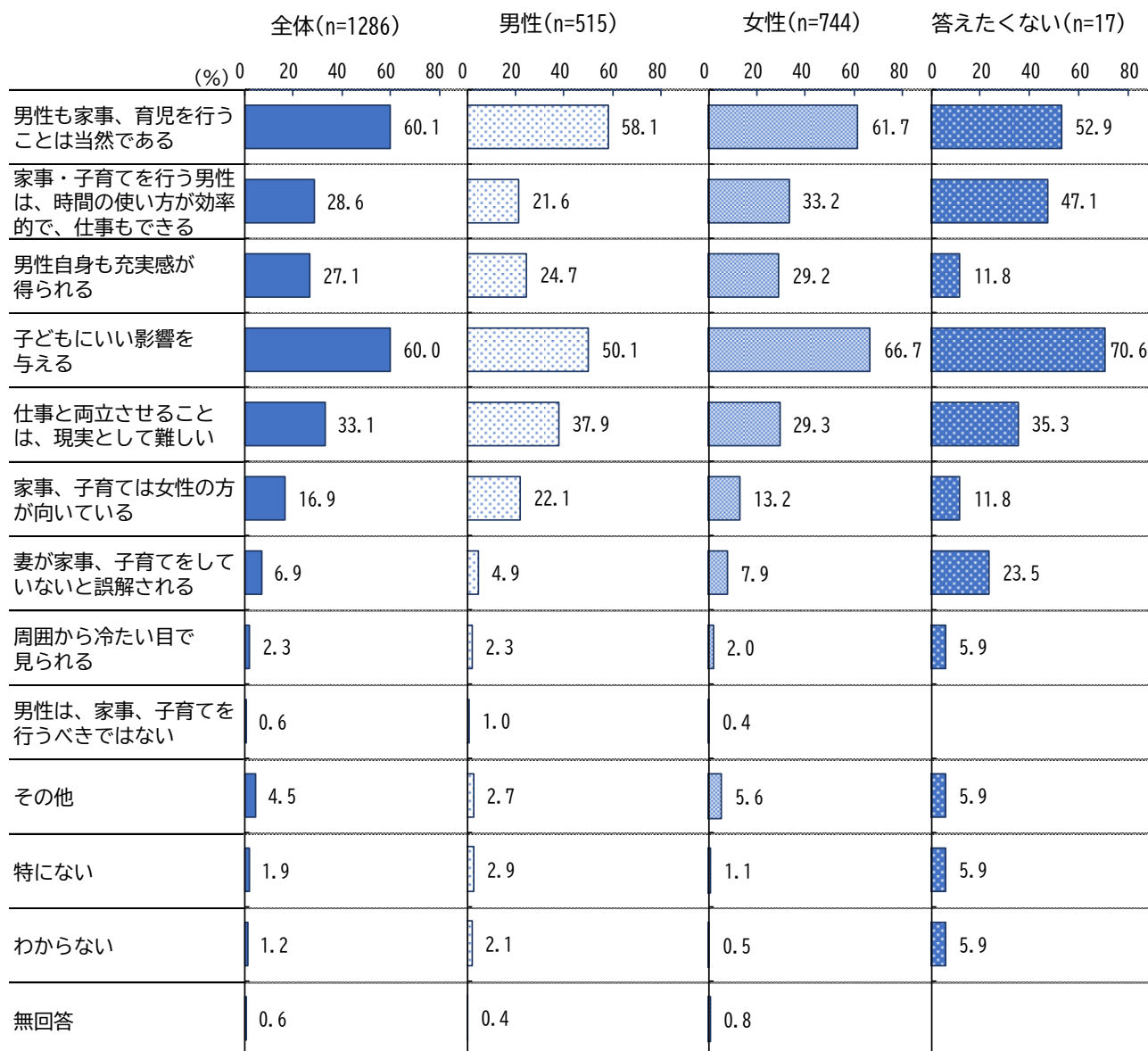
男性の家事・子育てへのイメージ

問5 あなたは、男性が家事・子育てを行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。

(〇はいくつでも)

- 男性が家事・子育てを行うことへのイメージは、全体で「男性も家事、育児を行うことは当然である」が60.1%と最も高く、次いで「子どもにいい影響を与える」(60.0%)、「仕事と両立させることは、現実として難しい」(33.1%)となっています。
- 性別では、女性で「子どもにいい影響を与える」が16.6ポイント、「家事・子育てを行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる」が11.6ポイント、男性より高くなっています。一方で、男性で「家事、子育ては女性の方が向いている」が8.9ポイント、「仕事と両立させることは、現実として難しい」が8.6ポイント、女性より高くなっています。

図表 37 男性の家事・子育てへのイメージ (全体・性別)



■ 年代別で見ると、いずれの年代でも「男性も家事、育児を行うことは当然である」と「子どもにいい影響を与える」が高く、5割以上となっています。また、70歳以上で「家事、子育ては女性の方が向いている」が27.2%と、他の年代より高くなっています。

図表 38 男性の家事・子育てへのイメージ (年代別)

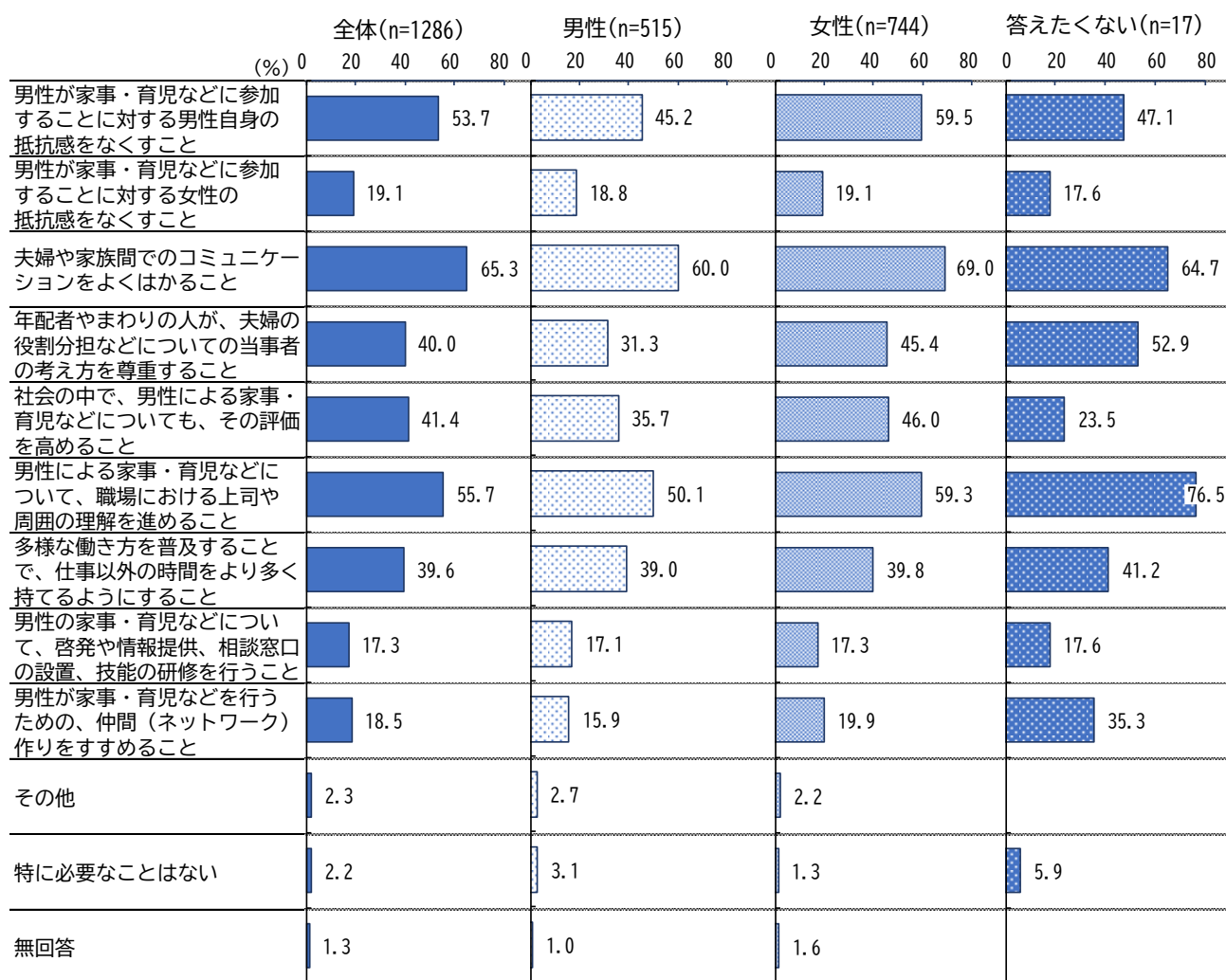
		全体	問5 あなたは、男性が家事・子育てを行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。												
			男性も家事、育児を行うことは当然である	男性自身も充実感が得られる	子どもにいい影響を与える	仕事と両立させることは現実として難しい	家事、子育ては女性の方が向いている	妻が家事、子育てをしていないと誤解される	周囲から冷たい目で見られる	男性は、家事、子育てを行うべきではない	その他	特にな	わからない	無回答	
全体	1,286	60.1	28.6	27.1	60.0	33.1	16.9	6.9	2.3	0.6	4.5	1.9	1.2	0.6	
年代	18-29 歳	162	63.6	34.0	30.9	66.0	29.0	13.0	8.0	3.7	0.6	5.6	1.2	1.2	0.6
	30歳代	173	69.4	27.7	26.0	66.5	35.3	12.1	6.9	2.3	0.6	7.5	1.2	1.2	-
	40歳代	179	64.2	29.1	23.5	55.9	30.2	12.8	7.8	-	0.6	3.9	3.9	0.6	-
	50歳代	219	53.4	31.1	28.8	63.5	31.5	13.7	7.3	3.2	-	3.7	1.8	0.5	0.5
	60歳代	269	58.7	30.1	26.0	59.1	36.1	16.7	6.3	1.1	0.4	5.6	1.9	1.1	0.7
	70歳以上	272	56.3	22.4	27.6	53.3	33.5	27.2	5.5	2.6	1.5	1.8	1.1	2.6	1.5

男性の家庭・地域参加に必要なこと

問6 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

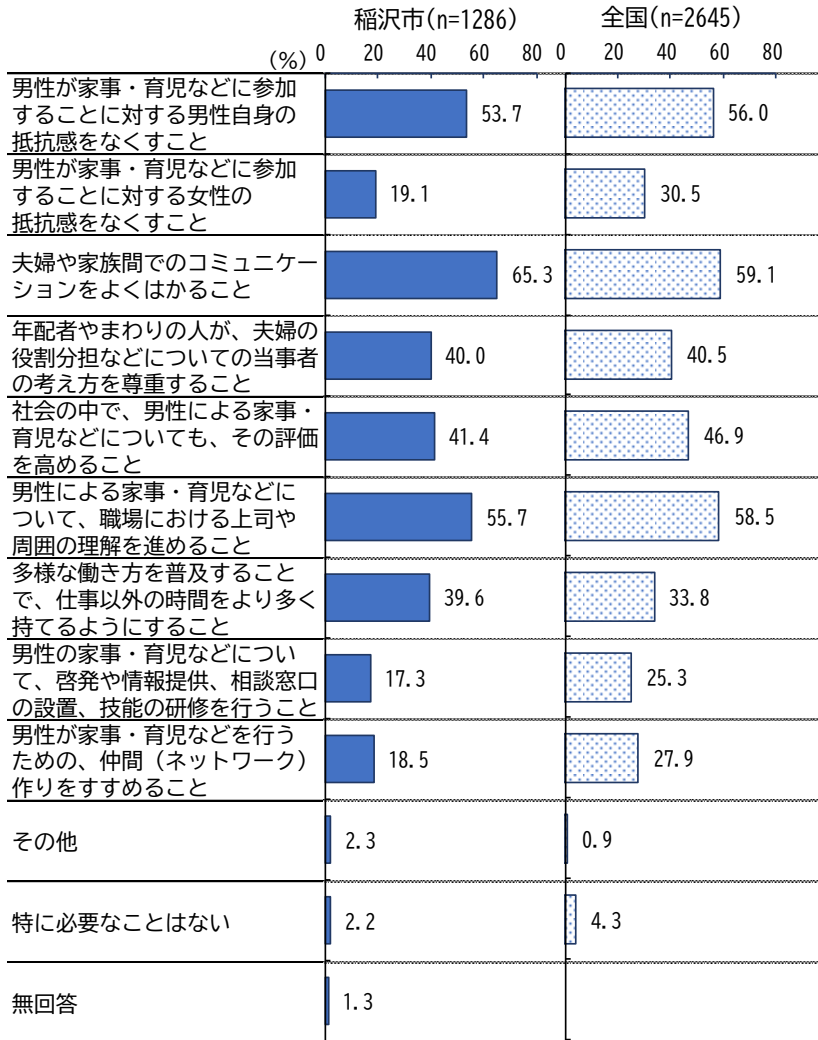
- 男性の家庭・地域への積極的な参加に必要なことは、全体で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が65.3%と最も高く、次いで「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」(55.7%)、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(53.7%)となっています。
- 性別では、女性で「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が14.3ポイント、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」が14.1ポイント、男性より高くなっています。

図表 39 男性の家庭・地域参加に必要なこと (全体・性別)



■ 全国調査と比較すると、全国で「男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」が11.4ポイント、「男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること」が9.4ポイント、「男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと」が8.0ポイント、それぞれ稲沢市より高くなっています。

図表 41 男性の家庭・地域参加に必要なこと（全国調査との比較）



3 女性の活躍について

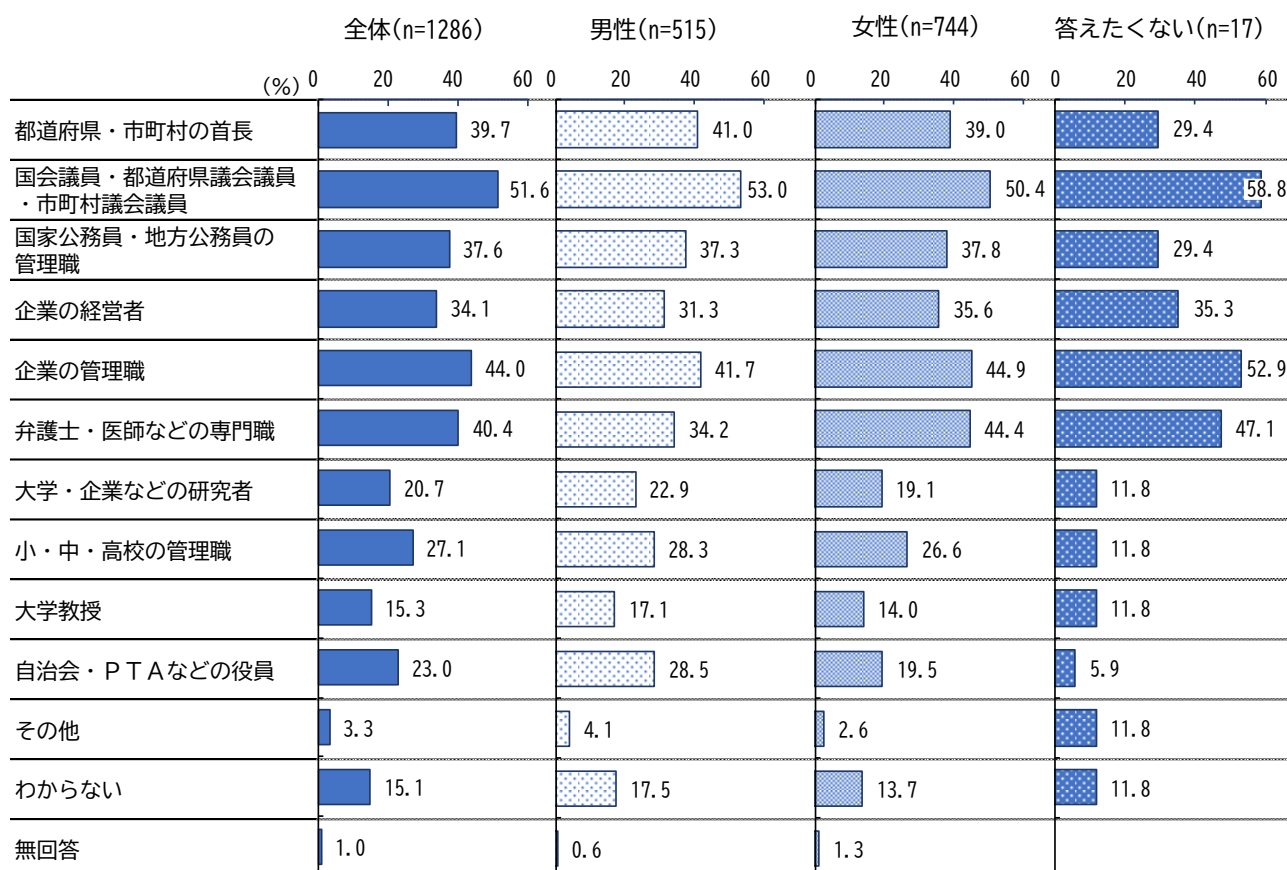
女性が增える方がよいと思う職業や役職

問7 あなたが、女性が增える方がよいと思う職業や役職は何ですか。(○はいくつでも)

■ 女性が增える方がよいと思う職業や役職は、全体で「国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員」が51.6%と最も高く、次いで「企業の管理職」(44.0%)、「弁護士・医師などの専門職」(40.4%)となっています。

■ 性別では、女性で「弁護士・医師などの専門職」が10.2ポイント、男性より高くなっています。

図表 42 女性が增える方がよいと思う職業や役職(全体・性別)



■ 年代別では、70歳以上で「自治会・PTAなどの役員」が36.0%と、他の年代より高くなっています。

図表 43 女性が増える方がよいと思う職業や役職（年代別）

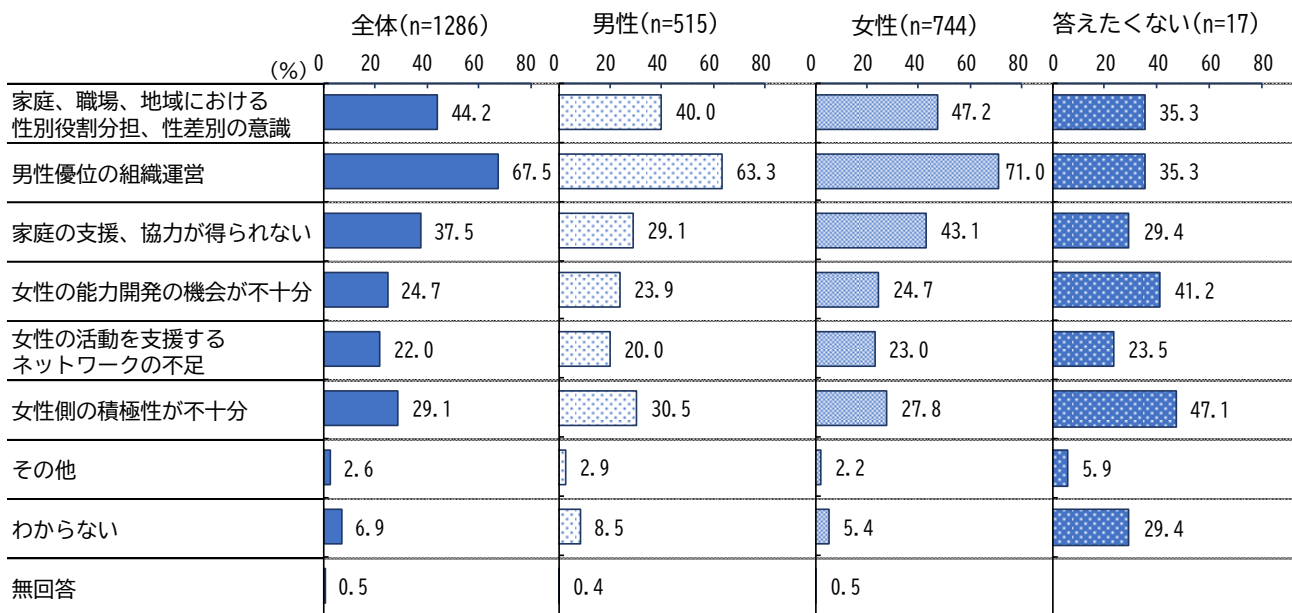
	全体	問7 あなたが、女性が増える方がよいと思う職業や役職は何ですか。													
		都道府県・市町村の首長	議員・市町村議会議員	国会議員・都道府県議会議員	国家公務員・地方公務員の管理職	企業の経営者	企業の管理職	専門職 弁護士・医師などの	大学・企業などの研究者	小・中・高校の管理職	大学教授	役員 自治会・PTAなどの	その他	わからない	無回答
全体	1,286	39.7	51.6	37.6	34.1	44.0	40.4	20.7	27.1	15.3	23.0	3.3	15.1	1.0	
年代	18-29歳	162	38.9	51.2	37.0	38.9	42.6	35.8	20.4	22.8	15.4	13.0	4.3	14.8	0.6
	30歳代	173	45.7	52.0	40.5	41.0	46.8	42.8	23.1	32.4	21.4	16.8	2.3	22.5	-
	40歳代	179	39.1	51.4	35.2	40.2	48.0	37.4	18.4	29.1	14.0	21.2	4.5	10.6	1.1
	50歳代	219	46.1	54.8	36.1	35.2	47.0	43.8	21.5	27.9	17.8	21.9	3.2	15.1	1.4
	60歳代	269	34.6	52.0	34.9	30.9	41.3	40.9	19.3	23.4	13.0	21.6	2.6	14.1	0.4
	70歳以上	272	36.8	48.5	40.8	24.3	39.3	40.1	21.0	27.9	12.1	36.0	2.9	15.1	2.2

政治・行政分野で女性の参画が進んでいない理由

問8 あなたは、政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が進んでいない理由は何だと思えますか。(〇はいくつでも)

- 政治や行政の分野で女性の参画が進んでいない理由は、全体で「男性優位の組織運営」が67.5%と最も高く、次いで「家庭、職業、地域における性別役割分担、性差別の意識」(44.2%)、「家庭の支援、協力が得られない」(37.5%)となっています。
- 性別では、女性で「家庭の支援、協力が得られない」が14.0ポイント、「男性優位の組織運営」が7.7ポイント、「家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識」が7.2ポイント、男性より高くなっています。
- 年代別では、50歳代で「家庭の支援、協力が得られない」、70歳以上で「女性側の積極性が不十分」がそれぞれ4割以上と、他の年代より高くなっています。

図表 44 政治・行政分野で女性の参画が進んでいない理由 (全体・性別)



図表 45 政治・行政分野で女性の参画が進んでいない理由 (年代別)

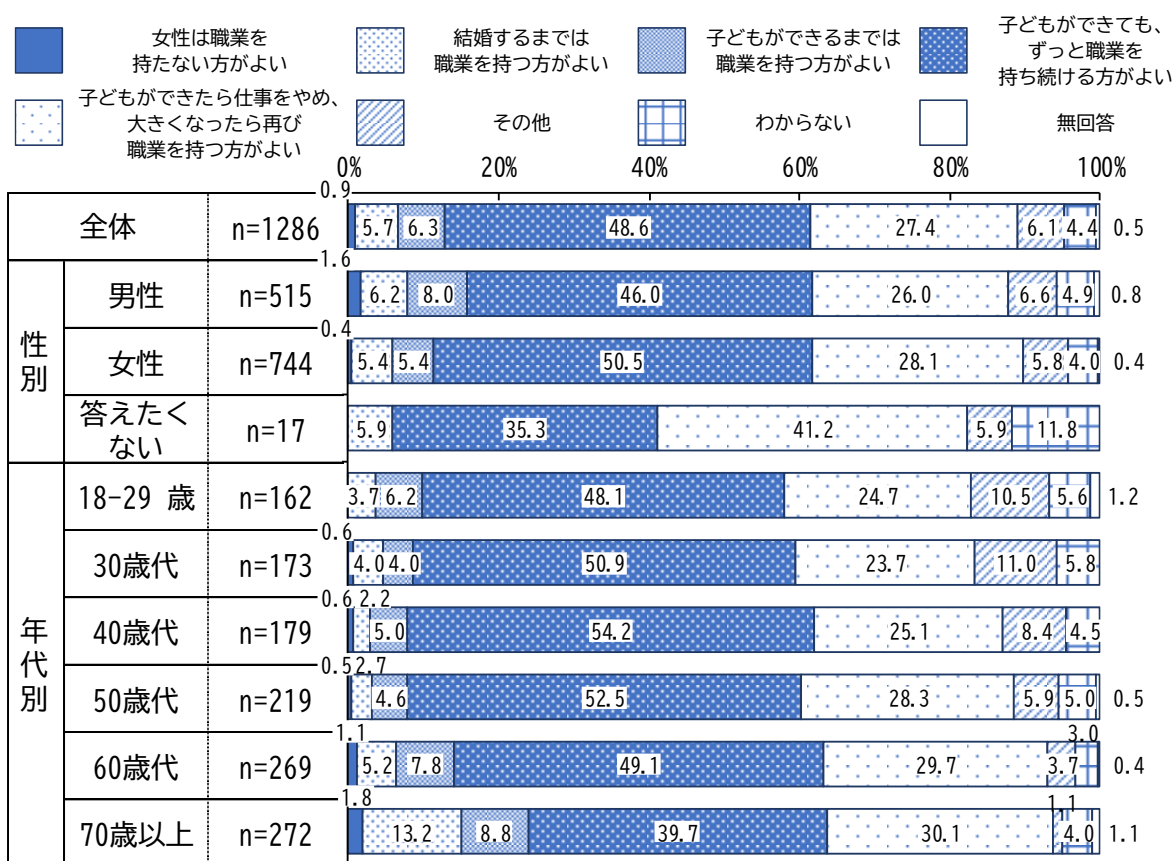
	全体	問8 あなたは、政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が進んでいない理由は何だと思えますか。										
		分 担 、 性 差 別 の 意 識	家 庭 、 職 場 、 地 域 に お け る 性 別 役 割 分 担 、 性 差 別 の 意 識	男 性 優 位 の 組 織 運 営	家 庭 の 支 援 、 協 力 が 得 ら れ な い	機 会 が 不 十 分	女 性 の 能 力 開 発 の 機 会 が 不 十 分	不 十 分	女 性 の 活 動 を 支 援 す る ネ ッ ト ワ ー ク の 不 足	女 性 側 の 積 極 性 が 不 十 分	そ の 他	わ か ら な い
全 体	1,286	44.2	67.5	37.5	24.7	22.0	29.1	2.6	6.9	0.5		
年 代	18-29 歳	162	50.0	65.4	35.8	16.0	17.9	22.2	5.6	8.6	0.6	
	30歳代	173	46.2	64.7	33.5	19.1	26.6	19.7	6.4	9.8	-	
	40歳代	179	45.3	69.3	36.3	17.3	15.6	24.0	1.1	3.9	-	
	50歳代	219	50.2	68.0	45.7	22.4	22.8	23.3	1.8	5.5	0.5	
	60歳代	269	38.7	68.0	39.4	30.1	23.8	34.9	1.9	6.3	-	
	70歳以上	272	39.0	68.4	32.7	34.2	22.1	41.2	0.4	8.1	1.5	

女性が職業を持つことについての考え方

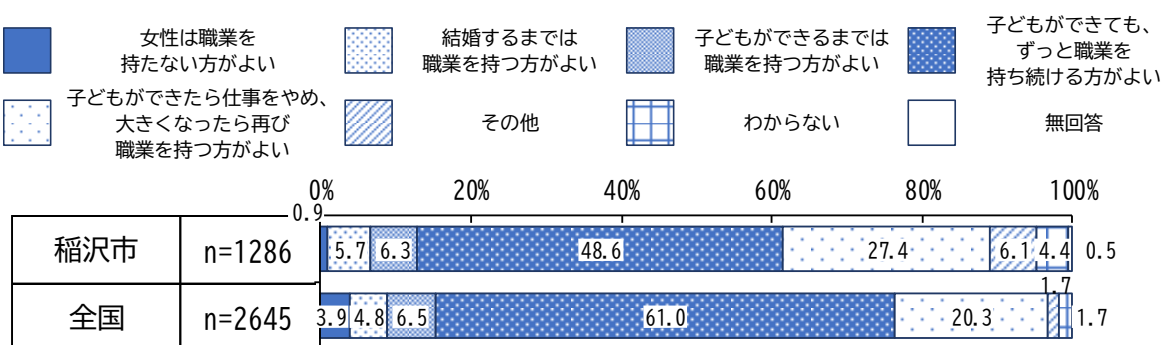
問9 女性が職業を持つことについて、あなたの考え方は次のどれに近いですか。(〇はひとつ)

- 女性が職業を持つことについては、全体で「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が48.6%と最も高く、次いで「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」(27.4%)となっています。
- 性別では、女性で「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が4.5ポイント、男性より高くなっています。
- 年代別では、30歳代から50歳代にかけて、「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が5割以上となっています。一方で、70歳以上で「結婚するまでは職業を持つ方がよい」が13.2%と、他の年代より高くなっています。
- 全国調査と比較すると、全国で「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が12.4ポイント、稲沢市より高くなっています。一方で、稲沢市で「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が7.1ポイント、全国より高くなっています。

図表 46 女性が職業を持つことについての考え方 (全体・性別・年代別)



図表 47 女性が職業を持つことについての考え方 (全国調査との比較)

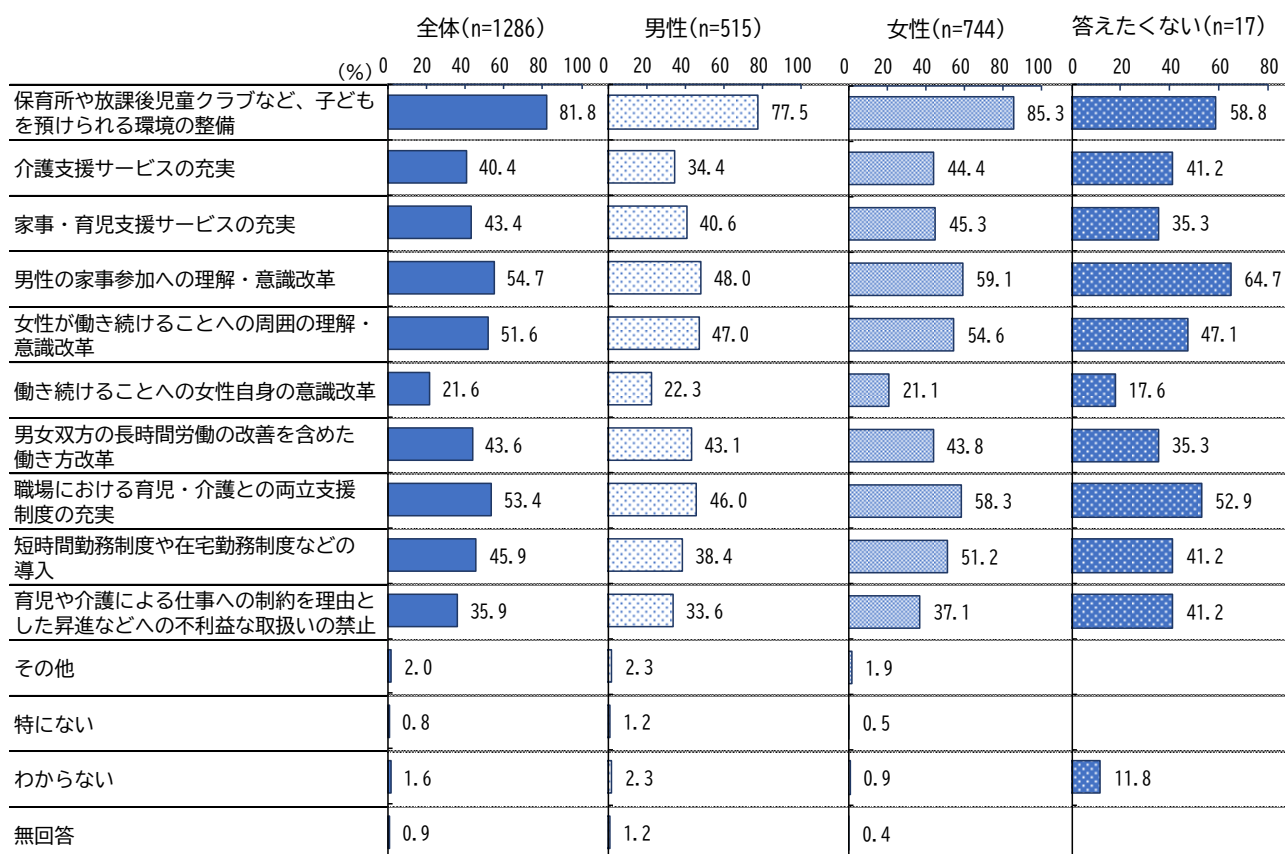


女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なこと

問10 あなたは、女性が出産後も離職せずと同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 出産後も同じ職場で働き続けるために必要なことは、全体で「保育所や放課後児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が81.8%と最も高く、次いで「男性の家事参加への理解・意識改革」(54.7%)、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」(53.4%)、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」(51.6%)となっています。
- 性別では、女性で「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」が12.8ポイント、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が12.3ポイント、男性より高くなっています。

図表 48 女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なこと (全体・性別)



■ 年代別では、30歳代で「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」が59.0%と、他の年代より高くなっています。

図表 49 女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なこと（年代別）

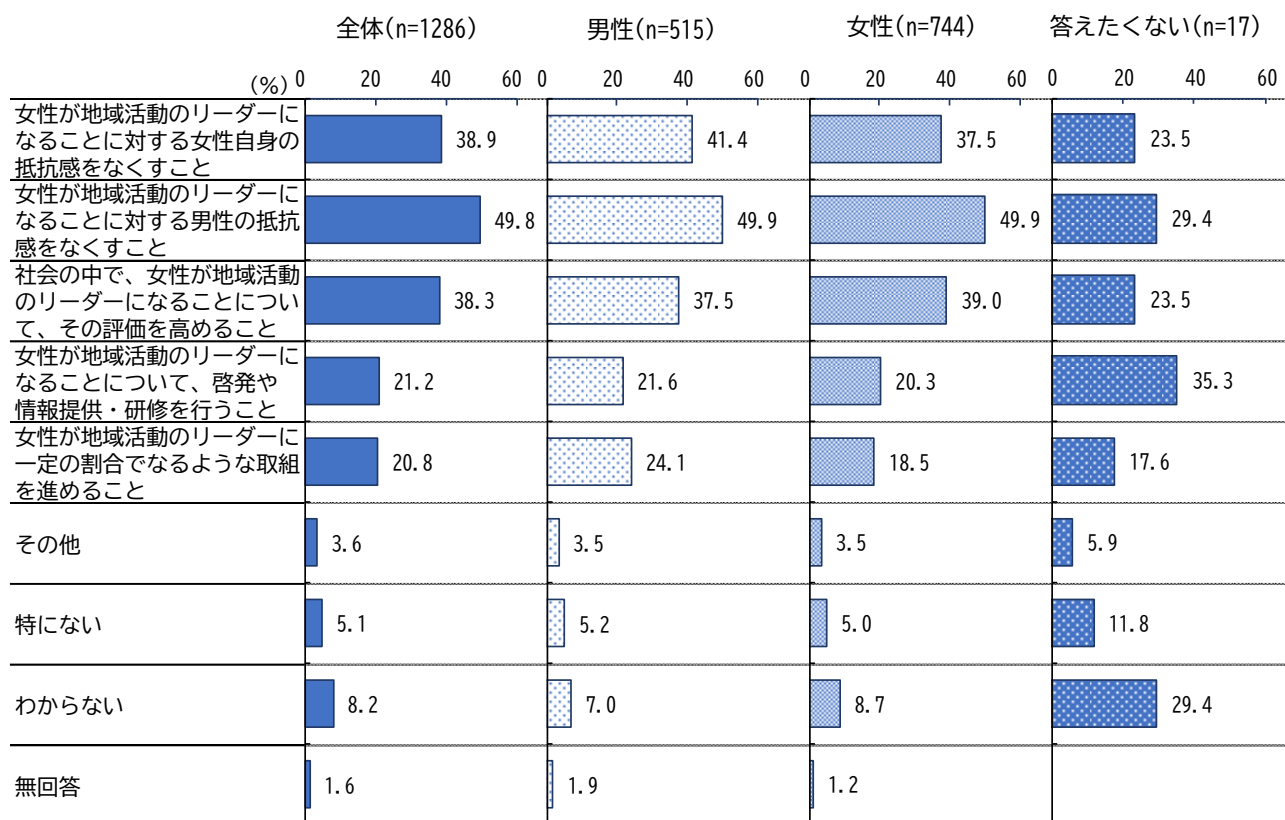
	全体	問10 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いませんか。														
		環境の整備	保育所や放課後児童クラブなど、子どもを預けられる	介護支援サービスの充実	家事・育児支援サービスの充実	男性の家事参加への理解・意識改革	周囲の理解・意識改革	女性が働き続けることへの周知	働き続けることへの意識改革	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	職場における育児・介護と両立支援制度の充実	短時間勤務制度や在宅勤務への導入	育児や介護による仕事への不利な取扱いの禁止	その他	特になし	わからない
全体	1,286	81.8	40.4	43.4	54.7	51.6	21.6	43.6	53.4	45.9	35.9	2.0	0.8	1.6	0.9	
年代	18-29歳	162	82.1	35.2	41.4	66.7	59.9	19.1	50.0	55.6	54.9	40.1	1.2	0.6	0.6	0.6
	30歳代	173	84.4	30.1	49.7	63.6	52.6	20.2	59.0	59.0	59.0	37.6	5.2	-	1.7	1.2
	40歳代	179	79.9	37.4	43.0	53.6	47.5	20.7	41.9	48.0	49.7	33.5	1.7	0.6	1.7	-
	50歳代	219	86.8	48.4	50.2	57.5	54.8	18.7	43.4	62.6	45.2	39.7	0.9	-	1.8	0.5
	60歳代	269	79.9	40.5	39.4	47.6	51.7	24.5	38.7	48.7	39.8	32.7	2.2	0.4	1.5	1.1
	70歳以上	272	79.4	45.2	38.6	47.4	45.6	23.5	35.7	48.5	36.4	33.1	1.5	2.6	2.2	0.7

女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと

問 11 あなたは、自治会長やPTA会長など、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 女性が地域活動のリーダーになるために必要なことは、全体で「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性の抵抗感をなくすこと」が49.8%と最も高く、次いで「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」(38.9%)、「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること」(38.3%)となっています。
- 性別では、男性で「女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること」が5.6ポイント、女性より高くなっています。

図表 50 女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと(全体・性別)



■ 年代別では、60歳代と70歳以上で、「女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと」が2割以上となっています。

図表 51 女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと（年代別）

	全体	問11 あなたは、自治会長やPTA 会長など、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。									
		なる女性 く女性 す女性 こ女性 と女性	する女性 る女性 こ女性 と女性	その女性 の女性 評女性 価女性 を女性 高女性 め女性 る女性 こ女性 と女性	地域女性 の女性 活女性 動女性 中女性 で女性 、女性 女女性 性女性 が女性 に女性	社女性 会女性 を女性 啓女性 行女性 う女性 情女性 報女性 提女性 供女性 ・女性 い女性	る女性 な女性 こ女性 よ女性 う女性 一女性 定女性 域女性 取女性 組女性 割女性 動女性 を女性 合女性 の女性 進女性 で女性 り女性	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
全体	1,286	38.9	49.8	38.3	21.2	20.8	3.6	5.1	8.2	1.6	
年代	18-29 歳	162	35.8	51.2	38.9	17.3	17.9	3.1	5.6	9.3	1.2
	30歳代	173	37.6	47.4	32.9	13.3	22.0	5.8	6.9	12.7	1.7
	40歳代	179	38.5	46.9	38.0	16.8	17.3	8.4	3.4	6.1	0.6
	50歳代	219	37.0	53.9	38.8	16.9	20.1	3.2	4.1	7.8	1.4
	60歳代	269	43.5	48.7	40.1	27.1	20.1	1.9	5.9	6.7	2.2
	70歳以上	272	39.0	49.3	38.6	27.9	25.4	0.7	5.1	8.5	1.5

4 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の希望と現状

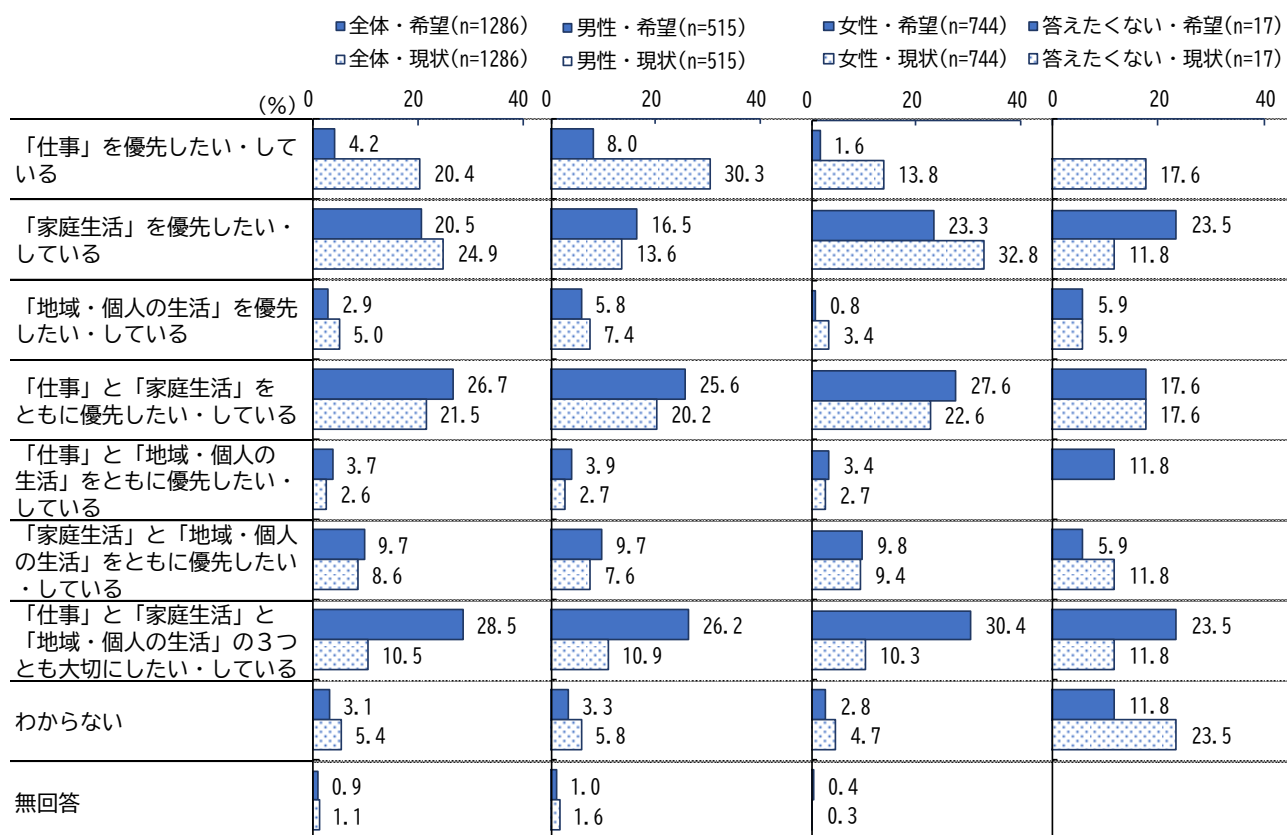
問12 あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度についてお聞きます。

(1) あなたの希望に最も近いものを1つ選択してください。(○はひとつ)

(2) あなたの現実・現状に近いものを1つ選択してください。(○はひとつ)

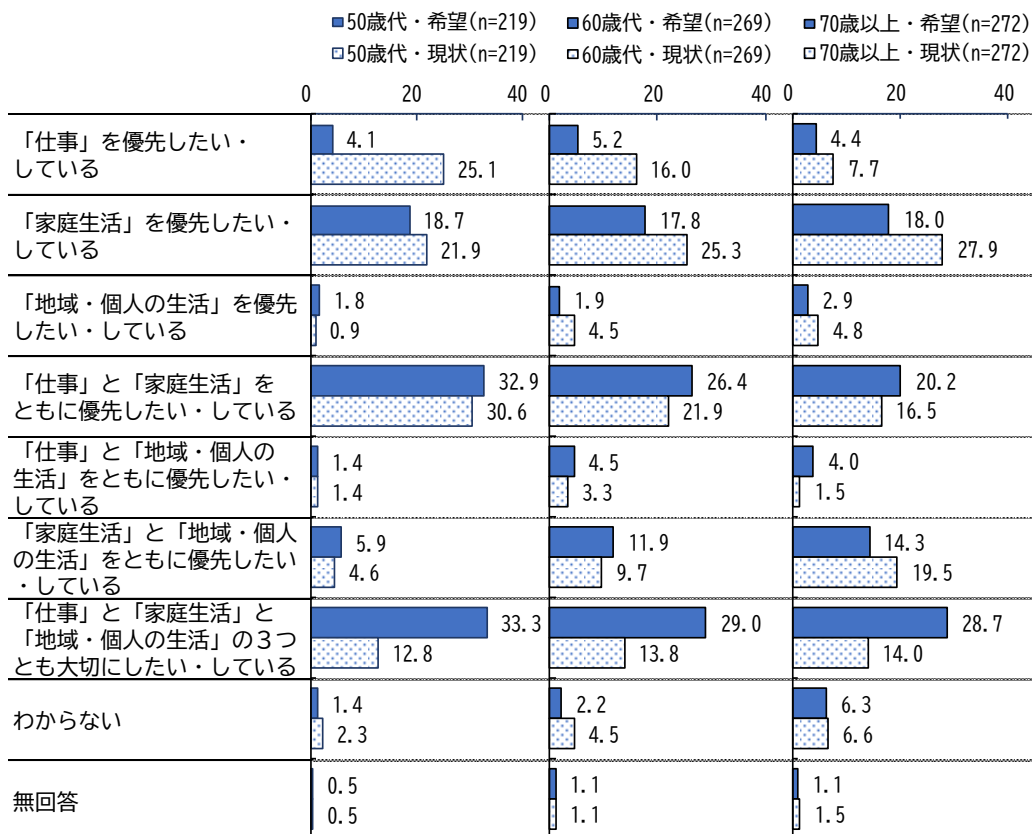
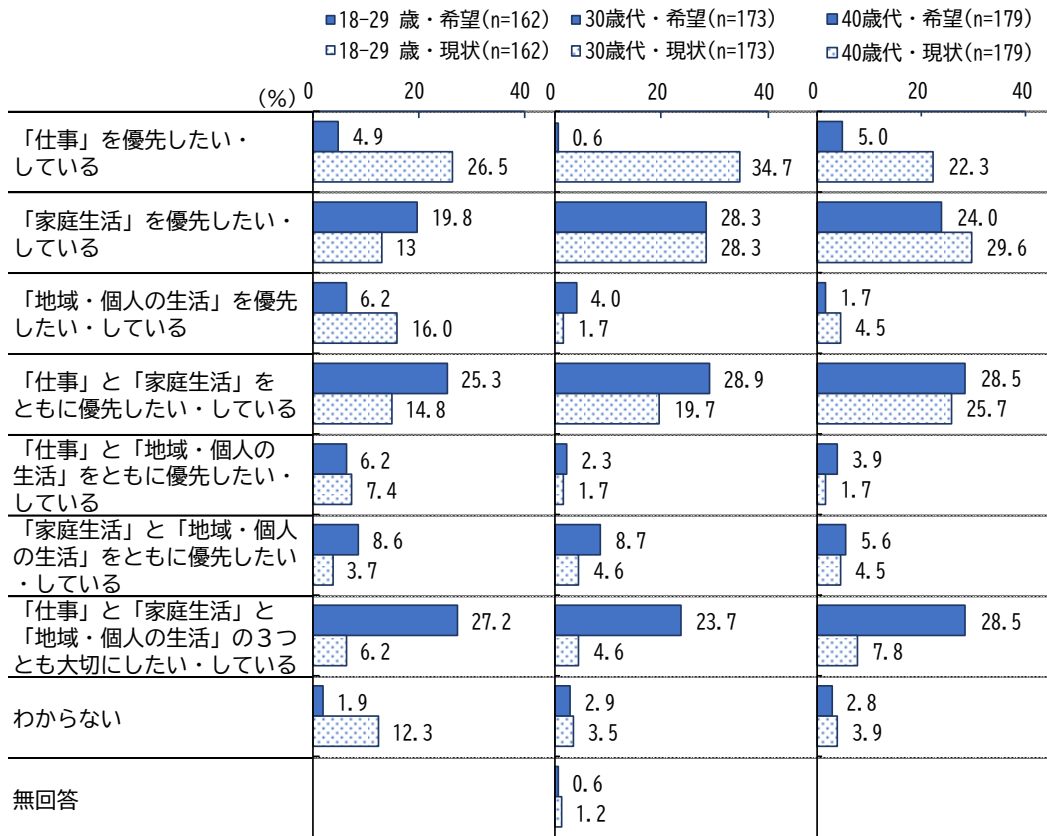
- ワーク・ライフ・バランスの希望は、全体で「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』の3つとも大切にしたい」が28.5%と最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」(26.7%)、「『家庭生活』を優先したい」(20.5%)となっています。
- ワーク・ライフ・バランスの現状は、全体で「『家庭生活』を優先している」が24.9%と最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」(21.5%)、「『仕事』を優先している」(20.4%)となっています。
- 希望と現状を比較すると、希望で「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』の3つとも大切にしたい」が18.0ポイント、現状より高くなっています。
- 性別では、希望と現状を比較すると、男性の現状で「『仕事』を優先している」が22.3ポイント、男性の希望より高くなっています。また、女性の希望で「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』の3つとも大切にしたい」が20.1ポイント、女性の現状より高くなっています。

図表 52 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の希望と現状（全体・性別）



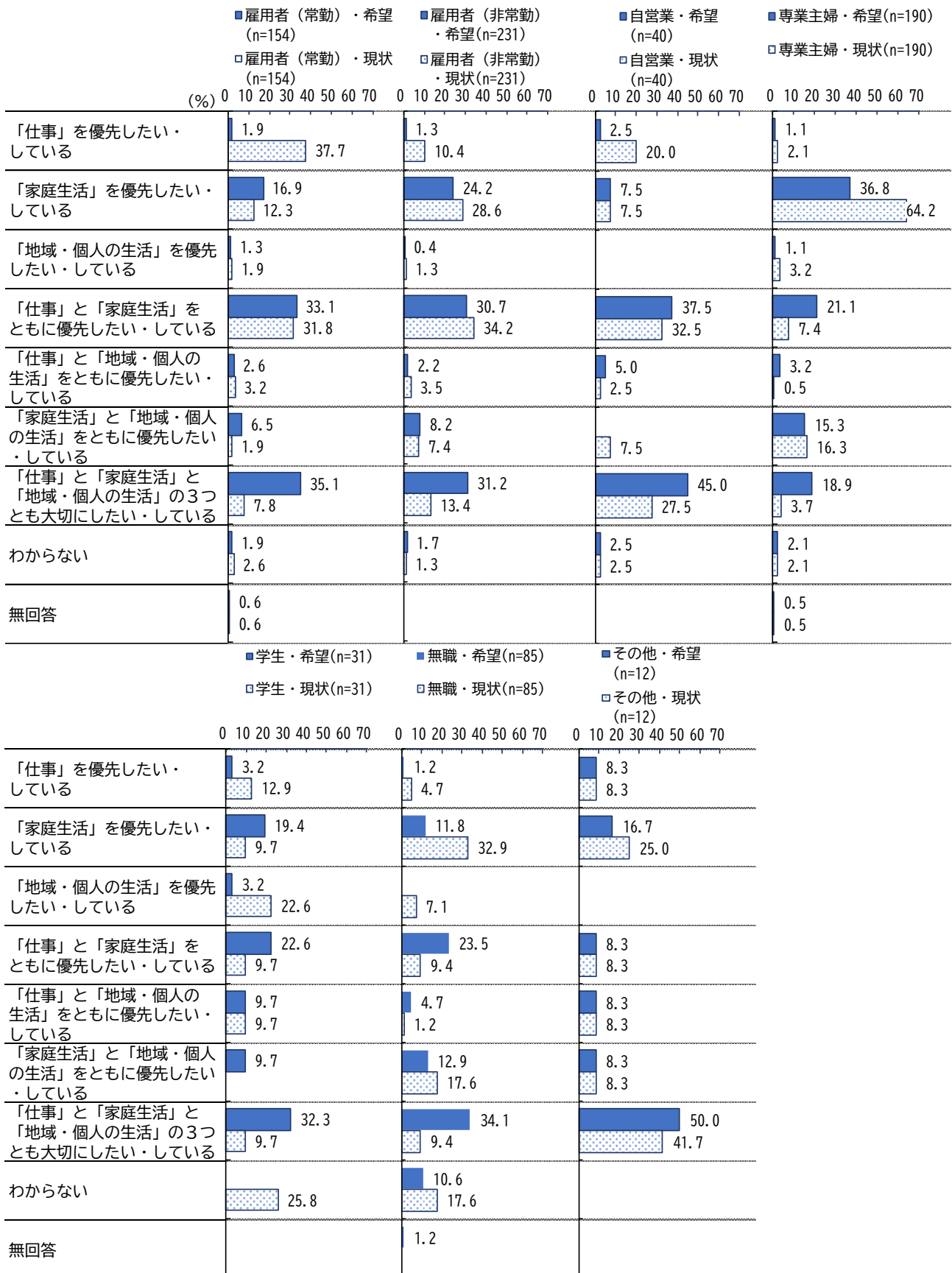
■ 年代別では、30歳代の現状で「『仕事』を優先している」が34.1ポイント、30歳代の希望より高くなっています。また、18-29歳から50歳代の希望において、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』の3つとも大切にしたい」が約20ポイント、それぞれの年代の現状より高くなっています。

図表 53 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の希望と現状（年代別）



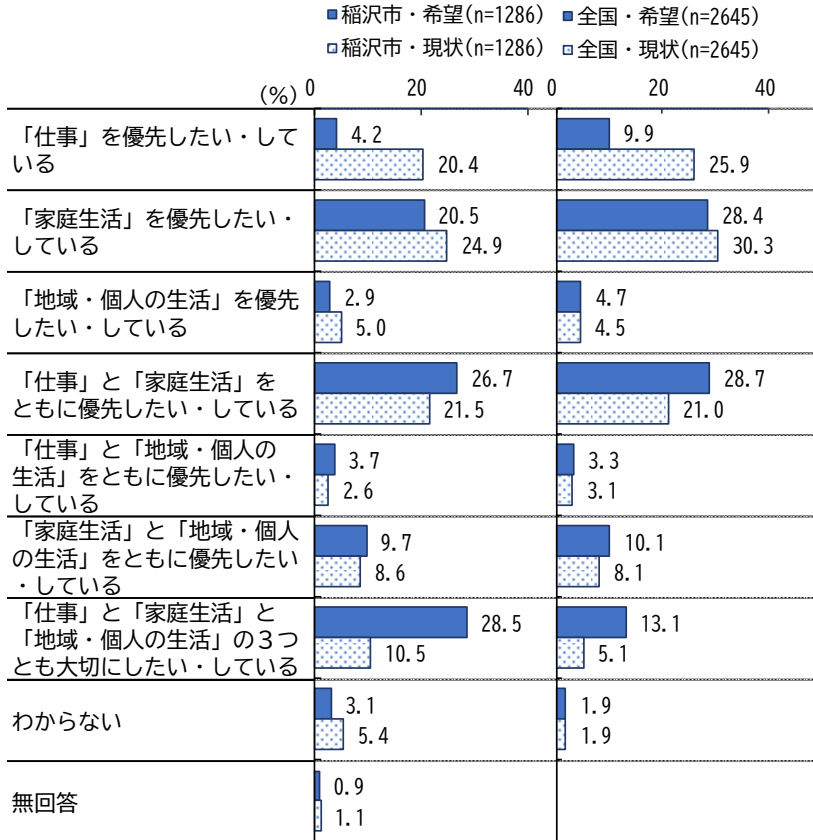
■ 女性の職業別では、専業主婦を除いて、希望で『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』の3つとも大切にしたいが最も高くなっています。雇用者（常勤）の現状で『仕事』を優先しているが35.8ポイント、雇用者（常勤）の希望より高くなっています。また、専業主婦の現状で『家庭生活』を優先しているが27.4ポイント、専業主婦の希望より高くなっています。

図表 54 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の希望と現状（女性の職業別）



- 全国調査と比較すると、稲沢市の希望では「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』の3つとも大切にしたい」が28.5%、全国の希望では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が28.7%と、それぞれ最も高くなっています。
- 現状では、稲沢市と全国ともに「『家庭生活』を優先している」が最も高くなっています。

図表 55 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の希望と現状（全国調査との比較）



5 ドメスティック・バイオレンス（DV）や性的少数者などについて

ドメスティック・バイオレンスに関して知っていること

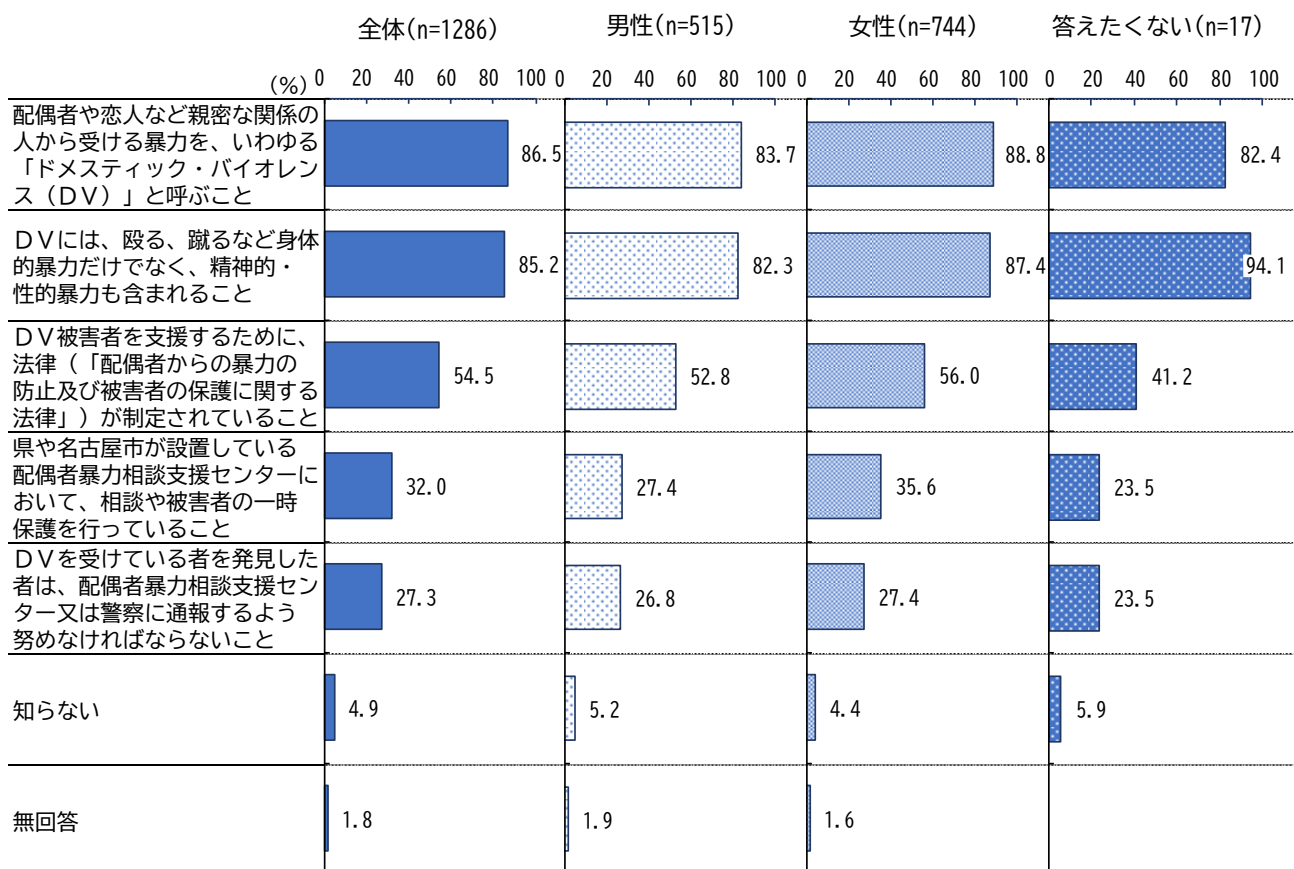
問 13 ドメスティック・バイオレンスについてお伺いします。

(1) あなたは、ドメスティック・バイオレンスに関する次のことについて知っていますか。

(○はいくつでも)

- ドメスティック・バイオレンスに関して知っていることは、全体で「配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる『ドメスティック・バイオレンス（DV）』と呼ぶこと」が86.5%と最も高く、次いで「DVには、殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれること」（85.2%）、「DV被害者を支援するために、法律（「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」）が制定されていること」（54.5%）となっています。
- 性別では、女性で「県や名古屋市が設置している配偶者暴力相談支援センターにおいて、相談や被害者の一時保護を行っていること」が8.2ポイント、男性より高くなっています。

図表 56 ドメスティック・バイオレンスに関して知っていること（全体・性別）

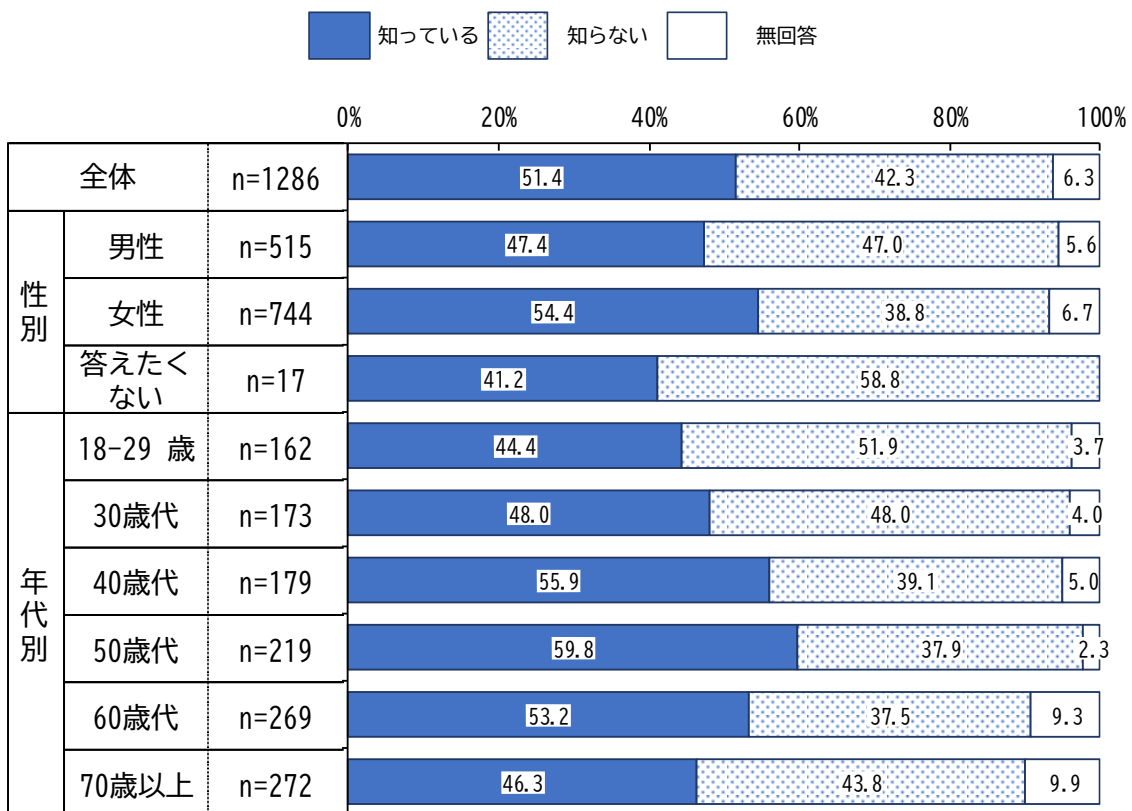


DVに関する相談窓口の認知

(2) あなたは、DVについて相談できる窓口があることを知っていますか。(〇はひとつ)

- DVに関する相談窓口を知っているかについては、全体で「知っている」が51.4%、「知らない」が42.3%となっています。
- 性別では、男性で「知らない」が8.2ポイント、女性より高くなっています。
- 年代別では、18-29歳から50歳代にかけて、年代が上がるにつれて「知っている」が高くなっており、50歳代で59.8%となっています。また、18-29歳で「知らない」が51.9%と最も高くなっています。

図表 58 DVに関する相談窓口の認知（全体・性別・年代別）



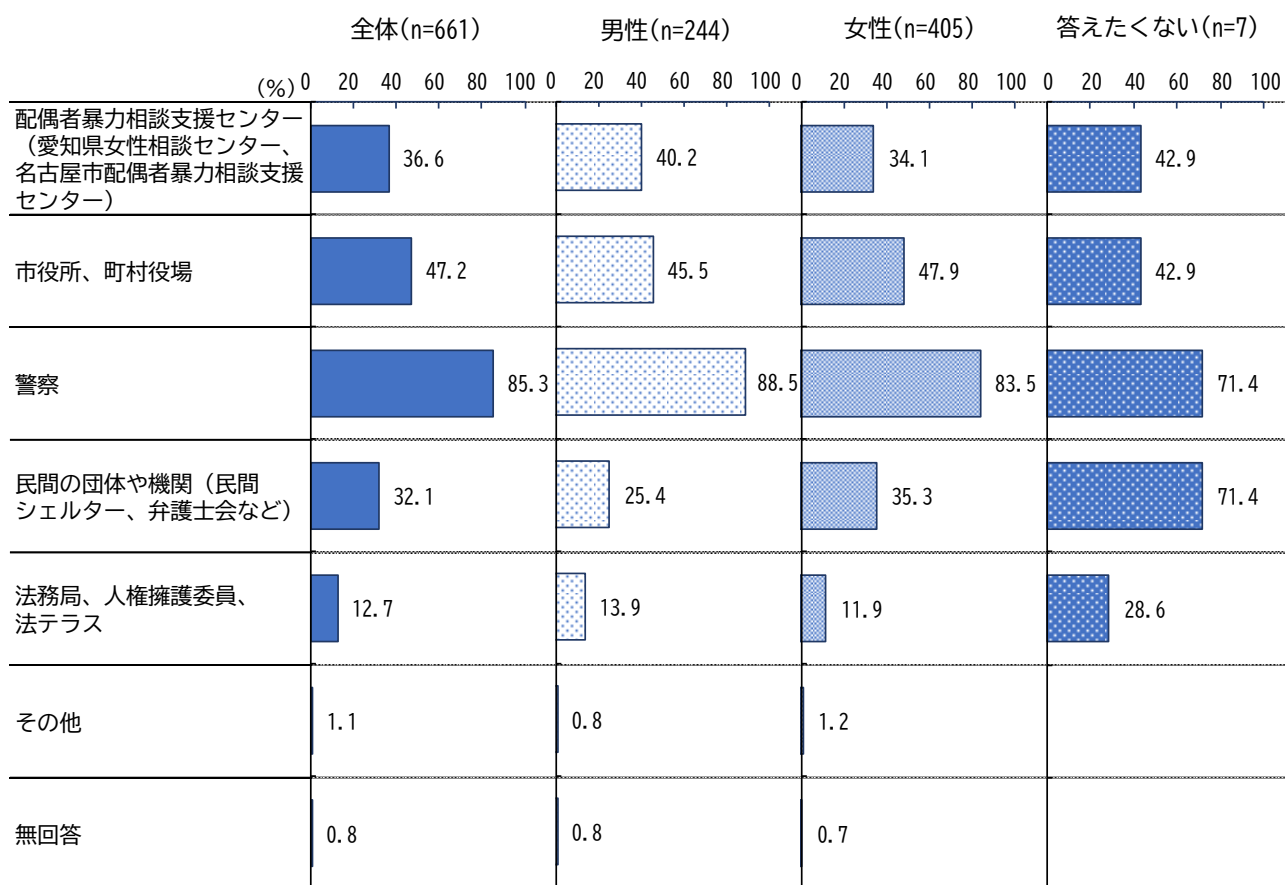
知っている相談窓口

(2) で「知っている」と答えた方に伺います。

(3) 相談できる窓口について、どのようなところを知っていますか。(〇はいくつでも)

- 知っている相談窓口は、全体で「警察」が 85.3%と最も高く、次いで「市役所、町村役場」(47.2%)、「配偶者暴力相談支援センター（愛知県女性相談センター、名古屋市配偶者暴力相談支援センター）」(36.6%)、「民間の団体や機関（民間シェルター、弁護士会など）」(32.1%)となっています。
- 性別では、女性で「民間の団体や機関（民間シェルター、弁護士会など）」が 9.9ポイント、男性で「配偶者暴力相談支援センター（愛知県女性相談センター、名古屋市配偶者暴力相談支援センター）」が 6.1ポイント、「警察」が 5.0ポイント、それぞれ異性より高くなっています。

図表 59 知っている相談窓口（全体・性別）



■ 年代別では、60歳代と70歳以上で「民間の団体や機関（民間シェルター、弁護士会など）」が2割台と、他の年代に比べて低くなっています。

図表 60 知っている相談窓口（年代別）

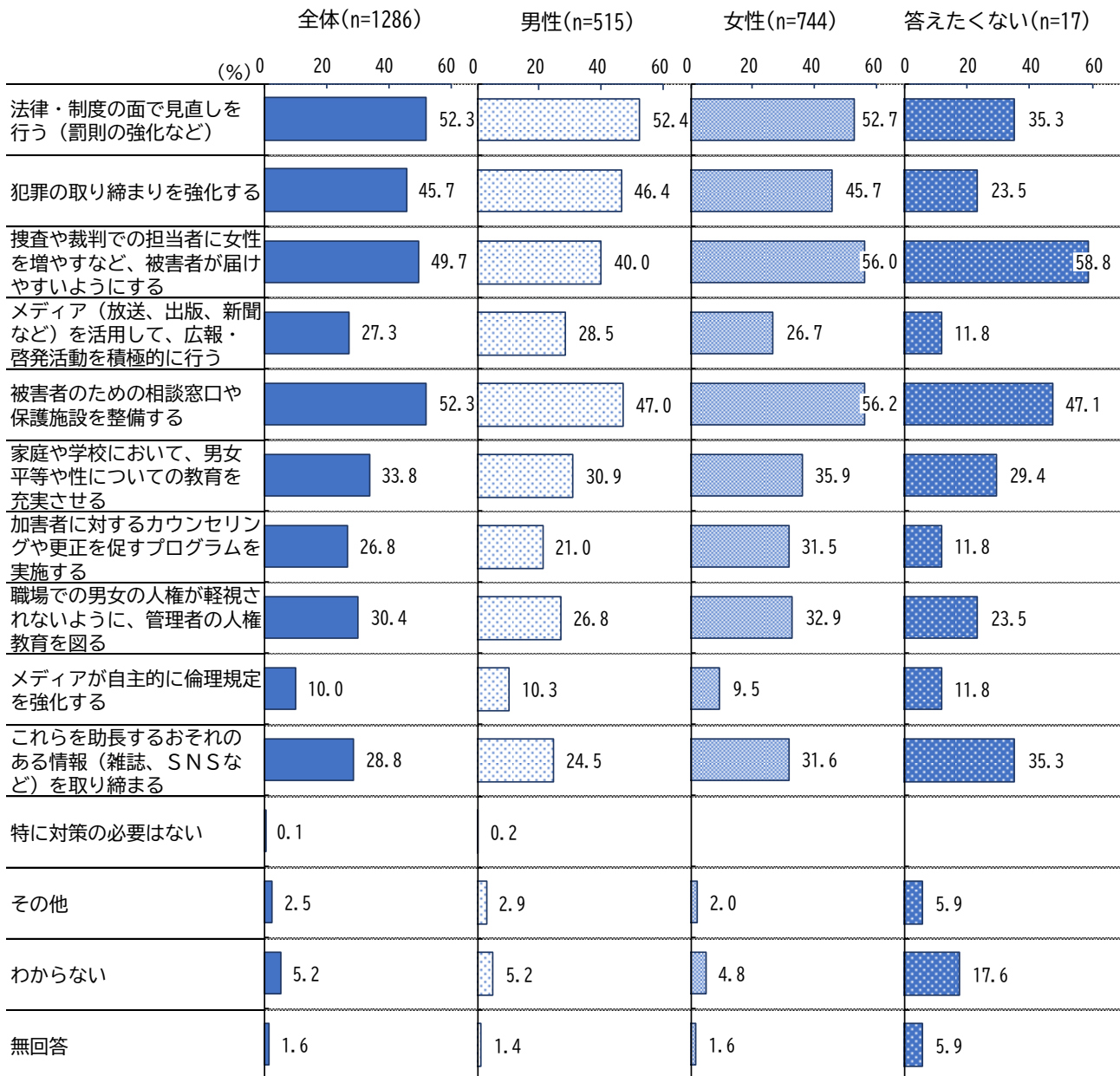
	全体	問13 (3) 相談できる窓口について、 どのようなところを知っていますか。							
		暴力相 談支 援セ ンタ ー（ 愛知 県古 屋市 配 偶者 者）	配 偶者 暴力 相談 支 援セ ンタ ー	市 役所 、 町 村 役 場	警 察	弁 護 士 会 な ど	民 間 の 団 体 や 機 関	法 務 局 、 人 権 擁 護 委 員	そ の 他
全 体	661	36.6	47.2	85.3	32.1	12.7	1.1	0.8	
年 代	18-29 歳	72	31.9	51.4	86.1	33.3	11.1	-	-
	30歳代	83	36.1	44.6	80.7	39.8	13.3	2.4	2.4
	40歳代	100	33.0	48.0	87.0	40.0	13.0	3.0	2.0
	50歳代	131	28.2	47.3	88.5	35.1	12.2	-	-
	60歳代	143	45.5	45.5	84.6	24.5	12.6	0.7	0.7
	70歳以上	126	39.7	46.0	83.3	25.4	14.3	0.8	-

DV・セクハラ・性犯罪・売買春などを防止するために必要なこと

問14 あなたは、DV、セクシュアル・ハラスメント、性犯罪、売買春などを防止するために何が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- DV・セクハラ・性犯罪・売買春等防止のために必要なことは、全体で「法律・制度の面で見直しを行う（罰則の強化など）」と「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」がともに52.3%と最も高く、次いで「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいようにする」(49.7%)、「犯罪の取り締まりを強化する」(45.7%)となっています。
- 性別では、女性で「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいようにする」が16.0ポイント、「加害者に対するカウンセリングや更生を促すプログラムを実施する」が10.5ポイント、「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」が9.2ポイント、男性より高くなっています。

図表 61 DV・セクハラ・性犯罪・売買春などを防止するために必要なこと（全体・性別）



■ 年代別では、50歳代から70歳以上にかけて「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」が5割以上となっています。なかでも、50歳代で61.2%と、他の年代より高くなっています。

図表 62 DV・セクハラ・性犯罪・売買春などを防止するために必要なこと（年代別）

	全体	問14 あなたは、DV、セクシュアル・ハラスメント、性犯罪、売買春などを防止するために何が必要だと思いますか。							
		なし（など） 法律・制度（罰則）の面で強化	強犯化の取り締まりを	被害者に訴えかけるやすさなど、	捜査や裁判の徹底	活用し、積極的に啓発	メデイア（放送、インターネット）	被害者のための相談窓口や保護施設を整備	家庭教育や学校性教育の充実
全体	1,286	52.3	45.7	49.7	27.3	52.3	33.8	26.8	
年代	18-29歳	162	60.5	50.0	57.4	27.2	48.1	41.4	32.7
	30歳代	173	60.1	58.4	48.0	32.9	48.0	37.6	37.6
	40歳代	179	51.4	48.6	47.5	25.7	47.5	30.7	27.9
	50歳代	219	58.9	47.5	55.3	26.5	61.2	30.1	26.0
	60歳代	269	43.5	40.1	50.9	24.5	54.3	32.3	17.8
	70歳以上	272	46.7	37.1	41.5	28.3	51.8	33.1	26.1

	図管軽職 理視場 者さ のれ 人な 権い 教よ 育う をに が	倫メ 理デ 規イ 定ア をが 強自 化主 す的 に	締S ま るS な （ ） を 取 り	これ ら を 助 長 す る お そ い	特 に 対 策 の 必 要 は な い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体	30.4	10.0	28.8	0.1	2.5	5.2	1.6	
年代	18-29歳	32.1	12.3	22.8	0.6	4.9	0.6	
	30歳代	30.6	8.7	27.2	-	4.0	1.7	
	40歳代	31.3	10.1	25.1	-	3.4	1.1	
	50歳代	26.5	7.8	32.9	-	0.9	0.5	
	60歳代	32.0	9.7	29.4	-	1.9	2.2	
	70歳以上	29.8	11.0	31.6	-	1.1	2.6	

性的少数者に関して知っていること

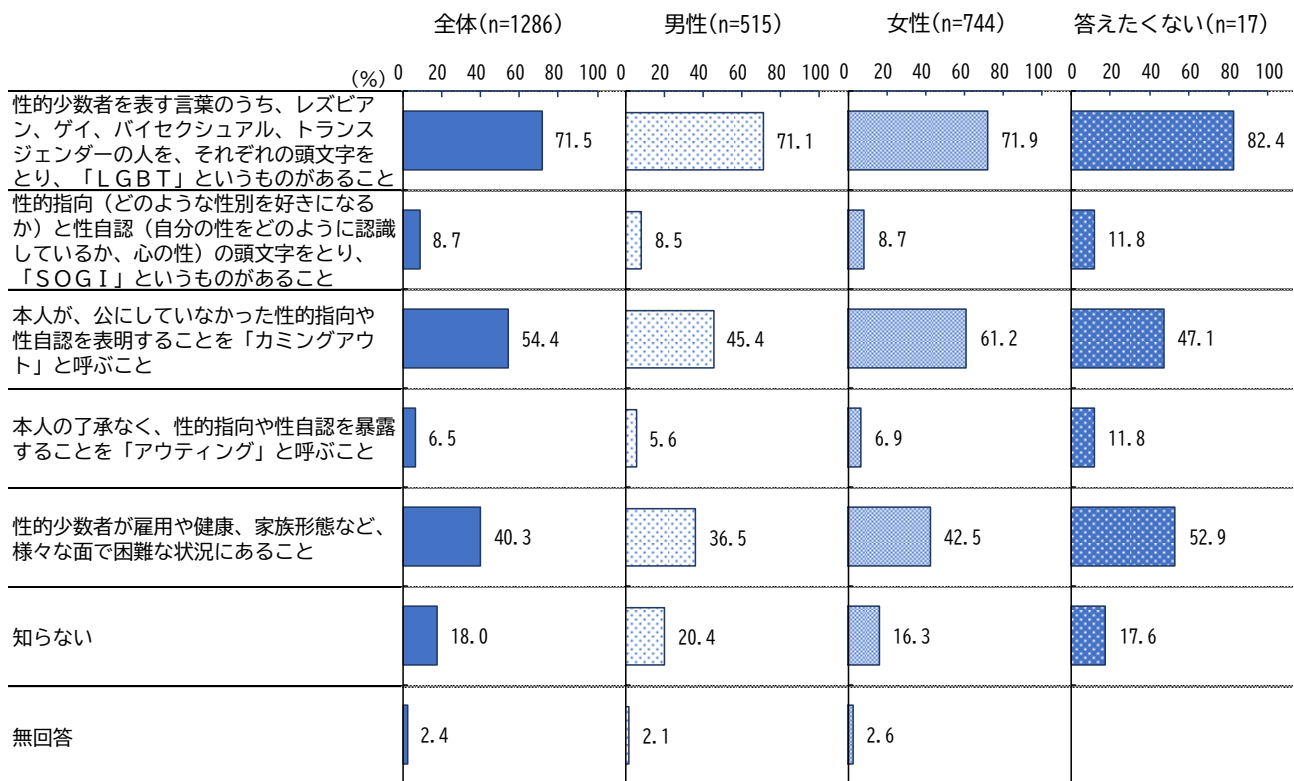
問 15 LGBTなどの性的少数者についてお伺いします。

(1) あなたは、LGBTなどの性的少数者に関する次のことについて知っていますか。

(○はいくつでも)

- 性的少数者に関して知っていることは、全体で「性的少数者を表す言葉のうち、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの人を、それぞれの頭文字をとり、『LGBT』というものがあること」が71.5%と最も高く、「本人が、公にしていなかった性的指向や性自認を表明することを『カミングアウト』と呼ぶこと」(54.4%)、「性的少数者が雇用や健康、家族形態など、様々な面で困難な状況にあること」(40.3%)となっています。
- 性別では、女性で「本人が、公にしていなかった性的指向や性自認を表明することをカミングアウトと呼ぶこと」が15.8ポイント、「性的少数者が雇用や健康、家族形態など、様々な面で困難な状況にあること」が6.0ポイント、男性より高くなっています。

図表 63 性的少数者に関して知っていること (全体・性別)



■ 年代別では、18-29歳で「性的指向（どのような性別を好きになるか）と性自認（自分の性をどのように認識しているか、心の性）の頭文字をとり、『SOGI』というものがあること」が14.2%と、他の年代より高くなっています。

図表 64 性的少数者に関して知っていること（年代別）

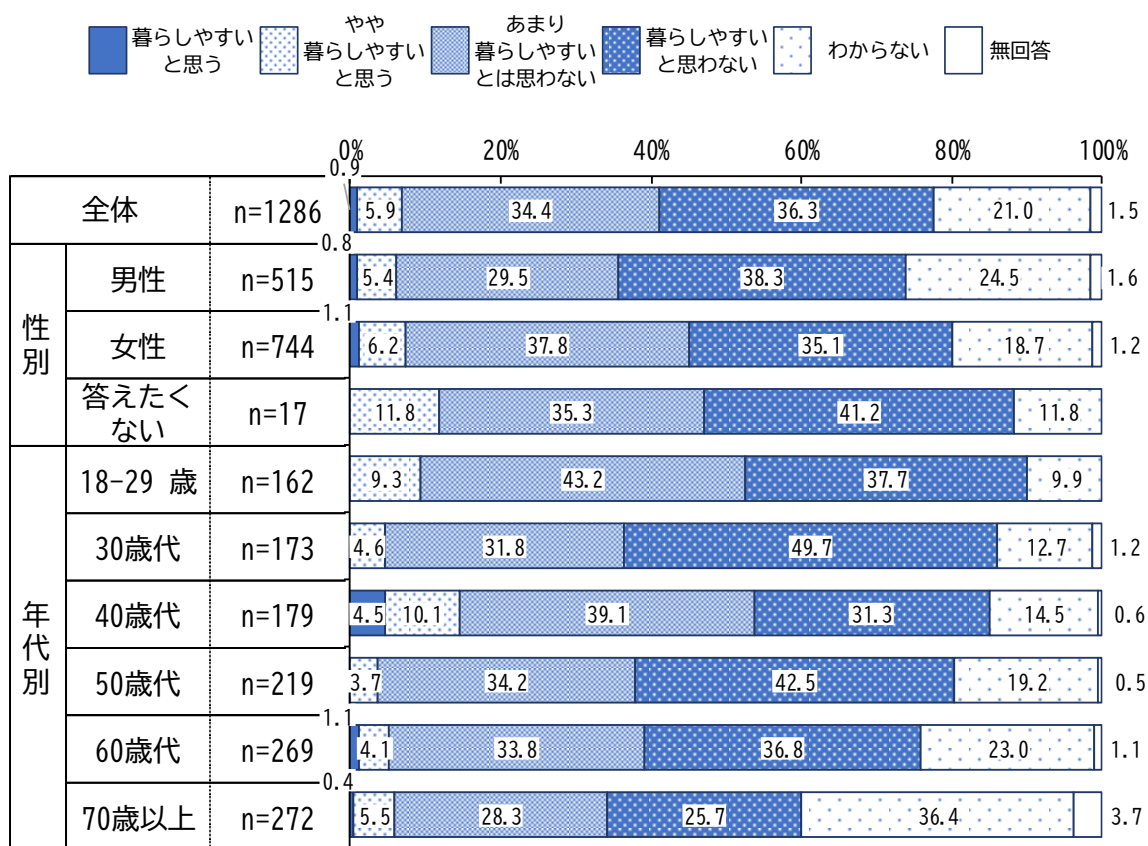
	全体	問15 (1) あなたは、LGBTなどの性的少数者に関する次のことについて知っていますか。							
		「性的指向（どのような性別を好きになるか）と性自認（自分の性をどのように認識しているか、心の性）の頭文字をとり、『SOGI』というものがあること」	「性的少数者が雇用や健康、様々な面で困難な状況にあること」	「本人が、公に性自認を表明すること」	「本人が、公に性自認を表明すること」	「本人が、公に性自認を表明すること」	「本人が、公に性自認を表明すること」	「本人が、公に性自認を表明すること」	「本人が、公に性自認を表明すること」
全体	1,286	71.5	8.7	54.4	6.5	40.3	18.0	2.4	
年代	18-29歳	162	84.0	14.2	66.7	12.3	50.0	9.3	-
	30歳代	173	79.8	7.5	65.3	7.5	49.1	11.6	1.7
	40歳代	179	76.0	8.4	67.6	9.5	41.9	14.0	1.7
	50歳代	219	79.0	8.7	68.5	5.5	43.8	12.3	0.5
	60歳代	269	69.5	7.8	49.1	3.3	38.3	19.0	2.2
	70歳以上	272	52.6	7.4	26.5	4.0	26.5	33.5	6.3

性的少数者にとっての現在の社会の暮らしやすさ

(2) LGBTなどの性的少数者の方たちにとって、現在の社会は暮らしやすい社会になっていると思いますか。(〇はひとつだけ)

- 性的少数者の方たちにとって、現在の社会は暮らしやすいと思うかについて、全体で「暮らしやすいと思わない」が36.3%と最も高く、次いで「あまり暮らしやすいとは思わない」(34.4%)、「わからない」(21.0%)となっています。
- 性別では、女性で「あまり暮らしやすいとは思わない」が8.3ポイント、男性で「わからない」が5.8ポイント、それぞれ異性より高くなっています。
- 年代別では、18-29歳と30歳代で“暮らしやすいと思わない”(「暮らしやすいと思わない」+「あまり暮らしやすいとは思わない」)が約8割となっています。また、30歳代で「暮らしやすいと思わない」が49.7%と、他の年代より高くなっています。

図表 65 性的少数者にとっての現在の社会の暮らしやすさ (全体・性別・年代別)

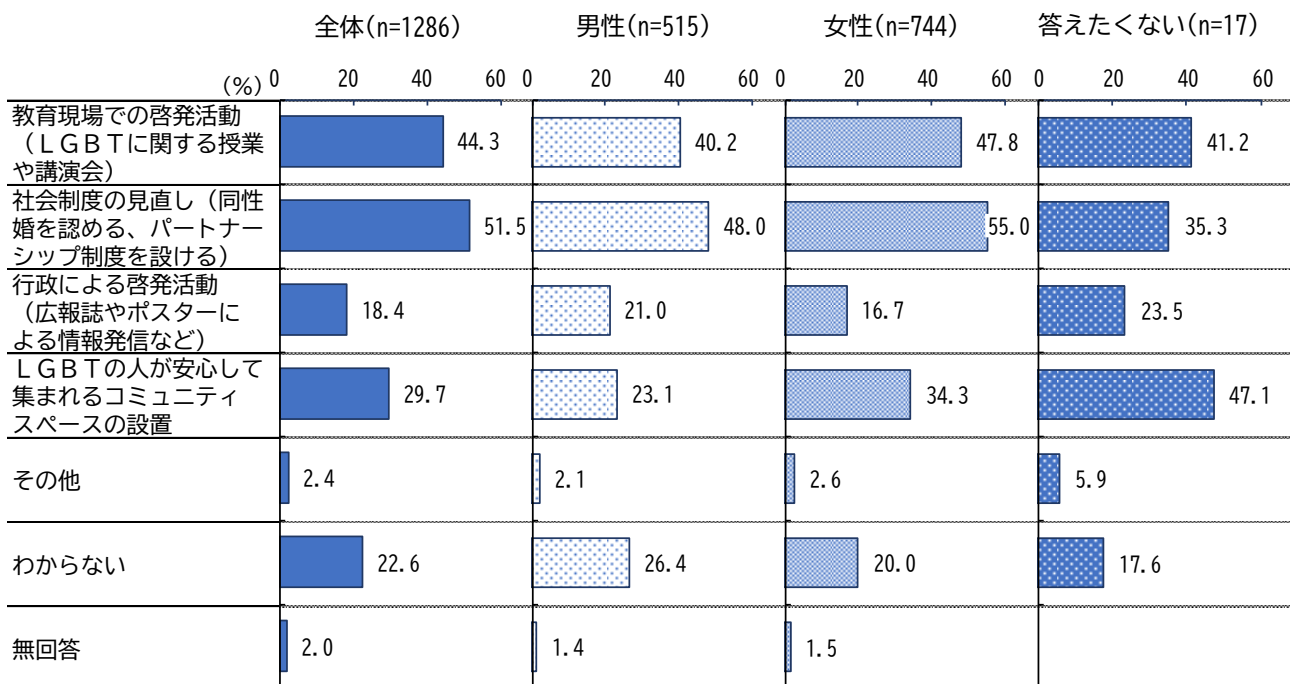


性的少数者が暮らしやすい社会をつくるために必要な取組

(3) L G B Tなどの性的少数者の人たちが暮らしやすい社会をつくるためには、どのような取組が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 性的少数者が暮らしやすい社会をつくるために必要な取組は、全体で「社会制度の見直し（同性婚を認める、パートナーシップ制度を設ける）」が51.5%と最も高く、次いで「教育現場での啓発活動（L G B Tに関する授業や講演会）」(44.3%)、「L G B Tの人が安心して集まれるコミュニティスペースの設置」(29.7%)となっています。
- 性別では、女性で「L G B Tの人が安心して集まれるコミュニティスペースの設置」が11.2ポイント、「教育現場での啓発活動（L G B Tに関する授業や講演会）」が7.6ポイント、「社会制度の見直し（同性婚を認める、パートナーシップ制度を設ける）」が7.0ポイント、男性より高くなっています。また、男性で「わからない」が6.4ポイント、女性より高くなっています。

図表 66 性的少数者が暮らしやすい社会をつくるために必要な取組（全体・性別）



■ 年代別では、70歳以上を除いて、「社会制度の見直し（同性婚を認める、パートナーシップ制度を設ける）」が最も高くなっています。なかでも、18-29歳で72.8%と、他の年代より高くなっています。

図表 67 性的少数者が暮らしやすい社会をつくるために必要な取組（年代別）

	全体	問15 (3) LGBTなどの性的少数者の人たちが暮らしやすい社会をつくるためには、どのような取組が必要だと思いますか。								
		関連する授業や講演（活動する現場での啓発）	教育現場での啓発	パートナーシップ制度を設ける	（社会制度の見直し、同性婚を認める）	（情報発信など）	行政による啓発活動	（LGBT集まる人のコミュニティ）	その他	わからない
全体	1,286	44.3	51.5	18.4	29.7	2.4	22.6	2.0		
年代	18-29歳	162	49.4	72.8	23.5	42.6	5.6	9.3	-	
	30歳代	173	56.1	62.4	9.8	38.7	4.6	11.6	0.6	
	40歳代	179	50.8	53.1	15.6	34.1	3.4	18.4	-	
	50歳代	219	50.7	58.4	21.0	27.9	0.9	17.4	0.9	
	60歳代	269	38.3	46.5	17.5	28.3	1.1	27.5	0.4	
	70歳以上	272	32.0	32.4	22.1	17.3	1.1	39.3	5.1	

6 男女共同参画行政について

「男女共同参画社会」に関する言葉で知っているもの

問16 あなたは、次にあげる「男女共同参画社会」に関する言葉を知っていますか。

(○はいくつでも)

- 「男女共同参画社会」に関する言葉で知っているものは、全体で「男女雇用機会均等法」が58.6%と最も高く、次いで「男女共同参画社会」(39.0%)、「ジェンダー(社会的性別)」(27.0%)となっています。また、「知らない」が31.1%となっています。
- 性別では、男性で「男女共同参画社会」が7.1ポイント、「男女雇用機会均等法」が6.7ポイント、「女性活躍推進法」が6.0ポイント、女性より高くなっています。
- 年代別では、「いなざわ男女共同参画プラン」と「知らない」を除いて、18-29歳が他の年代より高くなっています。なかでも、「男女雇用機会均等法」と「男女共同参画社会」は6割以上となっています。

図表 68 「男女共同参画社会」に関する言葉で知っているもの(全体・性別)

	全体(n=1286)	男性(n=515)	女性(n=744)	答えたくない(n=17)
(%)	0 20 40 60 80	0 20 40 60 80	0 20 40 60 80	0 20 40 60 80
男女共同参画社会	39.0	43.5	36.4	35.3
いなざわ男女共同参画プラン	7.9	6.4	9.0	
ジェンダー(社会的性別)	27.0	26.0	28.1	23.5
ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	6.7	6.4	7.1	
女子差別撤廃条約	11.8	13.4	10.5	29.4
男女雇用機会均等法	58.6	62.9	56.2	52.9
女性活躍推進法	16.3	20.0	14.0	17.6
知らない	31.1	30.1	32.1	35.3
無回答	2.2	1.2	1.9	

図表 69 「男女共同参画社会」に関する言葉で知っているもの(年代別)

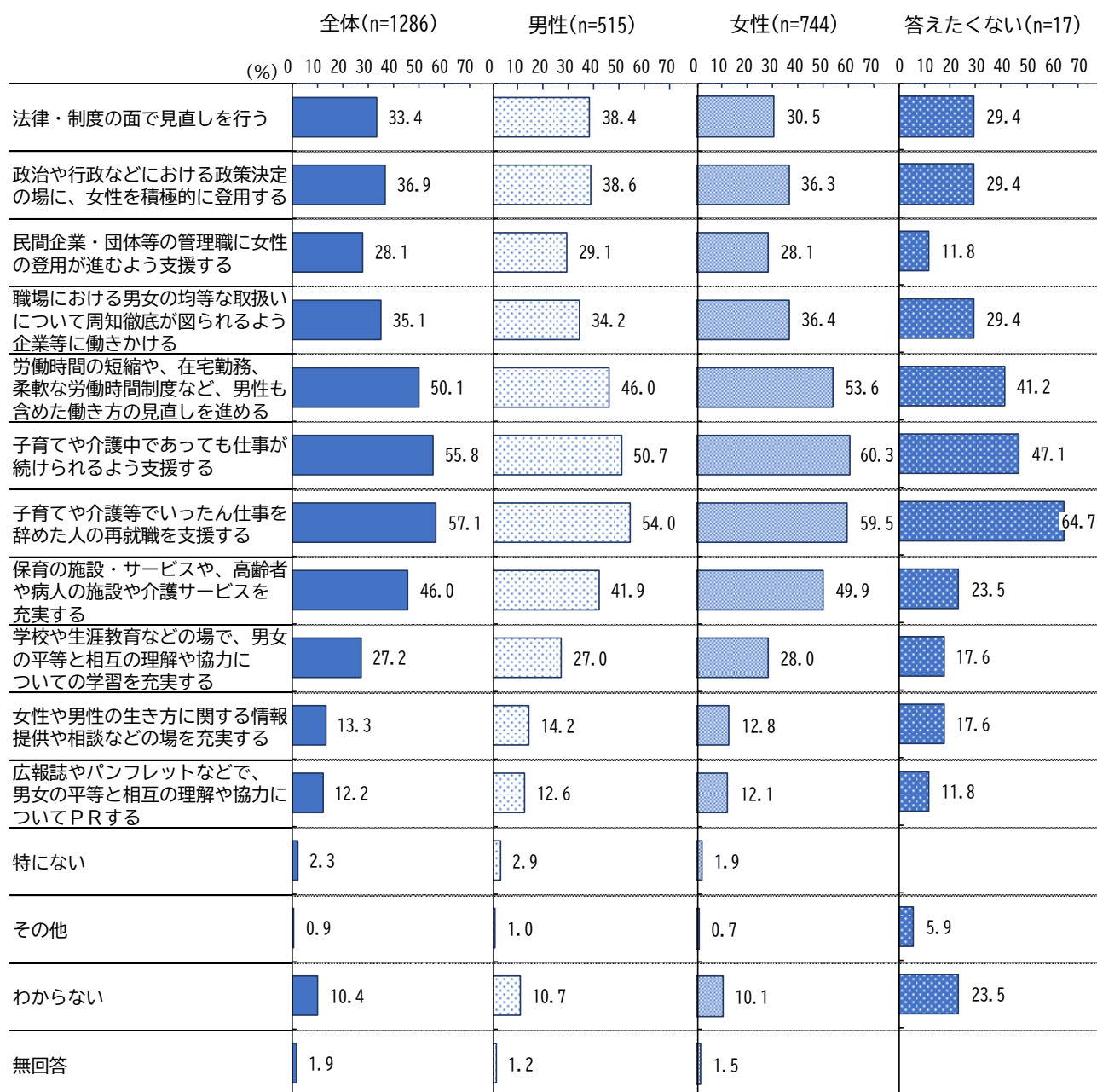
	全体	問16 あなたは、次にあげる「男女共同参画社会」に関する言葉を知っていますか。									
		男女共同参画社会	いなざわ男女共同参画プラン	ジェンダー(社会的性別)	積極的改善措置	ポジティブ・アクション	女子差別撤廃条約	男女雇用機会均等法	女性活躍推進法	知らない	無回答
全体	1,286	39.0	7.9	27.0	6.7	11.8	58.6	16.3	31.1	2.2	
年代	18-29歳	162	64.8	4.9	45.7	11.7	24.7	69.1	23.5	25.9	-
	30歳代	173	39.3	4.6	38.7	6.9	19.1	65.9	20.8	28.9	1.2
	40歳代	179	26.8	6.1	27.4	3.9	7.8	60.3	17.3	33.5	-
	50歳代	219	33.3	6.8	25.6	4.1	7.8	58.4	12.3	32.0	1.4
	60歳代	269	41.3	10.4	25.3	7.4	8.9	55.0	17.5	29.7	2.2
	70歳以上	272	34.9	11.0	12.1	7.0	8.5	51.8	11.4	35.7	3.3

男女共同参画社会推進のために行政が力を入れていくべきこと

問 17 あなたは、男女共同参画社会を推進していくために、行政は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

- 男女共同参画社会推進のために行政が今後力を入れていくべきことは、全体で「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が 57.1%と最も高く、次いで「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」(55.8%)、「労働時間の短縮や、在宅勤務、柔軟な労働時間制度など、男性も含めた働き方の見直しを進める」(50.1%)となっています。
- 性別では、女性で「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が 9.6 ポイント、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が 8.0 ポイント、「労働時間の短縮や在宅勤務、柔軟な労働時間制度など、男性も含めた働き方の見直しを進める」が 7.6 ポイント、男性より高くなっています。一方で、男性で「法律・制度の面で見直しを行う」が 7.9 ポイント、女性より高くなっています。

図表 70 男女共同参画社会推進のために行政が力を入れていくべきこと (全体・性別)



■ 年代別では、18-29 歳で「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が70.4%と、他の年代より高くなっています。また、年代が下がるにつれて「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が高くなっています。

図表 71 男女共同参画社会推進のために行政が力を入れていくべきこと（年代別）

	全体	問17 あなたは、男女共同参画社会を推進していくために、行政は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。							
		を法 行律 う・ 制 度 の 面 で 見 直 し	積 極 的 に 登 用 す る	政 治 的 な 登 用 に お け る	う 職 民 支 援 す る 登 団 体 が 等 進 む 管 理	等 徹 底 に 働 き か け る よ う の 企 業	な 取 扱 い に お け る よ う の 均 等	職 場 に お け る 男 性 の 進 め る	勤 務 時 間 の 短 縮 や 在宅
全 体	1,286	33.4	36.9	28.1	35.1	50.1	55.8	57.1	
年 代	18-29 歳	162	42.0	37.0	34.0	39.5	63.0	70.4	
	30歳代	173	39.3	37.0	28.9	39.3	66.5	61.3	
	40歳代	179	34.6	31.8	25.7	35.2	55.3	60.9	
	50歳代	219	37.0	35.2	29.7	36.1	53.4	55.7	
	60歳代	269	26.0	38.7	24.9	35.7	44.6	52.0	
	70歳以上	272	29.8	40.8	28.7	29.8	32.7	48.9	

	す や 介 護 サ ー ビ ス を 充 実 す る	保 育 の 施 設 や サ ー ビ ス の 施 設	学 習 や 充 実 す る	理 解 や 協 力 を つ と む の 場	で 、 男 女 の 平 等 な 交 渉 の 場	学 校 や 生 涯 教 育 な ど の 場	関 連 の 情 報 を 充 実 す る	女 性 や 男 性 の 生 き か い に	つ ら い な い こ と を 理 解 す る	相 互 に 理 解 し 合 作 す る	広 報 誌 や パ ン フ レ ット	特 に な い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体	46.0	27.2	13.3	12.2	2.3	0.9	10.4	1.9							
年 代	18-29 歳	45.1	34.0	23.5	12.3	1.9	1.2	6.8							
	30歳代	48.6	30.1	15.0	9.2	1.2	1.7	12.1							
	40歳代	43.0	28.5	11.2	7.8	1.7	0.6	10.1							
	50歳代	46.6	25.1	11.4	11.4	0.9	0.5	9.6							
	60歳代	46.8	27.1	12.3	13.0	1.5	1.5	10.0							
	70歳以上	47.1	23.2	10.7	17.3	5.5	-	13.2							

■ 全国調査と比較すると、全国で「女性や男性の生き方に関する情報提供や相談などの場を充実する」が15.3ポイント、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が11.8ポイント、「民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する」が9.7ポイント、稲沢市より高くなっています。一方で、稲沢市で「労働時間の短縮や在宅勤務、柔軟な労働時間制度など、男性も含めた働き方の見直しを進める」が5.9ポイント、全国より高くなっています。

図表 72 男女共同参画社会推進のために行政が力を入れていくべきこと（全国調査との比較）

	稲沢市(n=1286)				全国(n=2645)				【全国調査の選択肢との相違点】
	(%)	0	20	40	60	0	20	40	
法律・制度の面で見直しを行う			33.4				40.1		
政治や行政などにおける政策決定の場に、女性を積極的に登用する			36.9				37.8	※国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する	
民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する			28.1				37.8		
労働時間の短縮や、在宅勤務、柔軟な労働時間制度など、男性も含めた働き方の見直しを進める			50.1				44.2	※労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める	
子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する			55.8				58.0		
子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する			57.1				52.7		
保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する			46.0				57.8		
学校や生涯教育などの場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する			27.2				28.9	※男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する	
女性や男性の生き方に関する情報提供や相談などの場を充実する			13.3				28.6	※女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	
広報誌やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする			12.2				19.3	※男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする	
特にない			2.3				2.6		
その他			0.9				0.9		
わからない			10.4				3.6		
無回答			1.9						

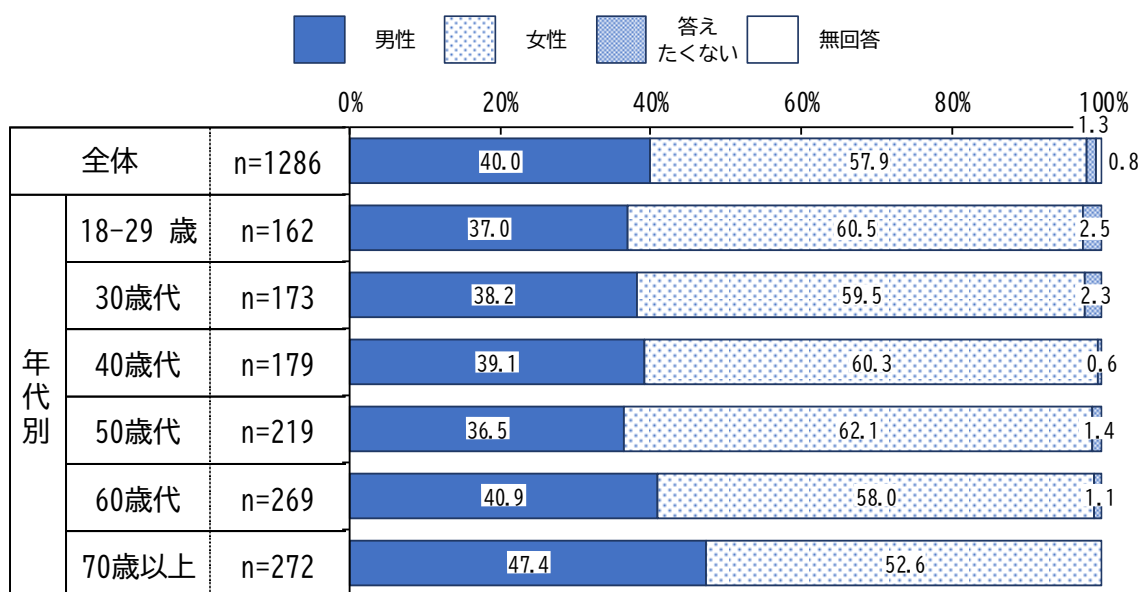
7 回答者自身のことについて

性別

A あなたの性別についてお答えください。(〇はひとつ)

- 回答者の性別は、全体で「男性」が40.0%、「女性」が57.9%、「答えたくない」が1.3%となっています。
- 年代別では、18-29歳と40歳代、50歳代で「女性」が約6割となっています。

図表 73 性別（全体・年代別）

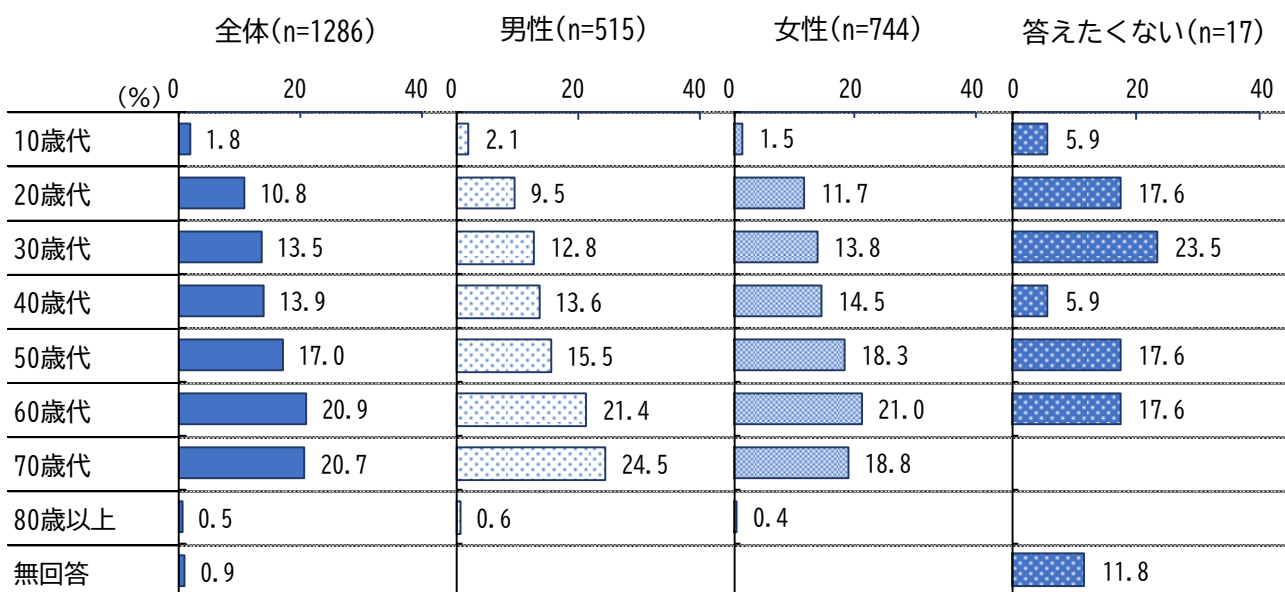


年齢

B あなたの年齢（令和元年11月1日現在）についてお答えください。(〇はひとつ)

- 回答者の年齢は、全体で「60歳代」が20.9%と最も高く、次いで「70歳代」（20.7%）、「50歳代」（17.0%）となっています。
- 性別では、男性で「70歳代」が5.7ポイント、女性より高くなっています。

図表 74 年齢（全体・性別）

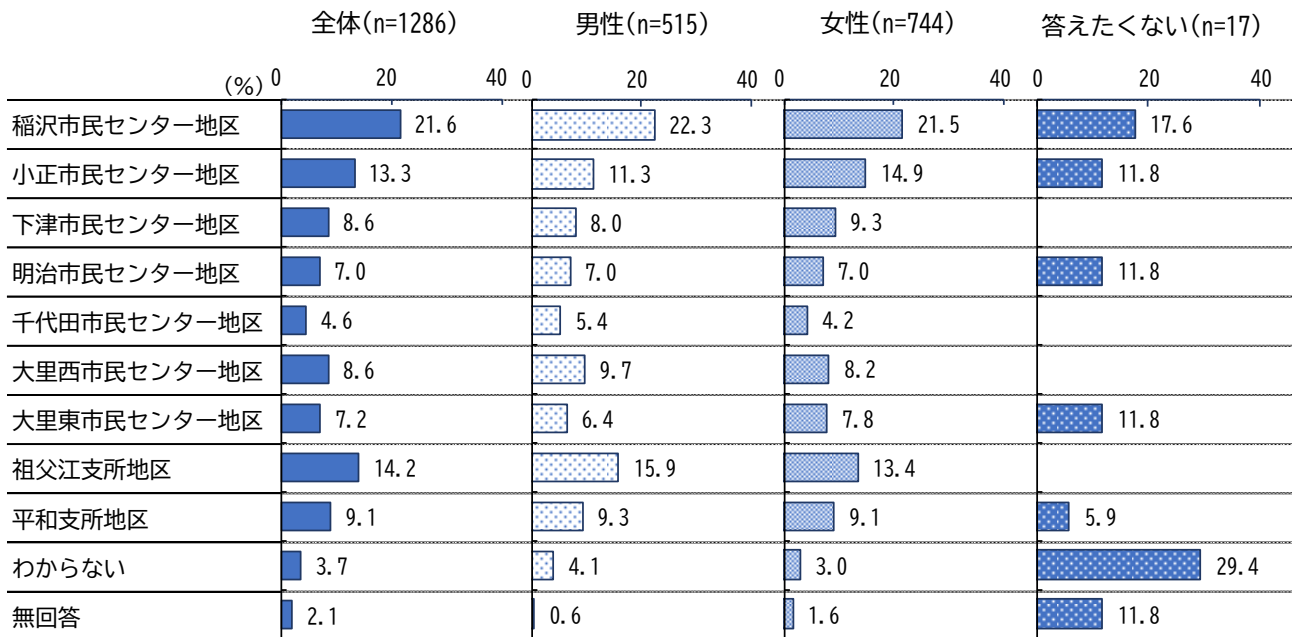


居住地区

C あなたのお住まいの地区をお答えください。(〇はひとつ)

- 回答者の居住地区は、全体で「稲沢市民センター地区」が21.6%と最も高く、次いで「祖父江支所地区」(14.2%)、「小正市民センター地区」(13.3%)となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、年代が下がるにつれて「稲沢市民センター地区」が高くなっています。また、30歳代で「下津市民センター地区」が15.0%と、他の年代より高くなっています。

図表 75 居住地区 (全体・性別)



図表 76 居住地区 (年代別)

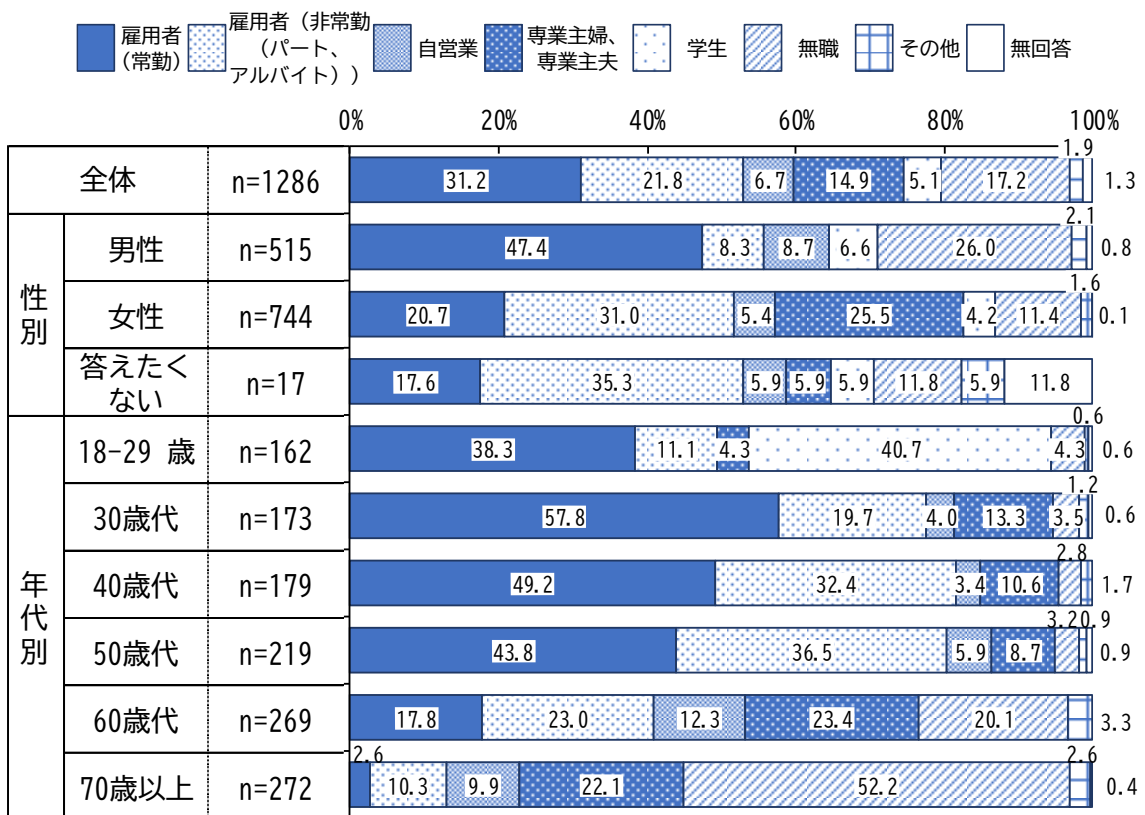
	全体	C あなたのお住まいの地区をお答えください。											
		セ稲 ン沢 市 民 地 区	セ小 正 市 民 地 区	セ下 津 市 民 地 区	セ明 治 市 民 地 区	セ千 代 田 市 民 地 区	セ大 里 西 市 民 地 区	セ大 里 東 市 民 地 区	地 区 祖 父 江 支 所	平 和 支 所 地 区	わ か ら な い	無 回 答	
全 体	1,286	21.6	13.3	8.6	7.0	4.6	8.6	7.2	14.2	9.1	3.7	2.1	
年 代	18-29 歳	162	35.2	9.9	5.6	7.4	0.6	5.6	7.4	11.7	6.2	9.9	0.6
	30歳代	173	28.9	11.6	15.0	4.6	5.8	7.5	4.0	9.2	5.8	5.8	1.7
	40歳代	179	22.3	16.8	8.9	5.6	6.1	6.7	7.3	9.5	11.7	4.5	0.6
	50歳代	219	20.5	15.5	7.8	6.8	3.2	9.6	7.8	16.4	8.2	2.7	1.4
	60歳代	269	16.4	15.2	8.2	6.3	5.6	9.3	7.8	16.4	10.4	2.6	1.9
	70歳以上	272	15.4	11.0	7.4	10.3	5.5	11.4	8.5	18.4	11.0	0.4	0.7

職業

D あなたの職業についてお答えください。(〇はひとつ)

- 回答者の職業は、「雇用者（常勤）」が31.2%と最も高く、次いで「雇用者（非常勤（パート、アルバイト）」（21.8%）、「無職」（17.2%）、「専業主婦、専業主夫」（14.9%）となっています。
- 性別では、男性は「雇用者（常勤）」が47.4%と最も高く、次いで「無職」（26.0%）となっています。一方で、女性は「雇用者（非常勤（パート、アルバイト）」が31.0%と最も高く、次いで「専業主婦、専業主夫」（25.5%）となっています。
- 年代別では、30歳代から50歳代にかけて、年代が上がるにつれて「雇用者（常勤）」が低くなるとともに、「雇用者（非常勤（パート、アルバイト）」が高くなっています。また、18-29歳で「学生」が40.7%、60歳代で「専業主婦、専業主夫」が23.4%、70歳以上で「無職」が52.2%と、それぞれ最も高くなっています。

図表 77 職業（全体・性別・年代別）

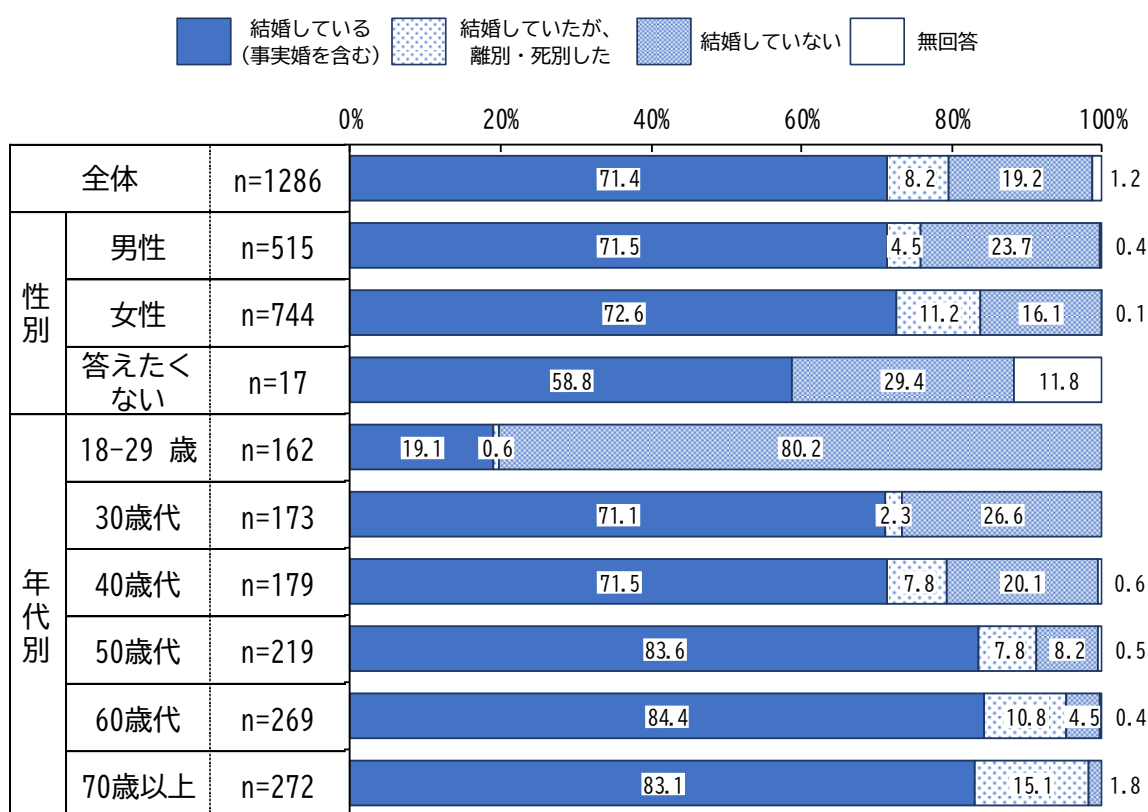


婚姻状況

E あなたは結婚していますか。(〇はひとつ)

- 回答者の婚姻状況は、全体で「結婚している（事実婚を含む）」が71.4%、「結婚していたが、離別・死別した」が8.2%、「結婚していない」が19.2%となっています。
- 性別では、男性で「結婚していない」が7.6ポイント、女性で「結婚していたが、離別・死別した」が6.7ポイント、それぞれ異性より高くなっています。
- 年代別では、「結婚している（事実婚を含む）」が30歳代と40歳代で約7割、50歳代から70歳以上にかけて8割以上となっています。

図表 78 婚姻状況（全体・性別・年代別）

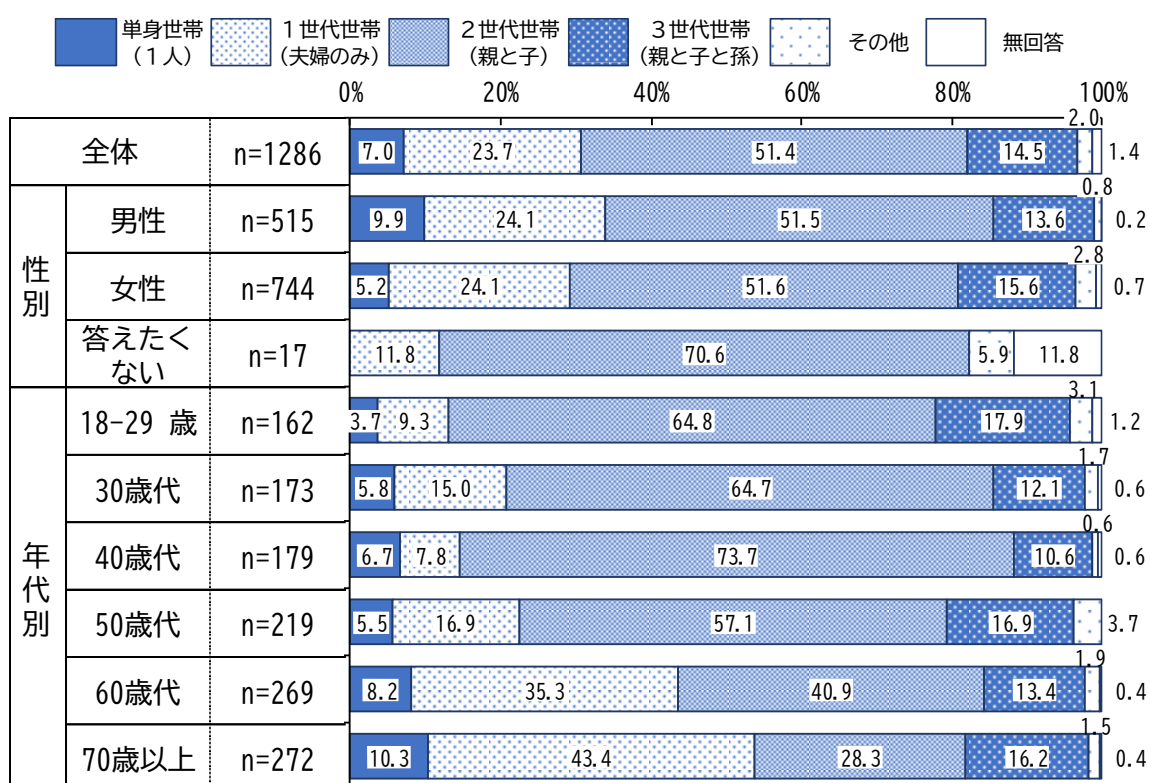


家族構成

F あなたの世帯の家族構成についてお答えください。(〇はひとつ)

- 回答者の家族構成は、全体で「2世代世帯（親と子）」が51.4%と最も高く、次いで「1世代世帯（夫婦のみ）」(23.7%)、「3世代世帯（親と子と孫）」(14.5%)、「単身世帯（1人）」(7.0%)となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、18-29歳から60歳代にかけては「2世代世帯（親と子）」、70歳以上では「1世代世帯（夫婦のみ）」がそれぞれ最も高くなっています。

図表 79 家族構成（全体・性別・年代別）



男女共同参画意識に関する市民アンケート

令和2年3月

稲沢市役所 市長公室 地域協働課

TEL : 0587-32-1146 (ダイヤルイン) FAX : 0587-23-1489